

令和 6 年 度

事業 報告 書

公益財団法人 東京動物園協会

目 次

第1 運 営 の 概 要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2 公 益 目 的 事 業	
I. 事 業 総 括 ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
〔1〕 管 理 施 設 ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
〔2〕 主 な 実 施 事 項 ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
II. 事 業 実 績 ・・・・・・・・・・・・・・・・	21
〔1〕 飼 育 ・ 展 示 事 業 ・・・・・・・・・・・・・・・・	21
〔2〕 野 生 生 物 保 全 事 業 ・・・・・・・・・・・・・・・・	39
〔3〕 教 育 普 及 事 業 ・・・・・・・・・・・・・・・・	41
〔4〕 市 民 ・ 団 体 と の 協 働 事 業 ・・・・・・・・・・・・・・・・	72
〔5〕 利 用 者 サ ー ビ ス ・・・・・・・・・・・・・・・・	81
〔6〕 安 全 ・ 安 心 の 確 保 ・・・・・・・・・・・・・・・・	88
〔7〕 受 託 業 務 ・・・・・・・・・・・・・・・・	92
第3 収 益 事 業	
I. 事 業 総 括 ・・・・・・・・・・・・・・・・	95
II. 事 業 実 績 ・・・・・・・・・・・・・・・・	96
〔1〕 便 益 施 設 の 経 営 ・・・・・・・・・・・・・・・・	96
〔2〕 そ の 他 の 事 業 ・・・・・・・・・・・・・・・・	98
第4 決 算 概 要 ・・・・・・・・・・・・・・・・	99
第5 事 務 報 告	
I. 役 員 会 議 の 開 催 ・・・・・・・・・・・・・・・・	100
II. 監 査 ・・・・・・・・・・・・・・・・	101
III. 人 事 関 係 ・・・・・・・・・・・・・・・・	102
IV. 組 織 概 要 ・・・・・・・・・・・・・・・・	105

第1 運 営 の 概 要

令和6年度は、上野動物園のジャイアントパンダ「リーリー」「シンシン」の返還が行われたほか、多摩動物公園の「コアラ来園40周年」及び「ライオンバス運行開始60周年」、葛西臨海水族園の開園35周年など、大きな節目を迎えた年でもあった。また、動物園・水族園におけるデザインの面白さや重要性を伝える4園連携の特設展「ようこそデザニャーレ」を井の頭自然文化園で開催し、4園の新たな魅力を発信した。こうした取組に加え、訪日外国人来園者の増加やコロナ禍で落ち込んでいた団体入園の回復などにより、令和6年度の年間入園者数は、4園合計で前年比約25万人増の約628万人となった。

一方で、危機管理の面では、昨年度に引き続き記録的な猛暑となったことから、ミスト装置やテントの設置に加え、園内でひと涼みできる「ひんやりZOOスポット」の積極的な広報等により、各園の暑熱対策を強化し、来園者・動物・職員の安全確保を図った。

さらに、令和5年2月に多摩動物公園において発生した高病原性鳥インフルエンザ感染事例の経験を踏まえ、ハード面・ソフト面における対策を強化したほか、発生園である多摩動物公園以外の3園においても「高病原性鳥インフルエンザ対策机上訓練」を実施し、万全の体制を整えた。

来園者・動物・職員にとって安全安心な動物園・水族園づくりをより一層推進し、協会の使命である「動物園及び水族園事業の発展振興」「人と動物の共存への貢献」のため、長年培ってきた技術・経験を土台とし、各園の個性を発揮して、我が国の動物園・水族館の先導役としての役割を果たすべく、以下5つの取組を積極的に展開した。

1 野生生物本来の生態や魅力を引き出す「動物の飼育・展示」

4園が緊密に連携し、展示動物の適正な飼育管理や展示の充実を図った。また、飼育技術の更なる向上に取り組むとともに、アニマルウェルフェア（動物福祉）に配慮した管理手法を推進することにより、人にも動物にも安全で魅力的な飼育展示を行った。さらに4園で得られた野生生物に関する知見を国内外の会議等で積極的に発表したほか、大学や研究機関との共同研究を進めるなど、高度な飼育技術の継承・向上に取り組んだ。

【主な取組】

- 飼育展示の更なる充実のほか、季節やトピックに合わせた特設展や企画展を積極的に展開
- 環境エンリッチメントの工夫などを通じてアニマルウェルフェア（動物福祉）に配慮した飼育管理、安全な健康管理や動物の自然な行動を引き出す取組 など

2 「第2次ブーストック計画」の対象種など希少種を中心とした「野生生物の保全」

「野生生物保全センター」を中心に4園が連携し、積極的かつ計画的に野生生物の保全活動を展開した。

また、「東京動物園協会野生生物保全基金」の運営を通じて、野生生物の生息域外での保全活動のみならず、生息域内での調査や保全を積極的に進める個人や団体の活動を幅広く支援した。

【主な取組】

- マヌルネコ、ライチョウ、インドサイ、アムールトラ、オオフラミンゴ、ニホンカモシカ、トウキョウサンショウウオ、トビハゼ、ウミガラスなど希少動物の繁殖
- 多摩動物公園が環境省から「希少種保全動植物園等」の認定を取得 など

3 多様なプログラムや情報発信による「教育普及」

「教育普及センター」を中心に4園が連携しながら、動物園や水族園ならではの教育普及活動を展開し、社会教育施設としての活動を推進するとともに、ウェブサイトや印刷物などの多様な媒体を活用し、都立動物園・水族園の魅力を広く発信した。また、友の会の運営やボランティア等との協働事業を通じ、動物園・水族園事業への都民や利用者の参画意識を促進した。

【主な取組】

- 「授業に活かせる動物園・水族園講座」や「動物園・水族園レポートチャレンジ」の実施、学校教員ヒアリング等を通じ、教育機関との連携を強化
- 動物や自然にちなんだ記念日等の特別な日に、4園が共通のテーマで情報発信や教育プログラムを実施
- 障害をもつ子ども達とその家族を対象にした「のんびり楽しむ動物園 水族園ドリームナイト&イブニング」を4園で開催 など

4 ホスピタリティあふれる「利用者サービス」や魅力的な商品の展開

入園券購入及び店舗におけるキャッシュレス対応を推進するとともに、先端技術を活用したサービスの拡充や暑熱期の熱中症対策による利用者満足度の更なる向上を図った。また、各園の企画展やイベントに合わせた魅力的なオリジナル商品の開発や快適な店舗環境の提供、接客力向上により多様な来園者の期待に応えるとともに、通信販売や園外での販売を強化した。

【主な取組】

- 「見どころデジタルマップ」への動物観察に役立つ情報の追加及びデジタルスタンプラリー機能を活用した4園周遊キャンペーンの実施
- 熱中症対策として、園内でひと涼みできる場所を「ひんやり ZOO スポット」として紹介
- 飼育係の監修によるオリジナルギフト商品・フード商品の販売 など

5 危機管理対策や万全な施設管理による「安全・安心の確保」

動物舎や樹木等の適切な点検・管理・補修を通じて良好な園内環境を確保するとともに、地震などの自然災害や無差別テロ等を想定した訓練を各園にて実施し、安全・安心の確保に努めた。

また、令和5年2月に多摩動物公園で発生した飼養鳥による高病原性鳥インフルエンザウイルス感染事例を踏まえて、国や東京都等の関係機関と連携しながら、対策を強化した。

【主な取組】

- 警察等と連携した自然災害及びテロ対策訓練の実施
- 施設、設備や樹木等の定常的な維持管理に加え、ナラ枯れ処理やベンチ座板補修などの緊急的な維持管理を実施
- 「鳥インフルエンザ対応マニュアル」に基づく机上訓練の実施及び補修工事による予防対策の強化 など

第2 公益目的事業

都立動物園・水族園4園の指定管理者として管理運営を行うとともに、動物園事業の発展・振興を図り、動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献することを目的に、動物飼育及び展示業務、野生生物保全業務、教育普及業務、市民・団体との協働に関する業務、利用者サービスに関する業務、安全・安心の確保に関する業務及び受託業務を実施した。

I. 事業総括

〔1〕管理施設

名 称	住 所	開園面積 (㎡)	摘 要
恩賜上野動物園	台東区上野公園、池之端三丁目	145,173.03	
多摩動物公園	日野市程久保六丁目、七丁目、 南平八丁目	602,513.37	うち無料開園区域 78,649.05㎡
葛西臨海水族園	江戸川区臨海町六丁目	85,958.90	
井の頭自然文化園	武蔵野市御殿山一丁目、 三鷹市井の頭四丁目	115,500.00	

〔2〕主な実施事項

1. 4園共通

【「地球環境保全行動戦略」の推進】

令和4年12月に都立動物園・水族園における地球環境保全に向けた率先行動の指針として「地球環境保全行動戦略」を策定し、公表した。この戦略に基づき、令和6年度は各事業分野にて4園の重要な役割である生物多様性保全の取組を強化した。園内の自然を活用したガイド等の実施や緑のカーテンの設置、剪定枝を飼料として活用する園内循環を積極的に進めるなど、施設運営自体にかかる地球環境への負荷を低減させる取組を推進した。

また、令和5年度の地球環境保全行動戦略に基づく実施状況報告を公式ホームページで公表するとともに、井の頭自然文化園の「ヤマネコ祭」や多摩動物公園の「コウノトリまつり」等へのブース出展を通じて、当協会の地球環境保全への取組を広く情報発信した。

【動物の飼育・展示】

展示動物の適正な飼育管理と魅力的な展示の充実に向け、4園間の密接な連携のもと、飼育展示業務を着実に実施した。また、飼育下でのトレーニングや各種エンリッチメントの実施、飼育環境整備など、アニマルウェルフェア（動物福祉）の向上に向けた取組を行った。高度な飼育繁殖技術の継承・向上を目指し、各園で教育普及・飼育展示研究会等を定期的に行開催したほか、若手職員を対象とした「エンリッチメント研修」を開催し、職員の意識啓発及びアニマルウェルフェア（動物福祉）の向上に資する取組の強化を図った。また、国内外の会議・学会・研究会等への積極的な参加を通じて各方面の専門家との人的・技術交流や最新の知識や技術の向上に努めた。

令和5年度より当協会内に設置した「アニマルウェルフェア委員会」では、各園及び他園館における様々な取組について情報共有を行ったほか、令和2年度に策定した「動物飼育展示に関する倫理・福祉ポリシー」の見直しを行い、新たに「アニマルウェルフェアに配慮した動物飼育展示等に関する基本方針」として改訂し、当協会ホームページで公表した。

【野生生物の保全】

国内外の諸機関と連携し、希少種の保全活動を推進した。都内ではアカハライモリの生息状況調査や繁殖環境の整備を行い、環境省等の保全事業に協力してライチョウ保護増殖事業と連携して実施した人工授精による繁殖やオガサワラカワラヒワの保護増殖事業にも取り組んだ。また、国際的な連携として、ブータン王国でのシロハラサギ保全活動に技術支援を行った。ミヤコカナヘビの生態研究やトキの栄養学的調査を基にした飼料開発を大学等と連携して進め、「保全シンポジウム 生物多様性保全の10年～動物園・水族館の挑戦と未来への展望～」を（公社）日本動物園水族館協会、環境省と共催で実施するなど、普及啓発活動にも力を入れた。野生生物保全センターでは、希少種の繁殖生理の解明や遺伝的多様性の調査を行い、精液の凍結保存や栄養改善研究も進めた。

「第2次ブーストック計画」では124種を対象に保全活動を推進し、インドサイが50年ぶりに自然繁殖するなど、36種の繁殖に成功した。多摩動物公園が「認定希少種保全動植物園等」に認定され、これにより4園すべてが認定を受けた。また、「東京動物園協会野生生物保全基金」では、野生生物の保全に取り組む個人・団体の支援を目的とした助成対象活動を公募し、助成金の交付を行うことにより、固有事業としての保全活動を推進した。

【教育普及】

教育普及センターを中心に4園の連携を一層強化し、多様な来園者を対象に、動物の魅力を体感し、危機的現状を理解し、地球環境保全のための行動変容へとつなげることを目的とした多彩な教育普及活動を展開した。

キーパーズトークやスポットガイドなど来園者が気軽に参加し、楽しく学べる定例の園内プログラムを強化するとともに、講演会やシンポジウムなど、対面だけでなくオンラインの活用も継続し、来園できない方も含め多くの方が参加できるよう配慮した。また、ふれあいプログラムについてはモルモットのストレス評価や利用者評価を継続し、アニマルウェルフェア（動物福祉）に配慮した形で実施した。

生物多様性や地球環境保全の重要性を伝える取組は、主に国際的な記念日にあわせて実施するとともに、外部出展やSNSを利用して保全の取組をより多くの方に伝えられるよう取り組んだ。

障害のあるこどもとご家族を招待する「のんびり楽しむ動物園水族園」や移動水族館活動、特

別支援学級向けプログラムでは専門家の研修や評価を継続し、改善へとつなげるとともに、新たにセンサリーマップやソーシャルストーリーの制作・公開などに取り組んだ。

学校教育との連携強化については、引き続き教員を対象とした各種プログラム、児童や生徒等を対象とした学習プログラム、学習補助教材の貸出し・提供等を行った。教科書研究や学校現場の状況を把握するための教員ヒアリングを継続し、教員とのネットワークを強化することで、協働での授業開発やパッケージ教材などの教材開発にも取り組んだ。

【利用者サービス】

利用者の多様なニーズにきめ細かく対応するため、入園券購入におけるキャッシュレス対応を引き続き推進した。また、令和3年6月から運用を開始した上野動物園内の混雑状況をホームページ上で知らせる「上野動物園混雑マップ」では、対象エリアを拡充することにより、利便性の向上を図った。

若手職員を中心に構成するサービス向上委員会では、引き続き外部有識者の意見を取り入れながらサービス向上策の検討を行い、訪日外国人向け媒体への記事掲載や新たなデジタルマップの試行、ターゲットを絞った動画の配信など、若手職員ならではのアイデアを取り入れた新規施策を実施した。また、4園の見どころを伝える「見どころデジタルマップ」では、動物観察に役立つ情報を追加したほか、4園周遊キャンペーンでは当協会の野生生物を守る取組を紹介した。

当協会の公式Instagramでは、各園の情報発信を行ったほか、広告機能やストーリーズ投稿を活用した各園のPRを実施し、積極的な情報発信に努めた。

収益部門においては、各園の展示や各種イベントと連携し、当協会独自のギフト商品やフードメニューの開発・販売を行った結果、売上高は去年の成績をさらに上回る結果となった。また、環境保護の取組の一環としてギフト商品ではFSC認証紙やオーガニックコットンを使用した商品を販売した。

フードメニューでは、食文化の継承や地域経済の活性化に資するため、地産地消のメニュー開発、提供を継続して行った。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

震災・テロ対策に関する職員の防災意識と知識向上のための防災マニュアル「東京Zoo防災」については、新規採用職員への配布及び研修を行うとともに、マニュアルの内容に基づき、全職員を対象にeラーニングを実施した。また、総務部及び各園にて震災時における初動対応訓練を行ったほか、警察・消防等の関係機関との連携のもと、4園でテロ対策訓練を開催し、基本的な対応手順について確認した。多摩動物公園では、チンパンジーが脱出した想定で「猛獣脱出対策訓練」を実施し、万が一に備えた連絡ルート・手順の確認や備品のチェックを行った。

施設管理については、日常の巡回点検や定期的な樹木点検等により、不具合を早期に発見し、迅速に対応することで安全で快適な観覧環境を確保した。また、園内での情報共有を通じて、事故を未然に防ぐための施設補修等を適切に実施した。

台風、集中豪雨、大雪等の自然災害に対しては、気象災害対策計画や雪害対策計画に基づき、迅速に緊急点検を実施し、不具合箇所や落枝等の早期発見・対応により、入園者への影響を未然に防いだ。

令和5年2月に多摩動物公園にて飼育鳥類に高病原性鳥インフルエンザが発生し、令和5年2月16日から4月9日まで臨時休園となったことを踏まえ、引き続きハード面・ソフト面双方からの対策強化を図った。上野動物園・葛西臨海水族園・井の頭自然文化園では「高病原性鳥インフルエンザ対策机上訓練」を実施し、園内で陽性事例が発生した場合に備えて、万全の体制を整えた。

2. 恩賜上野動物園

【動物の飼育・展示】

ジャイアントパンダでは、令和6年4月に中国ジャイアントパンダ保護研究センターの専門家を招いて実施した「リーリー（オス）」の全身麻酔による検査結果をもとに協議を行い、「現在は重篤な状況ではないが、現在の健康状態であるうちに中国へ帰国させ、生まれ育った環境で治療を受けさせることが望ましい」との結論に至った。そこで、「ジャイアントパンダ保護研究実施の協力に関する延長協定の補足協定書」に基づき、9月29日に「リーリー」と「シンシン（メス）」の2頭を返還した。

東園では、令和2年に誕生したアジアゾウの「アルン（オス）」の成長に伴い、母親のウタイと餌の競合などが見られるようになったことから、母子を分けての飼育展示を開始した。サル山改修工事に伴い飼育個体を仮設動物舎へ移動したため、サル山におけるニホンザルの展示は11月19日に終了した。

西園では、小獣館で3年ぶりにマヌルネコが出産し、3頭のこどもが成育した。さらに、小笠原諸島で保護されたオガサワラオオコウモリを45年ぶりに令和7年2月26日から展示した。走禽舎ではオオカンガルー2頭を令和7年1月27日に浜松市動物園へ移動し、当園における飼育展示を終了した。コビトカバは、以前から飼育していた「ナツメ（メス）」と繁殖用貸与により大阪市のニフレル(NIFREL)から来園した「モトモト（オス）」との間に令和7年3月14日、オスの仔1頭が誕生し、13年ぶりの繁殖に成功した。

両生爬虫類館では、天皇皇后両陛下が令和5年6月に当時のインドネシア大統領夫妻から贈呈されたアジアアロワナ（オス）を令和6年7月8日に受入れ、12月3日より展示を開始した。

子ども動物園すてっぷのしのばずラボでは、昨年度好評だった企画展「夏の昆虫展」をブラッシュアップし、身近な昆虫の展示のほか、職員による昆虫飼育観察日記や昆虫標本の展示などを行った。

【野生生物の保全】

ライチョウは、環境省保護増殖事業の域外保全事業計画に基づき、横浜市繁殖センター、富山市ファミリーパークと共同で人工採精・授精を行った。乗鞍岳の野生のライチョウから採取した精液を富山市ファミリーパークの飼育個体に人工授精し、2羽の孵化に成功した。野生のオスから採取した精液を用いて飼育下のメスの人工授精を行い、繁殖に成功した事例は国内初である。ルリカケスは、令和6年4月16日と令和7年3月21日に奄美大島から新たな繁殖用個体として合計4羽の雛を導入した。日本の鳥Ⅰでは、自然繁殖により4羽が孵化、成育し、(公社)日本動物園水族館協会の種管理計画に基づき、6羽を4園に搬出した(井の頭自然文化園(1羽)、豊橋総合動植物公園(1羽)、鹿児島市平川動物公園(2羽)、埼玉県こども動物自然公園(2羽)の計6羽)。

オガサワラカワラヒワの域外保全活動としては、飼育下繁殖の必要性が高まってきたことから、小笠原の現地飼育施設と共同で事前準備を行い、令和7年3月18日に父島内の飼育施設からオガサワラカワラヒワ1ペアを導入し、当園における飼育を開始した。

アカガシラカラスバトは、3月末日現在36羽を飼育している。光環境などの飼育環境要因の調査等を日本獣医生命科学大学との共同研究で継続実施した。ミヤコカナヘビは、平成29年10月に(公社)日本動物園水族館協会を通じて繁殖用個体14頭を導入し、順調に繁殖を継続している。しかし、野生復帰を目指して更なる繁殖が求められているため、新たに伊良部島から導入された新規ファウンダー20頭を令和6年7月21日に導入した。本種に関する共同研究は、当協会の野生生物保全センター及び、京都大学理学研究科動物行動学研究室、(一財)自然環境研究センターで実施している。

【教育普及】

年間を通じて、東京ズーネットやX（旧Twitter）による情報発信を他課と連携して行った。飼育動物や園内の植物、販売商品等、園内の最新ニュースを提供したほか、観察の視点を提供する「#オンラインで動物観察」をX（旧Twitter）にて配信し、より深い動物園の楽しみ方を伝えた。

地域事業との協働として、国際博物館の日にあわせ、国立科学博物館、東京国立博物館と講演会「上野の山で動物めぐり～ひとりでくらすか、みんなでくらすか～」を実施した。また、東京都美術館及び地域の医療機関と連携し、新しい試みとして軽度認知障害の方を対象とした「ミュージアム処方箋」の試行プログラムを子ども動物園すてっぷにて行った。その他、外部連携事業として、東京都歯科医師会、関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会、認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金と連携したイベントを開催した。7月に開催した障害のあるこどもとその家族を招待する「のんびり楽しむ動物園水族園 ドリームナイト&イブニング」では、動物の角の標本を実際に触ることのできるコーナーや手話通訳を導入してのキーパーズトーク、移動水族館車での展示などを実施した。事前募集時に配慮してほしいことの調査を行い、センサリーマップ等を用意して参加者がより安心して楽しめる環境を整えた。センサリーマップはその後、東京ズーネットにも掲載した。8月は開園時間延長イベント「真夏の夜の動物園」にて、動物の様々な「なぞ」を語る飼育係のトークセッションやパネルをめぐるウォークラリー、骨格標本の展示等を行った。「世界ゴリラの日」のイベントとして使用済み携帯電話とスマートフォンの回収ボックスの設置、「ゴリラの観察ビンゴ」の配布や、国内でゴリラを飼育している6つの園と協力したライブ配信「ライブ配信で見る、ゴリラたちの今」を実施した。また、小学3、4年生とその保護者を対象としたワークショップ「ゴリラクエスト～森の未来～」を開催した。9月のジャイアントパンダ2頭の中国返還に伴い企画展「リーリー&シンシンありがとう～約5000日分の感謝を込めて～」を開催し、オンラインによるリーリーとシンシンへのメッセージの募集や、飼育職員等からの寄せ書きの掲出、パネル展を行った。10月にはパンダの日記念企画として記念講演会「ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトの13年間を振り返って」を行い、2頭との思い出やその功績について歴代の飼育係が語った。講演会の紹介動画は公式YouTubeで放映した。11月の文化財ウィークには解説カードを配布し、天然記念物の動物ガイドと英語ガイドを開催した。1月は新年イベントとしてセルフガイド「ヘビスクラッチ」を配付し、両生爬虫類館に実際に展示されているヘビを観察しながらクイズを解いていく、セルフガイド形式のイベントを実施した。園長による新年あいさつ動画の放映と「獅子舞」の練り歩きを行った。

コロナ禍で休止していた「飼育係のおはなし」は通年のプログラムとして再開し、各入園門に新設したイベント案内看板や園内放送による告知を行った。また、特別企画として「餌から考える動物福祉～スマトラトラに皮付き鹿肉を与えてみる～」を2回開催し、トラに鹿肉を与える意義や背景について飼育係が解説した。

解説サインによる情報発信として、東園バードハウスにおける常設展示「はねのいろ・いろいろ」や日本の鳥Ⅰにおけるタンチョウ保護の取組を伝えるパネル展「タンチョウレスキュー展」を行った。教育普及センターや飼育展示課との連携によるゴリラとトラの住む森のサインの更新も進めている。

子ども動物園すてっぷでは、わくわくベースで一般向けの体験プログラム「モルモットとなかよし」とはじめてルームにおける「おたのしみ会」を定例イベントとして開催した。「モルモットとなかよし」は土日祝を除いた開園日（年始やイベント開催日、臨時休園日は除く）に180日間実施し、2,765組6,738名が参加した。動画によりモルモットの生態を紹介し、スタッフの手厚いサポートのもとモルモットを間近で観察したり、膝にのせたりして命のあたたかさを体感する動物介在教育プログラムとして軌道に乗るまでの経緯について、第29回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会にて口頭発表し

た。「おたのしみ会」は土日の午後に108回開催した。東京動物園ボランティアズとともにぬりえや絵本などを楽しむイベントに加え、四半期ごとにテーマがかわるハンズオンやフォトスポット、のぞき窓からみる標本や生態展示などを追加した結果、600組2,431名が参加した。

地域連携による「不忍池環境学習プログラム」は、鵜池に生息するカワウにスポットをあて、レクチャーと望遠鏡を使った観察を組み合わせたプログラムとして行った。このプログラムが完成するまでの経緯と、こどもたちからの感謝の手紙を分析することで得た学習効果の考察については、第65回日本動物園水族館教育研究会大牟田大会にて口頭発表した。

「うえのZOOスクール」では、いろいろな動物の頭骨や餌の触察から頭骨の造形と食性の関わりについて学ぶ「ホネ・ホネ たんけん隊」と、モルモットについて学ぶ「めざせ、モルモット博士」の2本のプログラムを実施した。視覚障害児クラスではモルモットだけでなくウサギやパンダマウスなど様々な動物を使用して五感による観察を重視した動物介在教育を行い、参加者から高い評価を得た。

【利用者サービス】

インバウンド需要の増加や、土日祝日の団体受入の再開などにより、土日祝日を中心に訪日外国人旅行者と団体などの来園者が増加し、年間入園者数は336万人を達成した。春と秋の行楽シーズンには各入園門の受入れ体制を整え、開園時間の繰り上げを行うなど柔軟に対応し、正門ではオンライン専用改札を拡充してスムーズな入園を実施した。

展示動物の観覧動線については、改善を加えながら丁寧な声掛けを行い、来園者サービスの向上に努めた。

ジャイアントパンダについては、4月16日から双子のシャオシャオとレイレイの分離展示に伴い、3箇所の観覧エリア（シャオシャオ、レイレイ（とシンシン※¹）、リーリー）の運用に変更した。リーリーは自由観覧制としたことで、待ち時間の短縮につながった。リーリーとシンシンの返還後は、観覧動線を一方通行とし、シャオシャオとレイレイを一度に観覧できるようにした。

8月30日のリーリーとシンシンの返還プレス発表以降は、最終観覧日の9月28日に向けて、2頭とも観覧できるよう、並んだ順にリーリーからシンシンへ、順番に案内した。観覧待ち時間は平日で60分以上、土日祝日で120～180分となったが、観覧者からは満足との評価をいただいた。

リーリーとシンシンの最終観覧日は開園1時間半前（午前8時）の時点で正門前、弁天門前の入園待機者があわせて2,000名に及んだため、午前8時20分にリーリーとシンシンの観覧受付を終了した。

夏の暑熱対策では、ジャイアントパンダ保護サポート基金を活用して、パンダ観覧待機列及びC放飼場の観覧エリアへの日よけテントの設置とメッシュテントや大型ミスト機を設置した。さらに、園内で涼める場所や動物の涼み方を紹介した「ひんやりZOOスポットでひと涼み」を作成し、パネルとゾーンネットで情報発信した。

新案内係事務所の供用開始に伴い、10月1日より東園出口が旧正門から正門横に戻り、来園者のJR上野駅へのアクセスの利便性が高まった。

※1 シンシンは基本的には非公開だったが、A放飼場に出ていた場合は観覧可能とした。

収益事業では、インバウンド需要や団体利用の回復を受けて、利用者満足度向上のため各店舗のメニューの充実や園内イベントに合わせた店舗展開を行うとともに、飼育展示係や教育普及係の協力を得て「伝える」取組を拡充した。

ギフト店では、令和6年6月23日にジャイアントパンダのシャオシャオとレイレイの「3歳記念商品」を発売した。8月には「世界ゾウの日」の企画として、上野動物園と多摩動物公園の教育普及係と共同で開発した、ぬりえ遊びを通じてアジアゾウとアフリカゾウの違いを楽しく学べる知育商品を

発売したほか、環境に配慮した素材を使用した商品を展開し、生息数が減少している野生生物のために私たちができること「できることから」をテーマとした店頭掲示などを行った。

フード店では、7月に規格外バナナを加工したアイスを使った「もったいないバナナアイスフロート」を発売し、フードロス削減活動に取り組んだ。8月には「世界ゾウの日」の企画として担当飼育係と協力して開発したオリジナルマシュマロ「アジアゾウのアルン」をあしらった「アルンの水浴びソーダ」、ライチョウが卵を温める様子を模したチョコデザート「ライチョウの巣チョコモンブラン」やカワウソの顔をモチーフにした肉まん「カワウソまん」など上野動物園ならではの商品を発売した。

10月～翌2月期間には「コウノトリ育むお米」を使用したメニューの提供を行い、動物園らしさを感じながら野生生物を取り巻く環境についても考えてもらう取組を行った。

また、ジャイアントパンダのリーリーとシンシンの返還プレス以降には、9月4日のTシャツ類の発売を皮切りに「ありがとう記念商品」をおよそ20種発売し、1か月間で約32,000点を販売した。

委託販売では、カスタムフォトブックやグッズ制作サービス「みんなつく」を活用し、ジャイアントパンダのリーリーとシンシンの写真を使用した「カスタムフォトグッズ」の販売を行った。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

危機管理対策では、高病原性鳥インフルエンザ対策として、一部鳥類の展示中止や展示舎変更、野鳥から飼育鳥類への感染を防ぐ防鳥ネットの設置、及び園内での発生を想定した机上訓練等、様々な取組を実施した。またスマートフォン、スマートウォッチを飼育現場に配布し、事故が発生した際に即座に危機を知らせる緊急通報システムを導入した。

震災対策としては、初動対応訓練、無差別殺傷対策訓練を警察・消防の協力を得て実施するとともに、安否確認・参集・無線等の各種訓練を行った。

その他、近年の猛暑について、来園者・動物・職員それぞれについて各種対策を実施した。

園内維持管理では、省エネ対策として園内施設のLED化の更新を推進するとともに、園内樹木の枝処理や剪定作業、鳥インフルエンザ及び害獣対策のひとつとしてフラミンゴ舎の外周ネットを新たに害獣対策用に開発したネットに更新した。利用者の快適性の向上と安全確保のため、バイソン舎前の観覧通路をはじめとする園路の不陸部分の舗装補修や東園藤棚の補修、東園ベンチの補修など様々な補修を行った。また、施設維持管理の一環として、ゾウ舎NO.2プールスクリーン補修整備・第二加圧ポンプ等の補修を行った。

3. 多摩動物公園

【動物の飼育・展示】

希少野生動物をはじめとする様々な動物の飼育展示・繁殖に努め、37年連続でのニホンコウノトリの孵化を始め、アムールトラ、ヨーロッパフラミンゴ、スイギュウ、チンパンジー、ライオン、サーバルなど様々な種の繁殖に成功した。特筆すべき点として、インドサイが50年ぶりに繁殖し、メス1頭が順調に成育している。一方、グレビーシマウマ（メス）、ゴールデンターキン（メス）、タイリクオオカミ（オス）などが死亡している。新たな繁殖・展示を目指すため、ヘクセンタンツプラッツ動物園（ドイツ）からタイリクオオカミ（オス）、台北市立動物園（台湾）からシセンレッサーパンダ（オス）を輸入した。また、海外の保全・飼育の取組に協力するため国立生態院（韓国）にナベコウ6羽、バトゥ シークレット動物園（インドネシア）にシセンレッサーパンダのオス2頭・キリンのメス2頭、ズリーン動物園（チェコ）にクロツラヘラサギ6羽を輸出した。国内においては、キリンやパラワンコクジャクの搬入・搬出、ヨーロッパフラミンゴ20羽の搬出、アフリカヘラサギ3羽の搬入、傷病保護されたクロツラヘラサギ2羽の受入などを実施した。

海外との連携協力として、エバーランド（韓国）からレッサーパンダ、ソウル大公園（韓国）からチンパンジーの飼育技術支援の要請を受け職員を派遣した。

アフリカゾウ（オス）の牙の空洞化に起因する細菌感染等を防ぐため、拔牙処置をアメリカの専門家グループを招き、多摩動物公園の獣医師・飼育係のほかに、国内の動物園の獣医師や飼育係、国内外の大学の協力を得て、総勢66名のスタッフで実施した。

昆虫園では、開園50周年記念事業（平成20年）の一環として策定された「身近な生き物復興計画」に基づき、園内の湧水を利用した園内「ホタルの流れ」でのゲンジホタルの定着を目指して活動している。6月には、外来植物駆除等の環境管理作業やカワニナ生息数等のモニタリングを協働している東京環境工科専門学校の環境整備実習の参加学生に向け観察会を初めて実施した。年々厳しさを増す暑熱対策のため、7月に食草栽培用ビニール温室に巻き取り式寒冷紗及び遮熱シートを設置した。そのほか園内の昆虫相を把握するため、7月から8月にかけて計4回セミの抜け殻調査を、9月に計2回鳴く虫夜間調査を実施した。

施設関連では、旧キリン舎跡地にシマウマ、オリックスなどを飼育展示する施設整備のほか、ソデグロヅル舎、カモ池で鳥インフルエンザ対策の施設改修が行われた。また、3月よりトキ展示ゾーン整備工事を開始した。昆虫園本館で令和5年度に発生した床上浸水事故によるエレベーターの故障については、10月11日に部品交換工事が完了し、翌12日から運用を再開した。また、当該事故の発生原因の一つである排水設備を含む本館1階水生昆虫飼育室内の飼育水槽棚給排水工事についても、10月11日に設置工事が完了した。

【野生生物の保全】

環境省の保護増殖事業に基づき佐渡トキ保護センターからの分散飼育を行っているトキは、自然繁殖により3ペアから計7羽を育成し（うち4羽は自然孵化）、佐渡トキ保護センターへ移送した。来年度以降の放鳥候補となる予定である。

国内の飼育下繁殖の拠点として継続して飼育・繁殖に取り組んでいるクロツラヘラサギでは、野外で保護された2羽を搬入した。1羽は福岡県で左足を骨折して県の傷病保護施設で飼育されていた個体で、右足の跗蹠関節より下を断脚し義足を装着した状態で来園し、もう1羽は沖縄県で左翼を骨折して保護され、沖縄こどもの国で飼育されていた個体を当園で繁殖した個体と交換した。今後、個体

群の遺伝的多様度の向上のために繁殖に取り組み、子孫を残すことが期待される。

アカガシラカラスバトは、平成30年以降自然繁殖が順調で遺伝的多様性を高めるため、野生からの保護個体を優先した繁殖に取り組んでいる。令和6年度に保護個体の収容はなかったが、令和5年度に保護され来園した個体が繁殖に成功し、個体群多様度の向上に貢献した。

ニホンコウノトリは、国内の飼育個体の遺伝的多様性を確保し、生息域外保全を適切に進めるため、有精卵2卵を韓国教員大学コウノトリ生態研究院から導入し、1卵が孵化し順調に巣立っている。有精卵の海外からの導入は初めてである。また、IPPM-OWS（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）と共催で2月1・2日に「コウノトリまつり2025」を開催した。

ブータン王立自然保護協会は、絶滅に瀕しているシロハラサギの保全プログラムに取り組んでおり、12月には（公社）日本動物園水族館協会とシロハラサギの域外保全の技術支援協力に関するMOU（覚書）を締結した。この取組の中で、多摩動物公園は、（公社）日本動物園水族館協会よりブータンへの技術指導依頼、また、王立自然保護協会からも直接の指導依頼を受け、現地への職員派遣を実施した。

韓国では、令和4年から韓国文化財庁、韓国環境省、韓国教員大学、国立生態院が昭和43年に地域個体群が絶滅したナベコウの保全に関する取組を開始した。多摩動物公園は、令和2年に「ナベコウ及びコウノトリの保全に関する了解覚書」を結び、韓国での野生復帰に資するためナベコウ6羽を提供するとともに、担当職員が同行し、飼育繁殖技術の指導を実施した。

【教育普及】

キーパーズトークや動物解説員のガイドツアー、体験プログラム「おしえて！モルモット博士！」などの定例イベントを年間を通じて実施した。新型コロナウイルス感染症対策の中で培ってきたオンライン技術は、遠方からの参加が可能であるなどの利点もあるため、一部のプログラムでは適宜オンラインを取り入れながら教育普及活動を行った。

今年度の教育普及活動において特筆すべき点を2つ挙げる。

①周年事業の実施

ライオンバス運行開始から60年目に当たる5月17日を中心に、飼育係のライオンバス乗車ガイド、乗車記念抽選会、記念カードの配布などのイベントを行った。また、京王電鉄動物園線も同じく60周年を迎えたことから、京王電鉄株式会社と共同でスタンプラリーや記念ヘッドマークの掲出を行った。秋には、コアラ来園40周年の10月25日を中心に、コアラ飼育の歴史を振り返るパネル展や、WWFジャパンより講師を招いての講演会、小学生親子向けのプログラムなど多数のイベントを実施した。

②企画展の充実

年間を通じて大小様々な企画展を開催した。夏に実施したカブトムシ展は、「カブトムシの成長すごろく ～完全変態する昆虫～」と題し、すごろくでカブトムシの生活環を紹介した。毎年実施している干支の企画展は、令和7年の干支がへび（巳）であることから、「ノックして巳（み）ない？へびの扉～先入観をすてて巳（み）て！～」を開催した。へびが好きな人も苦手な人も楽しめるように多角的な視点からへびについて紹介し、好評を得た。

そのほか、令和4年度から多摩動物公園の公式ウェブサイト上で公開している幼児向けオンラインコンテンツ「Kids and Zoo（キッズ アンド ズー）」は、新たにワークシート2点をリリースした。また、月刊の動物見どころ情報紙「TAMA NEWS」を発行した。

外部機関や企業との連携としては、第10回都立動物園アフリカフェアを実施したほか、日野市環境フェアへのブース出展、ららぽーと立川立飛での連携イベントなどを行った。

【利用者サービスの提供】

サバンナエリア工事の進行に応じて周辺園路の通行規制箇所が変更になり、また、工事車両通行のため園路幅がかなり狭くなる箇所もあったが、来園者が迷うことなく安全に通行できるよう、案内掲示に努めた。

収益部門では、「飼育の日」をはじめ、「ライオンバス運行開始 60 周年記念イベント」「世界チンパンジーの日」「コアラ来園 40 周年記念イベント」などの教育普及プログラムや、インドサイの誕生に関連したオリジナルグッズ・オリジナルメニューを販売した。また、ライオンバスの利便性向上施策として、WEB 上で確認できる空席状況案内とオンラインでの乗車券販売を開始した。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

令和 3 年度より急速に拡大したナラ枯れ被害の拡大対策として、園路や動物舎周辺のコナラの健全木に、あらかじめナラ枯れ防止剤を樹幹注入し、新規ナラ枯れ感染を予防した。また、ナラ枯れ被害に遭った樹木は、倒木や落枝による被害が発生する前に伐採作業を進め、来園者の安全・安心の確保につなげた。

経年劣化に伴い発生したアフリカゾウ展示場周辺やウォッチングセンター前の不陸の解消や、はやし広場やワシタカ広場など園内各広場の老朽化した野外卓の補修や更新を行い、来園者に安全かつ快適な環境を提供した。

危機管理対策としては、テロ対策訓練を 7 月に実施した。園内で事件が発生した際の情報共有体制の確認及び警察への速やかな通報、サスマタを使った実技研修を通じて来園者の安全確保の流れを確認した。12 月にはシャトルバス非常時対応訓練、1 月にはライオンバス非常時対応訓練を行い、乗客の安全な誘導方法等の対応手順を確認した。2 月には震災対策初動対応訓練を実施し、来園者避難誘導及び傷病者搬送等の対応に加え、自衛消防隊の放水手順の確認を含めた訓練とした。さらに同月には、猛獣脱出時の来園者避難誘導及び脱出動物の捕獲訓練を実施した。

4. 葛西臨海水族園

【動物の飼育・展示】

大洋の航海者エリアの「大洋の航海者マグロ」水槽では、5月にクロマグロの1歳魚を25尾追加し、安定した群れ展示を作り上げた。

国内で3例目となるワタゲクラゲが8月に江戸川放水路で確認され、9月より「浮遊生物」コーナーで展示した。

新水族園建設に伴い、5月20日より屋外の「水辺の自然」エリアを休止し、生物及び植物をバックヤードへ移動させた。その後、ミナミメダカやゼニタナゴ、ニホンアカガエルなどの生物の一部は、7月より「東京の海」エリアにおいて、3つの水槽を設置して展示を継続している。

令和5年より展示変更した「サンゴ礁の海」水槽は、令和6年9月に休止し、設備の拡充と擬岩改修を行い10月より再開した。新たに開発した採集地である鹿児島県西之表市で、12月にイシサンゴ類を200群体採集した。そのうちの140群体を活魚車で輸送して「サンゴ礁の海」水槽に追加し展示を充実させた。またその一部を繁殖センターにも収容し、新水族園の大型サンゴ水槽に向けた飼育データの収集を行っている。今回輸送しなかった60群体は西之表市の漁港内で蓄養しており、令和7年度前半に輸送予定である。

令和6年1月より改修工事のために休止していた「ペンギンの生態」は、工事を終えて11月より再開し、6園館へ預託していたフンボルトペンギン92羽を3月までに順次搬入した。「ペンギンの生態」休止に伴い、テントデッキ横の芝生部分でペンギン類を仮設展示していたが、展示再開にあわせて11月に終了した。

【野生生物の保全】

保全活動として、4園共同でアカハライモリやミナミメダカの調査を継続的に行っている。アカハライモリの保全活動では、6月と11月にフィールド調査を実施し、8月と1月の調査では引き続きタグリーダーアンテナを用いた陸上個体探索を行った。また、7月と8月に地元小学校の5年生を対象に授業を実施した。ミナミメダカでは、数が減って危機的な状況にあった葛飾区産個体群を積極的に繁殖させ約100尾まで繁殖させた。また、野生メダカの生息に関する情報が3件寄せられ、そのうちの1件は、すでに調査を実施済みの場所で遺伝子検査で他所からの混入が認められ、残りの2件についても、遺伝子検査の結果、他所からの混入が認められた。4園の普及啓発に使用しているリーフレットの情報を更新した改訂版を製作し、10月に第22回全国めだかシンポジウムに参加した際に配布した。

トビハゼ調査では、当園が事務局となり、東京湾内で調査研究を行っている8施設による「トビハゼ保全施設連絡会」を8月に開催した。フィールド調査では、7月に巣穴調査を実施し、10月に稚魚調査を実施した。また9月には、トビハゼ保全施設連絡会の協力により、観察会「トビハゼの調査地を訪ねる」を開催した。生息域外保全では、展示水槽内で繁殖に成功し、7月から8月にかけて、展示水槽内で5回稚魚が確認され、45尾育成させることができた。

東京産両生類の保全活動では、アカハライモリ、トウキョウサンショウウオ、ムカシツチガエルの産卵に成功し、卵の育成については、4園で構成する東京産両生類ワーキンググループの繁殖計画に従い、計画的な育成をしている。産卵した種のうちトウキョウサンショウウオについては、一部余剰個体を上野動物園へ移管した。

ゼニタナゴの保全では、4月に稚仔魚の浮出を確認し、7月までに194尾を育成することができた。

小笠原陸産貝類の保全では、環境省が進める小笠原陸産貝類保護増殖事業計画に参画し、小笠原陸産貝類ワーキンググループへの参加と4園のとりまとめを行うとともに、小笠原諸島における個体群再生に協力している。葛西では、環境省の小笠原世界遺産センターより昨年新たに導入したキノボリカタマイマイを計画的に繁殖させている。

ウミガラスの保全では、環境省がすすめるウミガラス保護増殖事業計画に参画し、ウミガラス保護増殖検討会に職員が検討委員として参加し、生息域内保全に協力している。

小笠原諸島で例年行っているユウゼン調査は、9月に兄島の調査区内で個体識別のための潜水調査を、1月に父島周辺海域の調査ステーションのうち6地点で生息密度と環境要因を調べるためのトランセクト調査及び兄島の調査区内で個体識別のための潜水調査を行った。ユウゼンの生息域外保全の取組としては、ペアの形成及び産卵まで確認できており、仔魚の育成にチャレンジした。

【教育普及】

10月に開園35周年を迎えるにあたり、「35th Anniversary ～これまでとこれから～」をキャッチコピーに、年間を通して各種記念イベントを実施した。8月と10月を除く毎月、35周年記念スペシャルガイドツアーを合計10回行った。5月と7月には「35周年記念企画 かさりんぬりえ ～サンゴしょうのいきものをぬってみよう！～」を合計2回実施した。そのほか、35周年記念ロゴマークをデザインしたエンボススタンプと台紙をレストラン前に設置した。

また、年間を通じてX(旧Twitter)で積極的に園の情報発信を行うとともに、YouTubeでの情報発信と連動させるなどの工夫をし、多様な情報発信を行った。

毎年継続しているイベントでは、6月には障害のあるこどもとそご家族をご招待する「のんびり楽しむ動物園水族園 ドリームナイト&イブニング」を実施した。

8月は、お盆期間中の指定日に開園時間を3時間延長し、開園中に水槽の照明を消して魚たちと一緒に夜を迎える「Night of Wonder——夜の不思議の水族園」を行った。

10月は葛西臨海水族園の開園記念日イベント「ALL ABOUT MAGURO 35th Anniversary」を実施し、マグロと他の魚を比べて学ぶ「くらべるマグロシート」の配布や「マグロ飼育担当によるスタッフトーク」を行い、情報資料室では「マグロのぞき」と題してマグログッズを展示したほか、葛西臨海水族園35年の歴史とマグロに関するYES or NOクイズ「マグロウルトラクイズ」やスペシャルガイドツアー「マグロ裏側探検」などを実施した。さらに、国立研究開発法人 水産研究・教育機構の協力を受けて、マグロの飼育の工夫や研究について紹介する「かさりんBASE! マグロ」を行った。

お正月は、新年イベント「水族園のお正月2025」を実施し、水族園の展示生物をテーマにしたおみくじ「開運・かさりんみくじ」や「おめでたい生き物」クイズシートを来園者に配布した。

2月には「Deep of Wonder——不思議な深海の生き物たち 2025」と題して、深海の魅力を伝える様々なプログラムを開催した。深海生物をテーマにした「深海トークショー」の実施やオリジナルの深海カードの配布などを行った。あわせて、国立研究開発法人 水産研究・教育機構の協力を得て、「深海」の世界を紹介する「かさりんBASE! 深海」を実施した。

3月には、開園35周年及び新水族園のオープンに向けたサンゴプロジェクトの一環としたイベント「かさりんBASE! サンゴ」を、国立研究開発法人 水産研究・教育機構の協力を受けて開催した。

こども向けの体験型プログラムは、「西なぎさ」でのフィールド観察を幼児向けの「進め! 海のいきものたち」、小学1・2年生向けの「いきものことはじめ」、小学3・4年生向けの「海のあそびや」、小学5・6年生向けの「集まれ! 汐っ子たち」で各2回実施した。

フィールド観察プログラム「東京の海を知る」では、「東京の海の幸を釣る・食べる」を9月に実施

した。

高校生・大学生向けの「海の学び舎」は、ハイブリッド形式で2回実施した。12月に「その魚はどこから来て何を食べていたのか?——魚の一生を追いかける」、2月に「サンゴ産卵の同調機構を考える」をそれぞれ実施し、オンラインでは全国各地から参加があった。

学校との連携では、実地での団体プログラムを実施し、未就学児から大学生まで合計246件14,770名に対して実施した。実地開催を行いつつオンラインでの遠隔団体プログラムの受入も継続し、合計8件488名に対して実施した。また博物館実習は10名受け入れた。

一般向けの講演会は、対面とZoom併用のハイブリッド形式で合計3回実施した。

11月には、講演会「つどえ、オロロヘン!」を、パートナーシップ協定を結んでいる北海道羽幌町との共催により実施した。あわせて、海鳥に関する保全や研究の最新情報について紹介する「かさりんBASE!海鳥」も実施した。2月にはトークイベント「新たな魚のエサについて考える」と身近な水辺保全講演会「知って守ろう水辺の生き物」を、それぞれ実施した。

特設展示「イキモノマデカ」では、自由観覧のほかに1日2回の解説プログラムを実施し、合計616回5,136名に対して実施した。

移動水族館事業は、標本等の教材を使用したプログラムを再開している。水槽周辺の消毒を定期的に行うなど、引き続き感染症防止対策を行いながら実施した。障害等のために来園することが難しい特別支援学校や社会福祉施設などの利用者を対象に、合計53回実施した。

【利用者サービス】

新水族園工事が始まり、水辺の自然エリア一帯が閉鎖となったことによる退園ルート変更に対応するため、園内案内図を更新した。新しい園内案内図では、特にエレベーター利用者への動線を分かりやすくする工夫をした。

多様な来園者を迎えるための取組として、全ての来園者が楽しめる場を目指し、インクルーシブの考え方を基に案内接客スタッフのホスピタリティ向上を図るため、外国人来園者への対応力向上として「英会話講習」を年12回実施したほか、高齢者や障害者への理解を深め、適切なサポート方法を学ぶ「ユニバーサルマナー研修」を実施した。

夏季における園内サービスとして、無料休憩所において、遮熱・遮光を目的としたつる性植物（西洋アサガオやトケイソウ）による緑陰の創出を継続したほか、輻射熱対策としてミスト扇風機の導入（正門、レストハウス、ペンギンテラス）や館内に冷風機の設置など、涼感の演出による入園者向けサービスを継続実施した。

収益部門では、地球環境保全行動戦略に基づきギフトショップやレストランのスタッフユニフォームを、一部廃漁網を再利用して作られたものに変更した。

開園35周年事業として、レストランでは過去に人気だったメニューを再販売した。ギフトショップでは35周年記念ロゴマークをデザインしたトートバッグやTシャツを発売した。さらに、レストランでは東京都島しょ部産の食材を使用し、伊豆大島漁業協同組合と協力して「ウツボとカツオのハンバーグ」を開発・販売した。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

経年劣化による機器故障の補修や配管類の破損部の修繕を行うとともに、予防保全として不具合発生前の改修や快適性向上のため、屋外路面・壁面の補修、屋内天井の張替えやベンチ塗装など、約130件の工事や修繕などを実施し、設備の適切な運用に努めた。

園内樹木植栽は、植樹から30余年が経過し育成から成熟の時期を迎えたことにより、樹形を考慮しながら剪定や新水族園の工事エリアからの一部植物の移植を行い、健全な生育と自然環境の創出、保全を行った。

危機管理対策としては、大規模災害相互救援に関する広域連携基本協定の締結先である新潟市水族館マリニピア日本海、名古屋港水族館と11月に名古屋港水族館で実施した大規模避難訓練にあわせて実務者会議を行い、大地震や津波に備えた防災に関する情報交換を行った。12月には、当園で初めて大地震発生後の津波警報発令想定のもと初動対応訓練を実施し、津波警報発令時の対応について整理し、初動対応計画を改定した。

テロ対策に関する職員の意識及び対応力の向上を目的として、葛西警察署及び警視庁、隣接する公園と連携したテロ対処合同訓練を実施した。警察指導のもとサスマタの実技講習及び爆発物に関する講習会を実施したほか、テロ予告後に不審物を園内で発見した際の対応について訓練を通して確認した。

感染症防止対策として、手指消毒液を園内各所に設置したほか、高病原性鳥インフルエンザ対策として、一般来園者が利用するゲート棟及び関係者通用口への消毒マットの設置や入場車両への消毒液噴霧、野鳥飛来防止のため園内池の落水など様々な取組を実施した。また、高病原性鳥インフルエンザに罹患した飼育個体発生時の備えとして机上訓練を行い、具体的な対応手順を確認した。

5. 井の頭自然文化園

【動物の飼育・展示】

動物園（本園）では4月19日にルリカケスの展示を開始した。上野動物園で繁殖したメスの個体で当園では初の展示となった。また、日本固有種であるテン（ニホンテン）の亜種、ツシマテンが6月12日に来園し、7月2日から展示された。当園では以前よりホンドテンを展示しており、今回のツシマテンの展示により、二つの亜種を見比べることができるようになった。

コシジロヤマドリ的人工繁殖に取り組み、5月12日に2羽孵化した。その後、メスの1羽が成育し展示することができた。

令和4年度から毎年繁殖が続いていたニホンカモシカについては、6月21日にオス1頭が誕生し、3年連続の繁殖となった。一時的に両親2頭と昨年度に生まれたメスの仔と計4頭の展示になり、来園者の人気を集めた。その後、昨年度生まれのメス個体は11月に横浜市立金沢動物園へ搬出した。

保護收容され、野生に帰すことができないウグイスやカワラヒワ、ウソ、ホオジロなどの10種約20羽を引き受けた。順次、展示していき野鳥の森が賑やかになった。

外放飼場のネットが2月5日の雪害によって壊れ、外放飼場での展示を中止していたミーアキャットは、ネットの再建により7月9日から展示を再開した。そのほか、サポーター資金を使用して、カワウソの巣穴の改修やテンやハクビシンの展示場への植栽の追加を行った。

水生物園（分園）では、水鳥類の繁殖に取り組み、オシドリ6羽、ヨシガモ3羽（内人工育雛1羽）、コールドック2羽（人工育雛）、カリガネ1羽、サカツラガン2羽を成育した。また、井の頭では初めてコサギ2羽を人工育雛で育成することができ、このときに得た知見はシロハラサギの保全プロジェクトに役立てることができた。4月3日にコウノトリが死亡し、本種の展示が休止となったが、12月18日に多摩動物公園よりオス1羽を移管して展示再開することができた。

高病原性鳥インフルエンザ対策では、全ての禽舎屋根の遮光ネット又はポリエチレンラッセルネットの設置を継続するとともに、西池放飼場内に有事に安全に收容できる禽舎を新たに設置した。

コールドック舎で害獣による食害事故が発生したため、令和7年度に全面金網にする改修工事を予定している。

水生物館では、雌雄で飼育展示して昨年度4羽繁殖したカイツブリが、昨年度に続き9月に2羽繁殖し、水槽内で子育てする様子を展示することができた。特設展示では、アメリカザリガニをテーマにしたものなど、2回の特設展示を実施した。また、観覧通路の空きスペースに、水槽での生体展示と標本や資料が展示できる棚をセットにした「トピック展示」を新設し、アカハライモリの上陸幼体やアメリカザリガニの親子など、常設展示では扱いづらい生体を解説や資料とともに展示した。

【野生生物の保全】

当園は、環境省と（公社）日本動物園水族館協会が共同で進める「ツシマヤマネコの保護増殖事業」に参画し、アムールヤマネコでの人工授精の成功を受け、同事業において「人工繁殖推進施設」と位置付けられている。平成27年度から令和2年度まで毎年、ツシマヤマネコの人工授精を実施してきたが、未だ妊娠・出産に至っていない。令和5年度にアムールヤマネコで人工授精を実施したが妊娠には至らなかったため、本年度は人工授精手法を検討し子宮頸管を内視鏡で通過できるかどうか検証を行った。また、オキシトシンの投与の有無で採精結果に影響があるかどうかについても検証した。

平成29年度から小笠原諸島父島に生息する陸産貝類（カタツムリ類）の絶滅危惧種であるカタマイマイの生息域外保全を開始し、平成30年6月に初めて産卵を確認した。今年度は通常飼育温度の24℃

より低い20℃の低温飼育試験が終了した。昨年度は計画により実施しなかった繁殖を本年度は再開させ、稚貝を得た。

また、(公社)日本動物園水族館協会と環境省との間で締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づくトゲネズミ類の生息域外保全等推進事業に協力し、令和2年7月にアマミトゲネズミのオス6頭、メス4頭を受け入れて、飼育を開始した(非公開)。昨年度に引き続き、令和7年1月13日と2月12日に出産を確認し、このうちオス2頭とメス2頭が成育中である。なお、当園では、繁殖適齢期を過ぎた個体による繁殖可能日齢調査を行っているが、この繁殖によりオス個体の最高齢繁殖記録を大幅に更新した。同事業において策定した「令和6年度アマミトゲネズミ移動・繁殖計画」に基づき、令和7年1月から3月の間に各協力園館と個体の移動を行った。ほかに、4月8日にメスが1頭死亡している。今後もペアリングを進めて、繁殖を目指していく。

域内保全活動として、4園共同でアカハライモリの調査を継続的に行っている。6月と11月に2回の調査を実施し、個体数の推定や新規個体の確認、マイクロチップの挿入など生息状況のモニタリングを行った。陸上個体の探索では、1個体のみの確認に留まり、陸上での生態解明には依然として課題が残っている。調査地の管理において、調査地の管理者及びボランティアと連携し、渇水対策としてため池の整備を行った。

淡水魚類については、(公社)日本動物園水族館協会の種保存事業に協力し、ミヤコタナゴ、ムサシトミヨ、シナイモツゴの域外保全に取り組んでいる。また、ミヤコタナゴの保全について新たに解説パネルを作成し、展示水槽の脇に設置して普及啓発に努めた。

東京産両生類では、アカハライモリ、トウキョウサンショウウオ、アズマヒキガエル、ニホンアカガエル、ムカシツチガエルで産卵が見られた。育成については4園で構成する東京産両生類ワーキンググループの繁殖計画に従い、計画的な育成に取り組んでいる。

【教育普及】

前年度に引き続き、様々な教育普及プログラムを実施した。

①定例イベント

展示動物の見どころや生態を伝える「動物解説員のガイドツアー」、飼育係が担当動物について解説を行う「飼育係のいきものガイド」、身近ないきものを探して観察する「いきもの広場であそぼう!」、東京動物園ボランティアーズによるガイドなど実施した。7～8月は猛暑対策のために屋外イベントを中止することがあった。

②飼育動物やフィールドを活用した特別プログラム

外部講師による「身近ないきもの探検」を2回、動物解説員と一緒に展示動物や井の頭池の野鳥を観察する「文化園いきものクラブ」を4回開催した。9月には友の会会員向けに「茅野市運動公園ニホンリス観察会」を開催し、3月には友の会ジュニア会員向けに「ニホンリス観察会」も開催した。

③資料館の特設展

令和6年3月から令和7年1月まで、特設展「ようこそデザニャーレー東京どうぶつえん すいぞくえんデザイン室」を開催した。この企画は3園の都立動物園水族園のインハウスデザイナーと教育普及センターが協力して企画運営しており、デザイン関連の過去の制作物を多数展示した。当初9月までの開催だったが好評のため翌1月まで会期を延長した。7月にピクトサインを作る親子向けワークショップを開催し、会期終了後の2月にインハウスデザイナーによるクロージング・トークも開催した。動物園・水族園のデザインの面白さや工夫について多くの人に伝えることができた。

令和7年3月から「アマミトゲネズミ」の一般公開にあわせて特設展「アマミトゲネズミがやって

きた！奄美の森のちいさないきもの」を開催した。剥製や解説パネルの展示を通じてアマミトゲネズミの生態や野生の状況、動物園の取組について紹介した。

④水生物館の特設展

4月から10月まで特設展「身近な外来生物 アメリカザリガニ」を開催し、アメリカザリガニをめぐる環境問題や井の頭池との関わりなどを紹介した。11月から特設展「井の頭池の変遷と水生物館」を開催し、井の頭池と水生物館のこれまでの歩みを紹介した。

⑤野生動物の保全に関する普及啓発イベント

4月にルリカケスが上野動物園から来園したため、ルリカケスとアカガシラカラスバトなど日本産の希少鳥類についてもボランティアによるガイドを秋から開始した。例年10月に開催している「ヤマネコ祭」は「島にすむ生きものたち」とテーマを決め、ヤマネコの保護団体に加えて対馬で活動している日本アジアカワウソ保全協会と奄美大島の奄美市/奄美市博物館、小笠原で保全を行う（一財）自然環境研究センターを招致し、島嶼部に生息する野生生物の普及啓発活動として規模を拡大した。

⑥講演会

10月に開催したツシマヤマネコ保全講演会「動物園と生息地をつなぐ」では、環境省対馬自然保護官事務所の谷口晃基氏を招きツシマヤマネコ野生順化ステーションにおける野生復帰技術開発について講演いただいた。3月には世界湿地の日イベントとして身近な水辺保全講演&観察会「これからもずっと あなたのとなりのヒキガエル」を開催し、東京農工大学の岩井紀子准教授を招きヒキガエルを取り巻く環境の変化や水辺の保全について講演いただくとともに、ヒキガエルの卵塊や成体の観察も行った。

⑦地域連携企画

地域連携活動として、4月にキラリナ吉祥寺開業10周年企画「キラリなアニバーサリーウィークス」へ出展、8月に武蔵野市エコreゾートワークショップに参加、9月に「第33回三鷹国際交流フェスティバル」に出展、12月に三鷹ネットワーク大学で講演を行うなど地域住民への動物園事業の周知に努めた。日本獣医生命科学大学の実習など地域の学校団体の受入も積極的に行った。

⑧彫刻園

今年度から新しい彫刻園学芸員が配属になった。8月に開催した親子向け工作プログラム「ねんど涼み Myマイマイつくっちゃおう！」は、参加者自身がマイマイの形を粘土で作る創作型ワークショップとして好評を得た。また夜間開園や新年イベントで彫刻館学芸員によるトークイベントやガイドツアーも実施した。1月には武蔵野美術大学芸術文化学科とのコラボレーション企画『ムサビ芸文 in 井の頭自然文化園 生活のなかのかたち』を開催し、展覧会「生活のなかのかたち」やワークショップ「つなげて！ 木のかげら」などを共同開催した。また、令和6年は北村西望氏の生誕140年目であったため、7月に島原市にデッサン画を、8月に北区にブロンズ彫刻の貸出を行った。

【利用者サービス】

最繁忙時期であるゴールデンウィーク期間中の利用促進と混雑緩和のため、ホームページを通じて期間中の開園スケジュール、見どころ、オンラインチケット利用促進などについて情報発信を行った。

開園以来の累計入園者数6,000万人を5月14日に達成した。この日前後の達成を事前に予測し、5月1日から5月10日まで、当園のX（旧Twitter）で開園以来の歴史を振り返るカウントダウンポストを実施した。また、5月18・19日の開園記念イベントでは、6,000万人達成を記念するとともに来園者に謝意をお伝えするため、限定デザインの記念ステッカーを配布した。

11月8日、9日は恒例の秋の開園3時間延長「ちょっとおでかけ 秋の夜長の自然文化園」を開催、

令和5年度に続き、夜ならではの動物ガイドなど催し物を充実させた。令和6年度から、10月のヤマネコ祭と実施月を離すとともに、比較的台風の影響を受けにくい11月初旬に開催時期を変更して実施した。利用促進に向けて、新たに吉祥寺駅構内にある幅約14メートルの大型サイネージ（京王吉祥寺駅K-DGバナー）への動画広告掲出、地域情報紙（リビングむさしの）への広告掲出を行うとともに、引き続きInstagram等のSNSを活用した広告宣伝や情報発信を展開した。多くの来園者が夜間開園を目当てに訪れ、16時以降の延長時間帯入園率は前年比1.3%増、来園者へのアンケートでは98.6%の方より満足いただいたとの回答が得られ、前年比0.5%増であった。

案内接客スタッフの接客力向上のため各種研修を実施した。英会話講習については、令和5年度に続き、ネイティブスピーカーの講師によるディスカッション形式の研修を年7回実施した。また、コミュニケーション向上研修では、サービス向上の基盤となる円滑な職場内コミュニケーションを踏まえ、多様な来園者へのサービス提供に向けてダイバーシティとインクルージョンについても学んだ。

ギフト&フードショップ「こもれび」とフードショップ「はな子カフェ」では、当園らしいデザインを活かしたオリジナル商品や、特設展「ようこそデザニャーレ」に合わせたインハウスデザイナーによる商品を展開した。また、フード商品に季節に応じたオリジナルメニューを積極的に導入し、訪れる楽しさを提供した。さらに、環境保護に配慮した商品展開の一環として、ツシマヤマネコの保全活動と連携し、夜間開園イベントにおいて原材料に対馬産の米と柚子を含むクラフトビールを販売した。ギフト商品としては「ヤマネコ米」や「対馬紅茶」など、環境への配慮と地域貢献に資する商品も提供した。そのほか、繁忙日にはケータリングカーを活用し、来園者の状況に応じた柔軟かつ効率的な店舗運営を行った。

その他の施策として、来園者の暑熱対策強化とサービス向上に向けて可動式オーニング(リパーロ)を、リスの小径入口前を含め、園内に2基設置した。また、年度末の桜花期から令和7年度以降の利用促進に向けて、親子目線での新規イメージ動画を作成、公式ホームページや都内各所のサイネージ広告などで公開した。

観覧環境の改善として、ヤクシカ前の老朽化したデッキ部や未舗装部分をウッドチップ舗装に改修、日本庭園の落葉や土砂で埋もれた枯山水を補修及び園路の整備、分園の水辺の小道の土舗装改修などを行い、水たまりや段差を無くして快適な観覧環境を造成した。また、老朽化していたモルモットのふれあいコーナーのカーテンやオオコウモリ舎の日よけシートを交換した。

来園者に安心して休んでいただけるように、経年劣化したベンチや野外卓を点検し、不具合のあったものを適宜補修した。

花木の植栽管理として、桜、藤、シャクナゲ、椿、山野草など、季節を彩る花の充実を図り、来園者に楽しんでいただけるように日々の管理を行った。さらに園内の植物の見どころを紹介する「花ごよみ」及び花の動画を配信して文化園の魅力発信に努めた。

年末・年始の飾りつけや、雪吊の製作、園内の植物素材を用いた時節の飾りつけなどを行い、来園者に楽しんでいただいた。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

来園者及び園外周沿道の歩行者、通行車両の安全・安心確保のため、日々の巡回点検により支障枝・腐朽枝等を早期に発見し処理に努めるほか、大径樹木については高所作業車による支障枝等の撤去作業を実施した。また、分園の高圧引込開閉器が耐用年数となったため交換し、園内電気設備の安全を確保した。

Ⅱ. 事業実績

〔１〕飼育・展示事業

１. 展示動物の収集・管理

（１）動物収集業務

国内外の飼育動物の情報収集に努め、動物交換、贈与、共同繁殖のための動物貸借（BL：ブリーディングローン）等により動物の導入を積極的に行った。

【主な収集動物】

園 名	種 名	数量	区分	摘 要
上 野	シロテテナガザル	1	借受	宇都宮動物園
	オガサワラカワラヒワ	2	その他	東京都環境局（保護増殖事業） 小笠原より搬入
	アカヒゲ	1	贈与	環境省沖縄奄美自然環境事務所
	アジアアロワナ	1	贈与	インドネシア海洋水産省
	ミヤコカナヘビ（伊良部島個体群）	20	その他	環境省（保護増殖事業）
多 摩	シセンレッサーパンダ	1	借受	台北市立動物園
	アフリカヘラサギ	3	その他	恩賜上野動物園
	クロツラヘラサギ	1	贈与	福岡県
	クロツラヘラサギ	1	交換	沖縄こどもの国
	ヨーロッパオオカミ	1	交換	ドイツ・ヘクセンタンツプ ラッツ動物園
葛 西	クロマグロ（一歳魚）	25	購入	伊豆中央水産
	スマ	73	購入	池上水産
	ダーウィンジョーフィッシュ	10	購入	伊豆中央水産
	キンメダイ	25	採集	松栄丸（千葉県館山市）
	サンゴ類	186	採集	鹿児島県西之表市（数量は 群体）
井の頭	ツシマテン	1	贈与	長崎県対馬振興局
	アマミトゲネズミ	3	借受	環境省
	アヒル（コールダック）	2	贈与	札幌市円山動物園
	ニホンコウノトリ	1	その他	多摩動物公園
	ルリカケス	1	その他	恩賜上野動物園

（２）動物管理業務

動物台帳の管理を適正に行ったほか、国内外における希少種血統登録への参画や約100カ国で1,200以上の動物園水族館等が加盟するSpecies360（旧称：国際種情報システム機構）の会員として、動物情報管理システム（ZIMS）を用いて世界中の園館と動物情報を共有する等、適切な個体群管理に取り組んでいる。

【展示動物飼育数】（令和7年3月31日現在）

園名	類	目	科	種	点	備 考
上 野	哺 乳 類	17	54	88	1,046	
	鳥 類	20	46	97	513	
	は 虫 類	4	28	66	263	
	両 生 類	2	14	27	394	
	魚 類	7	7	7	133	
	無 脊 椎 動 物	4	5	7	56	
	計	54	154	292	2,405	
多 摩	哺 乳 類	10	27	53	495	
	鳥 類	16	22	77	859	
	は 虫 類	1	4	5	25	
	両 生 類	2	5	7	93	
	魚 類	1	1	5	9	
	無 脊 椎 動 物	22	47	95	14,750	シロアリ目及びアリ目の社会性 昆虫2科3種7群含む
	計	52	106	242	16,231	
葛 西	哺 乳 類	0	0	0	0	
	鳥 類	2	2	6	246	
	は 虫 類	1	1	2	12	
	両 生 類	2	6	7	223	
	魚 類	23	114	457	13,046	
	無 脊 椎 動 物	71	181	499	26,291	
	計	99	304	971	39,818	
井の頭	哺 乳 類	6	15	28	358	
	鳥 類	12	22	60	270	
	は 虫 類	2	6	8	27	
	両 生 類	2	7	10	473	
	魚 類	7	12	39	1,743	
	無 脊 椎 動 物	6	13	16	419	
	計	35	75	161	3,290	
合 計					61,744	

2. 飼育展示・調査研究

(1) 日常飼育業務

動物の健康と飼育環境管理を適正に行い繁殖に努めるとともに、創意工夫により動物の特性を引き出すための展示改善やエンリッチメントを積極的に行った。

① 主な繁殖動物

園名	動物名	出産・孵化数				備考
		オス	メス	不明	計	
上野	ワオキツネザル		1		1	
	コビトカバ	1			1	
	マヌルネコ	1	2		3	
	ライチョウ	2	4		6	
	ルリカケス	1	3		4	
多摩	アムールトラ	1			1	5年ぶりの繁殖
	ニホンコウノトリ	1			1	韓国から輸入した有精卵から繁殖
	ヨーロッパフラミンゴ	10	10	3	23	5年ぶりの繁殖 4羽死亡
	アジアスイギュウ		1		1	38年ぶりの繁殖
	インドサイ		1		1	50年ぶりの繁殖
葛西	ミナミイワトビペンギン	4	4		8	♀2死亡
	ウミガラス	1	1		2	
	フェアリーペンギン			6	6	不明1死亡
	フンボルトペンギン		1	2	3	不明2死亡
	エトピリカ			2	2	不明2死亡
井の頭	コシジロヤマドリ	1	1	0	2	1死亡
	ニホンカモシカ	1	0	0	1	
	アマミトゲネズミ	2	2	0	4	
	コサギ	2	1	3	6	4死亡
	クロツラヘラサギ	0	1	1	2	2死亡

② 主な展示改善

園 名	主な展示改善の件名	内 容
上 野 動 物 園 合計19件	コビトマンガースの新展示	四方がガラス窓、天井部分が開放状態になっている新たな展示室に移したことにより、来園者がどの角度からでも観察しやすく、動物の声やにおいを感じることができるよう改善された。また、複数の巣箱や麻袋等で動物が安心できる場所を確保するとともに多様な環境をつくり、様々な行動が観察されるようになった。
	ジャイアントパンダの電柵位置変更	放飼場Cの電柵の位置を調整し、広い放飼場と植栽帯を利用可能にした。これにより、自然に近い環境のパンダを観覧できるようになった。
	はじめてルームでのヒキガエル展示	はじめてルームで新たにヒキガエルの展示を開始し、水槽の下にカエル関係の絵本を並べた。おたのしみ会に参加したこどもたちが、絵本に出てくる身近なカエルと実物を並べて見られるよう工夫した。
多 摩 動 物 公 園 合計11件	ヤケイ舎	動物舎周辺の植栽を改善し、果実を主食としている鳥類（アオバト・ソデグロバト・カラスバト等）の飼料として活用できるブルーベリーの植樹を行った。
	平原モウコノウマ舎	家畜馬を収容後に、馬型の「馬はお部屋にいます」の案内看板を放飼場に設置。
	ムササビ	ムササビ舎内の巣穴にカメラを設置し、モニター越しに来園者が見られるように設置した。
葛 西 臨 海 水 族 園 合計 8 件	目の前の渚	地曳網調査結果をタイムリーに反映した解説ラベルを設置することで、来園者が展示生物や西なぎさの状況を理解しやすくした
	ペンギン仮設展示	夏季のペンギン類についての解説を設置して、温帯ペンギンについてわかりやすく解説した
	サンゴ礁の海	展示変更後の生物の状況などを解説パネルでタイムリーに掲示した
井の頭自然文化園 合計13件	アマミトゲネズミの新規展示	生物多様性保全の推進に関する基本協定に基づき、非公開施設で飼育管理していたアマミトゲネズミを3月18日より資料館1階で展示を開始した。展示場にはアマミトゲネズミの特徴や野生の生息数減少の理由、保全の取組について分かりやすくまとめた解説サインを掲示した。

園 名	主な展示改善の件名	内 容
	家畜舎餌台の設置	家畜舎に木製の餌台を新規に設置した。これにより来園者がより近くで採食の様子を観察することができるようになった。
	水生物園トピック展示	水生物館観覧エリアの空きスペースに、新たに調温可能なユニット水槽と、水槽で展示する生体の資料などが置ける棚を設置したことで、いろいろな視点での情報発信が可能となった。

③ 主なエンリッチメント

園 名	主なエンリッチメントの件名	内 容
上 野 動 物 園 合計129件	ゴリラ	野生ゴリラのシロアリ採食行動を引き出すフィーダー：野生のゴリラはシロアリの巣を破壊し、破片を片手で振ってもう片方の手で落ちてきたシロアリを受けて食べる。これと同じ行動を引き出すフィーダーを作成し、同様の行動が引き出され、採食時間の延長にも貢献した。
	スマトラトラ	採食エンリッチメント(毛皮付き鹿肉)：正肉2Kgを与えた時は10分弱の採食時間であるのに対して、同量の鹿肉を与えた場合には約20分と増加を確認した。採食行動は、「毛皮を口で剥ぐ」「前肢で鹿肉を押さえる」「骨から肉を噛みちぎる」などが確認され、レパトリーが増加した。
	コビトカバ	肢にできる皸を予防しアニマルウェルフェアを向上させる目的で、プールの水温調節の時期、空気の加湿、皮膚の保湿と血行促進のためのマッサージを実施した。
多 摩 動 物 公 園 合計117件	アジアゾウ	タイヤで作成したボールを遊具として入れた。蹴とばしたりして遊べるほか、中に餌を入れてフィーダーとしても使用した。
	タイリクオオカミ	藁ボールや大王松を遊具として与えた。草食獣の匂い付いていてよく遊ぶため効果があった。
	ベニコンゴウインコ	屋内ケージに遊具を設置。遊具を使用することで同居個体同士での闘争が軽減した。
葛 西 臨 海 水 族 園 合計9件	ペンギンの生態	暑さ・寒さ対策として放飼場に冷暖房機能をつけた小屋を設置した。

園 名	主なエンリッチメントの 件名	内 容
	ペンギンの生態	ミナミイワトビペンギンの行動解析結果を基に、夏季の屋内収容中でも一時的に放飼し、運動量の増加を行った。
	大洋の航海者マグロ	給餌装置を使うことにより、大型板鰐類へ限定した給餌が可能になった。
井の頭自然文化園 合計27件	ニホンリスにサクラの枝	自然落下、又は施設系の作業等により発生した園内のサクラの小枝を小径の丸太に設置。
	ムササビ 竹筒フィーダー	ネズミの盗食が多いため、ネズミが到達できずムササビのみ採食できる給餌器の作成。
	ツシマテンに麻袋	尾に対する自傷行為の代替として、噛みつく対象になることが期待された。体をこすりつけて自分のおいをつけたり、体の下に敷いて休んだり、（野生下でも餌を対象に見られるような）くわえて走り回ったり隠したりする行動を引き出すなど、一定の効果が見られた。

（２）研究成果の発表

動物園で得られた野生生物や教育普及活動に関する情報や研究成果等について、研究会等で積極的に発信した。

① 上野動物園（合計18件）

タイトル・演題	発表者・ 著者	発表場所又は掲載雑誌等
絶滅危惧海鳥類保全への動物園・水族館の取り組み	野島大貴	世界アルバトロスデー & シーバードウィーク（口頭）
ワオキツネザルの展示に関する安全対策について	坂下涼子、木岡真一、乾愛香、鈴木潤也	第 27 回 関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会（口頭）
スマトラトラの介添え哺育の取り組みとホルモン値動向について	横濱悠大、佐々木悠太、仲村賢、久野心愛、多田琴音、高岡英正、 <u>楠田哲士(岐阜大学)</u>	第 7 回野生動物保全繁殖研究会大会（口頭）
野生ニホンライチョウの精液利用を目的とした人工授精技術開発の取り組みについて	<u>田坂樹里、石井裕之、菅野智里（横浜市繁殖センター）、高橋幸裕、宮田桂子、吉澤円、古田洋(よこはま動物園)</u>	第 7 回野生動物保全繁殖研究会大会（ポスター）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
飼育下雄ホッキョクグマにおける糞中アンドロジェン動態と精液性状の関係	<u>平鍋沙也伽(岐阜大学)、柳川洋二郎(北海道大学)、佐藤伸高、大西敏文(旭川市旭山動物園)、鳥居佳子(札幌市円山動物園)、大場秀幸(釧路市動物園)、大野晃治(男鹿水族館)、曾地千尋(仙台市八木山動物園)、平野雄三、島原峰幸(アドベンチャーワールド)、楠田哲士(岐阜大学)</u>	第7回野生動物保全繁殖研究会大会(ポスター)
飼育下ジャイアントパンダにおける妊娠期および出産後のオキシトシン分泌と育子行動の関係	<u>沼本紘幸(岐阜大学)、齋藤圭史、楠田哲士(岐阜大学)</u>	第7回野生動物保全繁殖研究会大会(ポスター)
フンボルトペンギンとケープペンギンの大腿骨骨内部構造にみられる性差について	<u>高橋このか(岡山理大・宇都宮大)、林昭次、秦はるか(岡山理大)、荒木和葉(海遊館・岡山理大)、立川利幸、進藤英朗、久志本鉄平、上原正太郎(海響館)、野島大貴、青山真人(宇都宮大)、安藤達郎(足寄動物化石博物館)</u>	日本鳥学会 2024 年度大会(ポスター)
ジャイアントパンダの常同行動の減少を目指したエンリッチメントの実施と給餌方法の見直し	佐野宙矢、西塔香月、澁谷優里奈、難波舞、石神雄大、高岡英正、齋藤圭史	2024 年度 関東東北・北海道ブロック動物園水族館合同技術者研究会(口頭)
Early Reintroduction of an Infant Western Lowland Gorilla (<i>Gorilla gorilla gorilla</i>) to the Natal Group at Ueno Zoo	仲村賢	32nd SEAZA Conference 2024(口頭)
Husbandry Training to Improvement of Aye-ayes' Welfare	木岡真一	
Ex-situ conservation of Japanese rock ptarmigans at Ueno Zoological Gardens	杉本悠真	

タイトル・演題	発表者・ 著者	発表場所又は掲載雑誌等
野生動物のペット利用を考える ための教材作成とその評価	<u>山梨裕美(京都市動物園)、東芝香織、赤見理恵(日本モンキーセンター)、浅川陽子(世界自然保護基金ジャパン)、木岡真一、中山 侑(千葉市動物公園)、伴 和幸(豊橋総合動植物公園)、戸澤あきつ(帝京科学大)、工藤宏美(京都市動物園)、本田直也(野生生物生息域外保全センター)、徳山奈帆子(中央大学)</u>	SAGA26(ポスター)
妊娠中に再生不良性貧血を発症したニシゴリラに対しヒトの妊婦検診を実施した1例	<u>平野雄三、吉澤 円、林 笑、栗原拓也、石川 陽一、福田 豊、木下こづえ(京都大学)、井出祥子、尾崎康彦(名古屋市立大学)</u>	第30回日本野生動物医学会大会 (口頭)
竹チップを用いた薄層景観舗装の開発及び施工事例	<u>新井英伸、鎌田孝行、前宏樹(常盤工業株式会社技術研究所)</u>	「舗装」 2024年8月号 Vol. 59
アフターコロナ後のモルモットを用いた動物介在教育	<u>小川裕子、松田明音、鈴木彩月、山口瞳、鳥飼香子、馬島洋、高松美香子、天野未知</u>	第30回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会(口頭)
近隣小学校との連携による環境学習プログラムの開発	<u>東條裕子、小川裕子、鳥飼香子、加藤大輔(台東区立忍岡小学校)</u>	第65回日本動物園水族館教育研究会 (口頭)
アジアゾウ“アルン”の成長とゾウ舎での出来事	山口翔平	どうぶつと動物園 2024年春号 (2024. 4)
シャンシャンの中国での暮らし 中国ジャイアントパンダ保護研究センターをたずねて	石神雄大、栗原拓也	どうぶつと動物園 2024年秋号 (2024. 10)

② 多摩動物公園（合計18件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
多摩動物公園での動物飼育における安全対策への取り組み	寺田光弘	第27回日本動物園水族館協会関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会(口頭)
高カリウム血症のチンパンジーに対して行った栄養改善による治療とトレーニングによる採血・体重測定への取り組み	河本彩花	2024年度 関東東北・北海道ブロック動物園水族館合同技術者研究会(口頭)
動物を海外へ輸送する際の動物福祉向上の取り組み	中島亜美	2024年度 関東東北・北海道ブロック動物園水族館合同技術者研究会(口頭)
1年間のM99使用報告	戸田光亮	第36回大型動物麻酔研究会プログラム(口頭)
Care for the Oldest in Japan Near-blind Male Asian Elephant	田口陽介	32nd SEAZA Conference(口頭)
ユキヒョウにおける偽膜性大腸炎の一例	戸田光亮	第30回日本野生動物医学会大会(口頭)
アフリカゾウの拔牙処置に伴う全身麻酔	佐藤早織	第72回動物園技術者研究会(口頭)
飼育下チーターにより得られた精巢の組織学的観察	<u>清水亮佑(東京農工大学)</u> 、 <u>島田香寿美(東京農工大学)</u> 、 <u>太田香織</u> 、 <u>戸田光亮</u> 、 <u>吉本悠人</u> 、 <u>宮嶋海</u> 、 <u>佐藤早織</u> 、 <u>永岡謙太郎(東京農工大学)</u> 、 <u>山本ゆき(東京農工大学)</u>	第117回日本繁殖生物学会大会(ポスター)
Histological and metabolomic analysis of testis tissues in Japanese macaques (Macaca fuscata) aiming the establishment of in vitro spermatogenesis technique in primates	<u>山本ゆき(東京農工大学)</u> 、 <u>清水亮佑(東京農工大学)</u> 、 <u>太田香織</u> 、 <u>戸田光亮</u> 、 <u>吉本悠人</u> 、 <u>宮嶋海</u> 、 <u>佐藤早織</u> 、 <u>永岡謙太郎(東京農工大学)</u>	Society for the Study of Reproduction Annual Conference 2024(ポスター)
多摩動物公園のチンパンジーの母子分離の形	野田瑞穂	第20回日本子ども学会学術集会
オスのアフリカゾウの拔牙処置	藤本卓也	第33回ゾウ会議(ポスター)
専門学校と協力して実施するゲンジボタルの流れの環境整備	草野啓一	第35回全国昆虫施設連絡協議会(口頭)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
農業をするアリ ハキリアリ ～菌園と共に生きる～	佐々木愛子	第3回自然と人間との共生フォーラム (口頭)
園内のチョウ類調査 調査の経緯 と結果について	角田 淳平	昆虫園研究Vol. 25
オオアシトガリネズミの繁殖 飼育下での新たなアプローチと 見えてきたこと	川上壮太郎	どうぶつと動物園 2024年春 (2024. 4)
多摩のタケノコ大作戦	岡野綾香	どうぶつと動物園 2024年夏号 (2024. 7)
アフリカゾウの抜牙に挑む “砥夢”の牙を無事に抜くまで	藤本卓也、太田香織	どうぶつと動物園 2024年秋号 (2024. 10)
“動物大使”タスマニアデビルを 迎えて 導入から現在まで	永田典子	どうぶつと動物園 2025 年冬号 (2025. 1)

③ 葛西臨海水族園 (合計13件)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
フンボルトペンギンにおいて複数 回発症した悪性黒色腫の治療と 抗がん剤感受性試験の1例	吉本悠人、杉本悠真、 中村浩司	第30回日本野生動物医学会大会 (口 頭)
フンボルトペンギンの胃癌の発生 状況に関する実態調査	<u>松原叶実、中村進一 (岡山 理科大学)、高津智和 (城 崎マリンワールド)、岩尾 一、山田篤 (新潟市水族 館)、吉本悠人、 杉山晶彦 (岡山理科大学)</u>	第30回日本野生動物医学会大会 (口 頭)
イルカ種とペンギン種肝ミクロ ソームに局在する薬物代謝酵素 シトクロム P450 様抗原検出系 の確立	<u>小俣祥吾、池端優衣、小 林知貴、小林拓夢 (新潟 薬科大学薬学部)、杉本 悠真、吉本悠人、岩尾一 (新潟市水族館マリンピ ア日本海)、元井優太郎、 久保田隆廣 (新潟薬科大 学薬学部)</u>	第30回日本野生動物医学会大会 (口 頭)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
高病原性鳥インフルエンザウイルス感染の治療を目指した飼育下希少鳥類におけるバロキサビルマルボキシルの薬物動態解析	<u>島津陽（北海道大学）</u> 、 <u>三木万梨子</u> 、 <u>尾原涼（塩野義製薬株式会社）</u> 、 <u>中谷裕美子</u> 、 <u>長嶺隆（どうぶつたちの病院沖縄）</u> 、 <u>吉本悠人</u> 、 <u>林万里菜</u> 、 <u>井出いづみ</u> 、 <u>見浦沙耶子</u> 、 <u>平栗祐子（富山県自然博物館ねいの里）</u> 、 <u>加来雅人（四国水族館）</u> 、 <u>豊田恒介</u> 、 <u>尾崎美樹（アドベンチャーワールド）</u> 、 <u>日尾野隆大</u> 、 <u>磯田典和（北海道大学）</u> 、 <u>穴戸貴雄（塩野義製薬株式会社）</u> 、 <u>池中良徳</u> 、 <u>迫田義博（北海道大学）</u>	第30回日本野生動物医学会大会（口頭）
スポッテッドドラットフィッシュの繁殖について	松本あかり、川上七海	2024年度関東東北・北海道ブロック動物園水族館合同技術者研究会（口頭）
生き物の消耗に配慮した体験型展示の工夫について	遠藤周太、中村浩司	2024年度関東東北・北海道ブロック動物園水族館合同技術者研究会（口頭）
東京湾周辺のトラフグを対象にした人工種苗集団と天然集団の遺伝的關係	<u>片町太輔</u> 、 <u>柳本 卓</u> 、 <u>鈴木重則（水産研究・教育機構）</u> 、 <u>加藤大棋</u> 、 <u>角田直哉（神奈川県水産技術センター）</u> 、 <u>山崎哲也（北海道立総合研究機構栽培水産試験場）</u> 、 市川啓介	令和6年度公益社団法人日本水産学会秋季大会（口頭）
ライトトラップ採集による浮遊期幼生及び浮遊生物の採集について	松村哲、幅祥太、 太田智優、小川悠介、 <u>阿部秀樹（阿部秀樹写真事務所）</u>	第69回日本水族館技術者研究会（口頭）
都立動物園・水族園が取り組む小笠原陸産貝類の保全について	中村浩司	保全シンポジウム「生物多様性の10年」（口頭）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
刺し網漁における海鳥混獲回避 策の検証 -漁網への視覚的な認識-	<u>森野千里</u>、<u>江原晶</u>、<u>松本 南海</u>、<u>大西航太</u>（<u>東洋大 学</u>）、<u>野島大貴</u>、<u>佐藤信 彦</u>（<u>水研機構水産資源 研</u>）、<u>松尾果穂</u>（<u>鴨川 シーワールド</u>）、<u>内山 幸</u>、<u>伊藤元博</u>（<u>東洋大 学</u>）、<u>鈴木康子</u>（<u>バード ライフ・インターナショ ナル</u>）	日本鳥学会 2024年度大会 （口頭発表）
エトピリカの遊泳時におけるブ レーキの研究	<u>岡村早紀</u>（<u>宇都宮大学大 学院</u>）、<u>濱端一苑</u>（<u>東京 農業大学</u>）、<u>畑山優香</u> （<u>北海道大学大学院</u>）、 <u>高山日奈子</u>（<u>東京農業大 学</u>）、<u>野島大貴</u>、<u>内山 幸</u>、<u>松尾果穂</u>（<u>鴨川シー ワールド</u>）、<u>菊地デイル 万次郎</u> （<u>東京農業大学</u>）	日本鳥学会 2024年度大会 （ポスター）
エトピリカのパクパク戦術:親鳥 が複数の獲物を嘴に保持しなが ら狩りをする仕組み	<u>畑山優香</u>（<u>北海道大 学</u>）、<u>野島大貴</u>、<u>内山 幸</u>、<u>松尾果穂</u>（<u>鴨川シー ワールド</u>）、<u>濱端一苑</u> （<u>東京農業大学</u>）、<u>畑山 優香</u>（<u>北海道大学</u>）、<u>岡 村早紀</u>（<u>宇都宮大学</u>）、 <u>高山日奈子</u>、<u>菊地デイル 万次郎</u>（<u>東京農業大学</u>）	日本生態学会第72回全国大会（口頭）
“持続可能な採集と展示”を目指 す ライトトラップによる採集と浮遊 生物の輸送	小川悠介、太田智優、 幅祥太	どうぶつと動物園 2024 年夏号 （2024. 7）

④ 井の頭自然文化園（合計2件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
アフターコロナ 井の頭自然文化園でのモルモットのふれあいプログラムの見直し	山口真理子	第29回 関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会
Pathological features of intrathoracic histiocytic sarcoma in an Amami spiny rat (Tokudaia osimensis)	<u>Kazuhiro Kojima</u> （東京大学大学院）、 <u>James K Chambers</u> （東京大学大学院）、 <u>Madoka Yoshizawa</u> 、 <u>Koh Fujioka</u> 、 <u>Kazuyuki Uchida</u> （東京大学大学院）	The Journal of Veterinary Medical Science 86(10):1076-1080

⑤ 総務部（合計11件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
飼育下の雌カバにおける糞中プロジェステロン代謝物濃度動態からみた排卵周期の季節性	高柳真世、橋川真弓、 <u>楠田哲士(岐阜大学応用生物科学部)</u>	第7回野生動物保全繁殖研究会大会（ポスター）
A Comprehensive Study of Nutrition Management on Malayan Sun Bears (Helarctos malayanus) Housed in Asian Zoos	伊藤香緒里	32nd SEAZA Conference 2024（口頭）
都立動物園・水族園が取り組む両生・爬虫類の保全活動	坂田修一、高橋英之、齋藤祐輔、石島明美、中村浩司、堀田桃子	第34回日本動物園水族館両生類爬虫類会議（口頭）
飼育下ブチハイエナの消化率及び栄養状態の評価	<u>藤森圭太郎リカルド</u> 、 <u>高橋勇太</u> 、 <u>岡村 創(静岡市立日本平動物園)</u> 、 <u>森岡咲帆</u> 、 <u>八代田真人(岐阜大学応用生物科学部・岐阜大学動物園生物学研究センター)</u>	第72回動物園技術者研究会（口頭）
都立動物園が行う鳥類保全 トキ・アカガシラカラスバトを中心に	石井淳子	第6回動物園水族館大学シンポジウム（口頭）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
中高生を対象とした都立動物園水族園レポートチャレンジ 応募状況とレポート内容の傾向について	馬島洋	第74回日本理科教育学会全国大会（口頭）
生きものってすごい！おもしろい！ 生物多様性の保全に貢献する動物園・水族園の取り組み	天野未知	令和6年度環境講演会 中央区立環境情報センターエコノバ（口頭）
自然体験へつなぐ活動	天野未知	第5回教育普及ふれあいシンポジウム「自然体験をととした学びを考える」（口頭）
園内につくった近所の自然「いきもの広場」	高松美香子	第5回教育普及ふれあいシンポジウム「自然体験をととした学びを考える」（口頭）
あらたな“ふれあい”の取り組み	天野未知、馬島 洋	どうぶつと動物園 2024 年春号（2024. 4）
動物園・水族館のデザインを語る 特設展示「ようこそデザニャーレ 東京どうぶつえん すいぞくえんデザイン室」をとおして	神山紗織、 齋藤未奈子、北村直子、 高松美香子	どうぶつと動物園 2025 年冬号（2025. 1）

※下線は外部研究者

（3）共同研究

大学や研究機関と協力し、動物学、獣医学等の学術的な見地から共同研究を進めた。

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
東京大学博物館	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京大学大学院農学生命科学研究科	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京都立大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
日本医科大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京農工大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
森林研究・整備機構 森林総合研究所	東京動物園協会	イモリの保全及びその生態学的研究

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
国立科学博物館	東京動物園協会	動物等の研究
情報・システム研究機構 国立極地研究所	東京動物園協会	連携・協力に関する協定
岐阜大学応用生物科学部	東京動物園協会	動物園水族館動物に係る研究及び教育
水産研究・教育機構	東京動物園協会	包括連携協定
名古屋市東山総合公園	東京動物園協会	動物園事業の発展及び野生動物保全にかかる連携 と協力に関する協定
北海道大学大学院獣医学 研究院繁殖学教室	東京動物園協会	希少野生動物の保全繁殖に関する研究
東京大学大学院農学生命 科学研究科獣医病理学研究 室	東京動物園協会	病理組織学検査に関する研究
東京農工大学	東京動物園協会	飼育動物及び検疫動物のクラミジア保有状況の PCR による調査
北里大学獣医学部動物資 源科学科動物行動学研究 室	東京動物園協会	モルモットにおけるふれあいストレスの眼球温度 を用いた評価方法の確立
岐阜大学応用生物科学部	東京動物園協会 野生生物保全セン ター	希少動物の保全繁殖に係る研究及び教育
日本獣医生命科学大学 動物生産化学教室	東京動物園協会 野生生物保全セン ター	飼育下チンパンジーの栄養管理に関する研究
岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室	上野動物園	希少動物の保全繁殖
東京農工大学	上野動物園	動物園におけるサンバエの吸血生態に及ぼす動物 の影響
立命館大学、株式会社東 芝ライテック	上野動物園	動物園における夜行性動物の展示照明に関する研 究
京都大学理学研究科	上野動物園	飼育ゴリラの利き手の調査
京都大学大学院理学研究 科動物行動学研究室 及び自然環境研究セン ター	上野動物園	域外保全ミヤコカナヘビにおける共同研究

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
中央大学理工学研究所	上野動物園	ニホンザルの動物福祉及び行動に関する研究
日本獣医生命科学大学 動物生産化学教室	上野動物園	アカガシラカラスバトの域外飼養技術に関する研究－飼育飼料の検討－
岐阜大学応用生物科学部	多摩動物公園	多摩動物公園における希少動物の保全繁殖に関わる研究及び教育
東京都健康安全研究センター	多摩動物公園	サル類の腸管寄生原虫に関する研究（検査・駆除対策）
日本工業大学	多摩動物公園	モグラの地中掘削行動の機構学的解析
横浜市環境創造局繁殖センター	多摩動物公園	希少動物の保全に関わる試験研究
東京農工大学農学部	多摩動物公園	昆虫等の調査・診断に関わる共同研究（オガサワラシジミ）
帝京大学	多摩動物公園	飼育動物の感染症対策
ウォルター動物園（スイス）	多摩動物公園	グローワームの飼育繁殖におけるパートナーシップ
河原 淳	多摩動物公園	トウキョウトガリネズミ繁殖生態研究
日本医科大学 動物生産 化学教室	多摩動物公園	飼育下チンパンジーの栄養管理に関する研究
東京農工大学農学部	多摩動物公園	カンガルーの口腔内及び腸内細菌叢と疾病の関連性に関する共同研究
東京農工大学農学部	多摩動物公園	昆虫等の調査・診断に関わる共同研究（オガサワラシジミ）
帯広畜産大学、東洋大学、 大阪産業技術研究所	多摩動物公園	飼育下哺乳類の乳汁成分について研究
日本医科大学	多摩動物公園	動物園における野生動物の侵入とマダニ寄生リスクの調査
日本医科大学	多摩動物公園	飼育下ネコ科動物の腎疾患罹患状況及び死因調査、腎疾患予防を目的とした栄養学的研究
京都大学、小笠原自然文化研究所	多摩動物公園 上野動物園	アカガシラカラスバト保全のためのゲノム解析
東京農工大学農学部	多摩動物公園	哺乳動物の精子形成メカニズム解明と体外精子生産技術の開発

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
公益財団法人横浜市緑の協会よこはま動物園ズーラシア	多摩動物公園	北米からのチーター導入による国内飼育個体群の遺伝的多様性の保全、個体群動態等への影響調査
帝京科学大学	多摩動物公園	多摩動物公園及び帝京科学大学の教育活動
麻布大学	多摩動物公園	チーターの雌の発情を誘起する刺激の解明
名古屋大学	多摩動物公園	チョウ類飛翔姿勢の決定に関わる生態学的要因の探索のための基盤解析技術開発
北海道大学大学院地球環境科学研究院	多摩動物公園	飼育下繁殖の向上と野生復帰の改善に向けた、バクの腸内細菌叢、MHC、におい物質の解析
東北大学大学院生命科学 research 科	葛西臨海水族園	フンボルトペンギン胚における特徴的四肢形態の発生操作
東邦大学	葛西臨海水族園	ペンギン類における海生適応形質形成機構の解明
電力中央研究所 株式会社イワキ	葛西臨海水族園	大規模水槽向け脱窒装置及び小型水槽用脱窒モジュールに関する共同研究
株式会社海遊館	葛西臨海水族園	ペンギン類人工繁殖に関する共同研究
日本大学生物資源科学部 海洋生物資源科学科水圏生物病理学研究室	葛西臨海水族園	葛西臨海水族園の飼育する水生生物疾病研究に関する協定
東京農業大学、東京工業大学、東北大学	葛西臨海水族園	ペンギン科及びウミスズメ科の流体力学に関する研究
東京農業大学	葛西臨海水族園	DNA 解析によるペンギン科及びウミスズメ科の遺伝的多様性に関する研究
自然科学研究機構基礎生物学研究所	葛西臨海水族園	動物行動学（マトウダイ）に関する研究
東京大学及び北里研究所	葛西臨海水族園	水族館飼育魚及び飼育水の環境 DNA モニタリング技術の開発
北海道大学・バードライフ・インターナショナル	葛西臨海水族園	刺し網による海鳥混獲の削減を目指した研究
新潟薬科大学	葛西臨海水族園	飼育下動物における適正な薬物治療に関する研究
日本医科大学	葛西臨海水族園	飼育動物が感染した非結核性抗酸菌（NTM）の同定と発生環境の調査

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
東京学芸大学	葛西臨海水族園	葛西臨海水族園における教員研修における実践と評価
北海道大学	葛西臨海水族園	高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染した飼養鳥をヒト用の抗インフルエンザ薬で治療するための用量・用法の策定とその普及
岐阜大学	井の頭自然文化園	希少動物の保全繁殖
株式会社共立電照及び株式会社共ショウ	井の頭自然文化園	水槽用 LED 照明の開発
東京学芸大学	井の頭自然文化園	井の頭自然文化園水生物館における展示観覧時の親子の観覧と行動の分析による展示評価

(4) 飼育展示・教育普及研究会の開催

園内及び4園相互での情報交換と共有化を積極的に進めるとともに、研究発表等に積極的に参加することによる職員の能力向上を図るため、各園で飼育展示・教育普及担当者による研究会を定期的に開催した。

3. 動物病院業務

飼育職員と連携して病気等の予防策を講じるとともに、異常の早期発見に努め、適切な治療を行った。また、検疫業務、病理解剖、検体の保存等を行った。

(診療件数及び検疫件数)

園 別	年間診療件数		年間検疫件数	
	治療	死亡	種数	頭数
上野動物園	22,068	77	47	129
多摩動物公園	10,158	81	17	57
葛西臨海水族園	589	88	2	93
井の頭自然文化園	3,963	61	17	31

〔２〕野生生物保全事業

「野生生物保全センター」を都立動物園・水族園の野生生物保全活動の中心に位置付け、保全活動、情報収集、調査研究及び普及啓発活動を実施した。

項 目	内 容
動物園内における保全活動 (域外保全)	① ニホンコウノトリ、トキは高度な飼育繁殖技術を活かした継続的な繁殖と個体や卵の移動などにより、野生復帰事業に貢献している。 ② 令和３年度より環境省及び東京都によるオガサワラカワラヒワ保全の取組が始まった。上野動物園では現地施設での飼育環境整備や飼育繁殖に協力するとともに園内で近縁亜種を飼育し、調査研究を行っている。令和６年３月には父島から上野動物園へオガサワラカワラヒワを移送し、飼育を開始した。 ③ 環境省からの分散飼育の協力要請を受け、平成29年度に小笠原諸島の陸産貝類（カタマイマイ、アナカタマイマイ）の飼育を４園で開始した。令和５年度は、新たにチチジマカタマイマイ、キノボリカタマイマイの飼育を開始し、関係機関との情報共有を図るとともに、飼育繁殖に取り組んでいる。 ④ ライチョウは、上野動物園や富山市ファミリーパークなどで平成27～28年に野生卵を入手し、それらを基に飼育繁殖に着手し、山岳地帯への適応に伴う特殊な生理生態について、連携する関係者とともに解明に取り組んでいる。令和３年度には、上野動物園で日本初の人工授精による繁殖に成功し、現在は凍結精液を用いた人工授精技術の確立に向けて取り組んでいる。 ⑤ 東京産両生類は、希少種も含め、繁殖に継続して成功している。遺伝的多様性に配慮し、繁殖個体の園間交換を進め、４園で分担・連携して取り組んでいる。
フィールドにおける保全活動 (域内保全)	① 多摩市のアカハライモリ生息地での生息状況や生態に関する調査を継続し、生息個体数が増加した。また、地域との連携・環境教育活動を推進している。 ② 多摩動物公園内に生息するアズマヒキガエルは減少傾向にあるため、４園の飼育下に確保していた個体群で繁殖を推進している。 ③ アカガシラカラスバト野生個体群の遺伝的多様性を解明するため、小笠原自然文化研究所と連携しミトコンドリアDNAの解析を実施している。
生物工学技術を応用した保全活動	① DNAによる性判別（鳥類・哺乳類）を多数行い、繁殖計画の推進に寄与した。また、飼育希少鳥類の遺伝的多様性の解析、メダカの地域個体群解析、アズマヒキガエルの野外での交雑状況の調査を継続して行っている。 ② 飼育動物や死亡した動物から得た精子の凍結保存を継続している。 ③ 性ホルモンを測定し、インドサイ、アジアゾウ等の繁殖周期の把握、生理解明に役立てている。

項 目	内 容
調査研究・情報収集	例年海外で開催される会議などにも積極的に参加し、研究発表や情報収集、交流に取り組んでいる。令和6年度は世界動物園水族館協会年次大会、保全計画専門家グループ（CPSG）年次大会、東南アジア動物園協会（SEAZA）会議に参加した。
普及啓発活動	① ツシマヤマネコの保全に関する普及啓発として井の頭自然文化園で「ヤマネコの日」にちなむ活動を継続して実施している。 ② 多摩動物公園とコウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（IPPM-OWS）の共催により、「コウノトリまつり2024」を多摩動物公園で初開催した。コウノトリ飼育施設や自治体がブース出展し、それぞれが取り組んでいる生息域内外の保全活動を広く紹介した。 ③ 環境省と（公社）日本動物園水族館協会が、生物多様性保全の推進に関する基本協定書を締結して10年目になることを記念し、「保全シンポジウム生物多様性保全の10年～動物園・水族館の挑戦と未来への展望～」を開催した。
保全への協力	コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（IPPM-OWS）の構成員、また事務局の一員として、加盟機関と連携し、保全活動を推進した。有精卵の提供などにより、兵庫県立コウノトリの郷公園や千葉県野田市でのコウノトリの放鳥事業に協力している他、野生で生まれた雛への足環装着などの技術協力を行っている。

〔3〕教育普及事業

教育普及センターを中心に4園の連携をより一層強化し、多様な来園者を対象に動物の魅力を体感し、その危機的現状を理解し、地球環境保全のための行動変容へとつなげることをねらいとした多彩な教育普及活動を展開した。それぞれの教育普及活動においては、その目的を明確にし、アンケートや行動・発話調査などによる評価検証と改善に取り組み、よりよいプログラムにすることで社会教育施設としての機能をより一層、強化した。

1. 4園連携による幅広い教育普及活動の展開

教育普及センターが中心となり、4園の教育普及担当者との情報共有や課題の抽出・解決策の検討を、定期的な会議や教育普及ワーキングにより行った。今年度は特に合理的配慮や発達障害の専門家による研修や評価による障害のある方向けの教育普及プログラムの改善、センサリーマップ・ソーシャルストーリーなどの新たな取組、テキストマイニングやAIを使った教育普及プログラムの評価手法の検討、アニマルウェルフェア（動物福祉）に配慮したふれあいプログラム（動物介在教育）における動物の評価手法の検討などを、教育普及ワーキングを中心に4園で連携して進めた。連携して行った主な教育普及活動は以下のとおりである。

（1）教育機関との連携体制の充実、強化

①小学校向け教育普及活動の周知

夏季開催の教員向け「授業に活かせる動物園・水族園講座」の告知とともに、4園の小学校向け遠隔授業やデジタル教材等を紹介するパンフレットを都内（1,385校）及び近県：千葉（117校）の小学校に郵送し、小学校の利用促進につなげた。

②中学校・高校との連携強化

中学校・高校との連携強化のため、「中学生・高校生のための動物園・水族園活用ガイド」「動物園・水族園レポートチャレンジ」の募集チラシを都内中学校の理科教員宛（1,222校）及び近県：千葉（60校）に郵送した。また、レポートの相談窓口を設け、動物園・水族園での調べ学習をサポートする授業を実施した（中学校・高校合計5校、15回）。

③学校教員ヒアリング

幼稚園・小学校・中学校・高校等に出向き、4園の教育普及活動を紹介するとともに学校での動物園・水族館の利用状況や要望をヒアリング（合計10件 幼稚園1件・小学校3件・中学校4件、特別支援2件）し、その結果を4園で共有した。また発達障がいファミリーサポート Marble、東京都発達障害者支援センターといった専門家へのヒアリングも実施した。

④関係機関との連携、研究会への参加

国立科学博物館が主催する「教員のための博物館の日 2024」（7月23～26日）へ参加し、国立科学博物館会場に設けられたブースにて、都立動物園・水族園4園が作成している教員向けの各種冊子や都立動物園・水族園を学校で活用してもらうための資料の配布、授業に役立てられる動画の紹介やスタッフによる口頭説明等を行い、来場した教員と情報交換を行った。また、小学校から高校の理科教員が集まる日本理科教育学会（全国大会）に出席し、「動物園・水

族園レポートチャレンジ」について発表するとともに、参加教員と情報交換を行い、ネットワークづくりにつなげた。

(2) 生物保全や生物多様性をテーマにした関連情報の発信、講演会、企画展等

①GOOD LIFE フェア 2024（主催：朝日新聞社）出展

「心地良く、豊かな暮らし」を実現するライフスタイル商材、サービスを提案する展示会にて「どう生まれる？どう育つ？生きもののふしぎ」というテーマで4園の展示動物の魅力を伝えるとともに「地球環境保全行動戦略」「保全プロジェクト」など保全の取組を紹介した。また、体験コーナーでクイズに挑戦しながら楽しく学べるイベントなどをあわせて開催した。

実施日：10月25～27日 総ブース来訪者：3,386名

②4園合同企画 都立動物園・水族園 冬の周遊キャンペーン

4園合同企画 都立動物園・水族園 冬の周遊キャンペーンでは、野生生物保全プロジェクトの対象種16種をとりあげ、デジタルクイズラリーや保全の取組を紹介する動画を通して、4園の保全の取組を多くの方に伝えた。

I. 都立動物園・水族園に行こう！デジタルクイズラリー

参加者数：7,729名（集計期間：1/9～2/28）

II. 「野生生物保全プロジェクト」の取組紹介

クイズ対象種8種について特設サイトやInstagramのリール動画で紹介

再生回数：合計約8.7万回（集計期間：1/9～2/28）

③その他、生物多様性の日等、国際的な記念日にあわせた保全情報の発信 （4）参照

(3) 誰一人取り残さない、幅広い来園者を対象とした教育普及活動の実施

①のんびり楽しむ動物園水族園ドリームナイト&イブニングの開催

障害をもつ子ども達とその家族を対象とした教育普及活動である「のんびり楽しむ動物園 水族園ドリームナイト&イブニング」を4園で開催した。開催をお知らせするチラシを東京都内とその周辺の障害者施設・特別支援学校等に郵送し、広く周知した。

3園（井の頭自然文化園を除く）ではカームダウンスペースを設け、園内マップに記載した。

また、井の頭自然文化園ではソーシャルインクルージョン専門家による事前講習と事後評価を実施した。他3園では、専門家のアドバイスを参考に、教育普及センターが講師となり各園で当日対応するスタッフ（ボランティアも含め）に事前講習を実施した。

※講習はイベント時のみに関わらず日頃から活用できる内容で実施した。

上野：7月1日、休園日の昼間から夕方に開催、事前募集で1,519名の参加があった。

多摩：6月1日、閉園後に開催、事前募集なしで2,737名の参加があった。

井の頭：6月1日、閉園後に開催、事前募集なしで515名の参加があった。

葛西：6月30日、閉園後に開催、事前募集で740名の参加があった。

②ソーシャルストーリーの作成及び公開

移動水族館の活動の流れを写真と簡単な日本語で説明したソーシャルストーリーを制作、公式ホームページで公開した。また、上野動物園の団体向プログラム「もっとしりたいモルモット」のソーシャルストーリーの作成に取り組んだ。

③上野動物園のセンサリーマップの公開

「のんびり楽しむ動物園 水族園ドリームナイト&イブニング」で使用した光や音などの五感情を地図上に示したセンサリーマップを通常時でも使用できるよう、公式ホームページで公開した。

④ソーシャルインクルージョン研修の実施

協会で働く全職員を対象とし、ソーシャルインクルージョンの取組推進に向け研修を開催した。

11月29日：テーマ「合理的配慮について」（対面で実施し、アーカイブ配信）

1月21日：テーマ「発達障害ってなに？基本と対応のヒント」（対面とオンライン開催）

（４）動物や自然にちなんだ記念日等の特別な日に、４園で共通のテーマで情報発信や教育プログラムの実施

名称	実施日	内 容
飼育の日	4 / 19	４園が４月19日前後に、飼育係の仕事に関連した企画展や体験イベント、飼育スタッフによるスペシャルトークなど、様々な視点から飼育の仕事を紹介する教育プログラムを実施した。
国際生物多様性の日	5 / 22	各園のさまざまな職種のスタッフが、野生生物やその生き物がくらす環境を守るために自分たちができることをX（旧Twitter）で宣言した。
第10回 都立動物園アフリカフェア	11/ 9 ～10	「アフリカの動物たちの魅力を知ろう～飼育係のおはなし～」と題し、各園で飼育しているアフリカの動物たちについて飼育係がトークを行った。
文化財ウィーク	10/26～11/ 4	東京文化財ウィーク期間中に各園で飼育展示している天然記念指定動物を紹介する解説カードの配布や、特別ガイドを行った。
ふれあい動物の日	11/20	教育普及ふれあいシンポジウム～自然体験をとoshした学びを考える～を12月 2 日に開催した。
世界湿地の日	2 / 2	各園が２月 2 日の前後に飼育展示種や園内の自然環境を生かし、湿地環境の重要性やそこにくらす生き物たちの魅力を伝える観察会や講演会等を開催した。

（５）オンラインでの学習コンテンツの充実や各種プログラムの開催

オンライン教材「授業が楽しくなる教材集」では、小学校国語の教科書に載っている読み物「うみのかくれんぼ」と４年理科で取りあげられる「動物の体のつくりと運動」の２タイトルを新規に公開した。また、オンライン教材やダウンロード資料をまとめて紹介した東京ゾーンネット内の「学校向け教材集」のページを充実させた。４園のオンラインプログラムの質の向上のために、教育普及センターが中心となり各園へのサポートや情報共有を行った。９月には世界ゴリラの日にちなみ国内でゴリラを飼育する全６園をつないで発信するYouTubeライブを実施した。

(6) 4園連携・特設展「ようこそデザニャーレ」の開催

動物園・水族園におけるデザインの面白さや重要性を伝える、4園連携の特設展を井の頭自然文化園で開催した（3/31～2025/2/21）。インハウスデザイナーがデザインしたフライヤーやパンフレット、解説サイン、ギフト商品、ノベルティーなどを展示し、動物園・水族園ならではのデザインの面白さや難しさ、デザインのプロセスなどを紹介した。あわせてこども向けの関連企画、「都立動物園・水族園のインハウスデザイナーと作る「生きものピクトサイン」親子向けワークショップ」（7/7）や「ようこそデザニャーレ-東京どうぶつえん すいぞくえんデザイン室-」クロージング・トーク（2/22）を開催した。

(7) 教育普及ふれあいシンポジウム～自然体験をとoshした学びを考える～

5回目は、自然のなかで生きものと接する（ふれあう）体験の意義をテーマに国内の動物園水族館を対象にオンラインで開催した。多くの施設で実施している園内外の自然やビオトープを活用した観察会・体験型プログラム、その他、自然での生きもの観察方法など自然体験の楽しさを伝え、自然体験へとつなげる活動の実践例の共有やその意義、課題について議論した。

実施日：12月2日 Zoomによるオンライン開催 参加者：65園館121名

開催園：井の頭自然文化園

内容

- I. 事例紹介① 自然体験へつなぐ取り組み
- II. 事例紹介② 盛岡市動物園ZOOMOの取り組み
- III. 事例紹介③ 身近な生きもの・昆虫に親しむ
- IV. 事例紹介④ 園内につくった近所の自然「いきもの広場」
- VI. 「いきもの広場」から中継
- VII. グループに分かれてのディスカッション、まとめ

2. 定例プログラム

(1) 園内プログラム

園内プログラムは、来園者が気軽に参加し、楽しく学べることを目的に各園で実施した。モルモットふれあいプログラムについては、教育普及センターと動物園3園の担当者がふれあいワーキンググループをつくり、モルモットのストレス評価や利用者評価を行った。井の頭自然文化園では、一般向けのモルモットプログラムを10月から「こんにちはモルモット」に変更した。また、団体向けプログラムの再開に向け準備を進め、試行した。

園 名	内 容（実施回数・対応人数）
上 野	・動物解説員による動物ガイド（172回 2,955名） ・飼育係のおはなし（876回 18,367名） ・モルモットとなかよし（532回 6,737名） ・東京動物園ボランティアーズ（DG）によるスポットガイド（639回 84,350名）
多 摩	・動物解説員によるガイドツアー（145回 2,331名） ・キーパーズトーク（415回 14,712名）

園 名	内 容（実施回数・対応人数）
	・おしえて！モルモット博士！（788回 11,385名） ・東京動物園ボランティアーズ（DG）によるスポットガイド（241回 50,785名） ・東京動物園ボランティアーズ（SG）によるスポットガイド（169回 11,969名） ・東京動物園ボランティアーズ（DG）による工作教室（162回 4,982名） ・大学生による昆虫プログラム「zoo 研」（11回 456名）
葛 西	・スポットガイド「ペンギン・海鳥・マグロ・サメ」（2,350回 99,350名） ・イキモノマヂカ（616回 5,343名） ・ウミホテル発光実験（308回 6,271名） ・裏側ガイドツアー（230回 2,612名） ・しおだまり（930回 26,335名） ・東京シーライフボランティアーズによるスポットガイド（365回 1,870名） ※東京シーライフボランティアーズによるスポットガイドの人数は、ボランティアの対応人数
井の頭	・動物解説員によるガイドツアー（101回 2,623名） ・飼育係のいきものガイド（68回 2,907名） ・みてみてエサの時間だよ（432回 8,146名） ・こんにちはモルモット（776回 8,830名） ・いきもの広場であそぼう（20回 1,557名） ・東京動物園ボランティアーズ（DG）によるスポットガイド（45回 10,176名） ・東京動物園ボランティアーズ（SG）による紙芝居（18回 504名） ・「あずきの会」との共同企画によるおはなし会（10回 223名）

（２）動物相談室・情報資料室の運営

上野動物園では電話・書簡にて相談に応じた。夏休み期間は、自由研究のお手伝いを対面実施した。多摩動物公園内では動物相談所で、葛西臨海水族園では情報資料室において、入園者及び電話・書簡による相談に応じた。

園 名	来 園	電 話	書 簡	計
上 野	8件	456件	3件	467件
多 摩	328件	223件	0件	551件
葛 西	7,759件	604件	—	8,363件

３．特別プログラム

自然科学への探求心、野生生物に関する理解を深めるとともに、地球環境保全意識の向上を図ることを目的とした多様なプログラムを実施した。大人からこどもまで、障害のある方も含めて全ての人々が楽しく学べる場をめざすとともに、気軽に参加できるクイズラリーや専門性の高い講演会など、一人でも多くの方に参加してもらえるように幅広いプログラムを企画・実践した。

(1) 実施した主な参加型プログラム

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・うへのZOOスクール小学1・2年 (7/7) ・うへのZOOスクール小学3・4年「自分だけの『おもしろ動物図鑑』をつくろう」(作成講習会 7/27、28 完成報告会 8/18) ・うへのZOOスクール小学5・6年「飼育係のお仕事発見コース」(10/5、6) ・うへのZOOスクール視覚障がい児クラス(盲児 10/1、弱視 12/1) ・うへのZOOスクール中学生向けコース「動物たちは何をしているの?～動物の行動観察～」(1/26)
多 摩	・デジタル技術による動物の感触を体験!「アニマルタッチメカランド in 多摩動物公園」(7/6、7) ・体験プログラム「カブトムシ教室」(8/14、16、17、18) ・親子向けプログラム「コアラのひみつ調査隊!」低学年コース・高学年コース(10/27) ・昆虫園飼育体験 (1/25) ・中高生対象オンラインプログラム「サイエンズカフェー話そう!聞こう!動物園の仕事」(3/9)
葛 西	・幼児向けプログラム 進め!海のいきものたち「うみにいこう!」(7/6)、「くらべてみようアジとわたし」(3/20) ・小学1・2年向けプログラム いきものことはじめ「海でくらすカニたち」(7/7)、「くらべて感じる魚のくらし」(3/20) ・小学3・4年向けプログラム 海のアソビや「生き物のすみかを探検!」(9/15)、「くらべてみつける魚のヒミツ」(3/15) ・小学5・6年向けプログラム 集まれ!汐っこたち「西なぎさで生き物探索!」(9/16)、「くらべて探る魚の工夫」(3/15) ・「夢いっぱいのおさかなアート」ワークショップ (11/2～3) ・高校生・大学生向け講座 海の学び舎2024 「その魚はどこから来て何を食べていたのか?一魚の一生を追いかける」(12/8)、「サンゴー斉産卵の同調機構を考える」(3/16) 対面とオンライン
井の頭	・文化園いきものクラブ「動物たちの食べものしらべ」(5/26)、「井の頭池いきもの探検」(7/14)、「ニホンリスとクルミ」(12/21)、「井の頭池の鳥しらべ」(2/24)、プレミアム「朝の井の頭自然文化園をめぐる」(3/2) ・モルモットを観察しながらうちわ作りをしよう (8/22～9/13) ・ねんど涼み Myマイマイつくっちゃおう! (8/24) ・大学生のためのズーカレッジ (9/5～8) ・資料館特設展「ようこそデザニャーレ-東京どうぶつえん すいぞくえんデザイン室-」関連企画 都立動物園・水族園のインハウスデザイナーと作る「生きものピクトサイン」親子向けワークショップ (7/7) ・怪談スタンプラリー関連イベント「もののけワークショップ」(9/22)

(2) 実施した主なクイズラリー、スタンプラリー等

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・世界ゾウの日特別企画「上野と多摩をめぐってくらべるゾウ！」(8/8～9/1) ・世界ゴリラの日特別企画「ゴリラの観察ビンゴ」(9/21～23) ・クイズで発見！「しっぽのいろいろ」(9/28～29、10/12)、 「耳のいろいろ」(11/3、4、12/7)、「水辺での狩り」(1/25、2/22、24) ・新年イベント セルフガイド「ヘビスクラッチ」(1/2～13) ・世界野生生物の日イベント「クイズ サルを探して、見くらべよう」(2/27～4/7)
多 摩	・世界チンパンジーの日「チンパンジーのかんさつビンゴ！」(7/14～15、21) ・新年イベント 伝説×動物クイズラリー (1/2～1/31) ・はじめまして、の春が来た！動物にかわって自己紹介カードを作ってみよう！ (3/22～4/6)
葛 西	・開園記念イベント All About MAGURO 35th Anniversary「くらべるマグロシート」 (10/12～14)、開園35周年記念ウルトラクイズ (10/13～14) ・水族園のお正月2025「おめでたい生き物」クイズシート (1/2～3)
井の頭	・開園記念イベント セルフガイド「開園82周年 今も昔も文化園めぐり(5/18～19) ・怪談スタンプラリー「動物園怪談画劇―井之頭百物語・玖(きゅう)」 (9/18～11/4) ・2025巳年クイズラリー「によろによろ すすめ！あしラリー」(1/2～2/2)

(3) 実施した主な特定の日や期間のプログラム

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・施設係のサクラガイド(4/4) ・英語ガイド ①日本の鳥②五重塔・ニホンジカ・ニホンカモシカ(①②いずれかを実施 4/6、13、20～21、27、5/12、28、6/22、29、7/6、13、1/12～13、19、25～26、2/16、19、22～24、26、3/2、8、12、15、19、20、22～23、26、30) ・「真夏の夜の動物園」―なぞ(8/11～16) 『なぞ』を語る、真夏の夜「世界ゾウの日特別イベント スポットガイド『きみもゾウ博士』(8/11～13)、「なぞ博士からの挑戦状～動物のなぞを解き明かそう！」展示「なぞ博士の研究室」(8/11～18)、「コケ玉作り」(8/12～13) ・終戦記念日特別企画「おはなし会『かわいそうなぞう』(8/15) ・リーリー&シンシンありがとう～約5000日分の感謝を込めて～「リーリー&シンシンへのメッセージ募集」(9/15～28) オンライン ・世界ゴリラの日 「飼育係のおはなし『ゴリラの危機とスマートフォン』(9/21)、「ワークショップ『ゴリラクエスト～森の未来～』(9/23)、「使用済み携帯電話・スマートフォン回収ボックスの設置」(9/18～12/28) ・世界キツネザルの日のイベント 動画配信(10/21)、「マダガスカルリッチバナリアイスクリューム」購入者にポストカード配布(10/25) ・東京文化財ウィーク「特別ガイドツアー『天然記念物の動物たち』(10/29～30、11/1)、「特別“英語”ガイドツアー「10 minutes guide of protected animals and cultural

園 名	内 容 (実施日)
	property (日本の動物と文化財の10分ガイド)」(10/31、11/1、5、10～11) ・施設系の紅葉ツアー (11/30、12/4) ・飼育係のおはなし特別版「餌から考える動物福祉～スマトラトラに皮付き鹿肉を与えてみる～」(12/19、1/22) ・新年イベント 「上野囃子保存会『獅子舞』園内練り歩き」(1/2～3)、「来園記念フォトスポットの設置」(1/2～26)、「来園記念スタンプの設置」(1/2～28)、「上野動物園から新年のご挨拶」園内のモニターとYoutubeで配信 (1/2～26)、飼育係のおはなし特別版「新年の干支『へび』のおはなし」(1/4) ・世界湿地の日にあわせた4園連携企画「身近な湿地に目を向け、湿地の今を知ろう！」「ミニトーク『釧路湿原から広がれ！タンチョウレスキュー』」(1/31、2/1～2、22～24) ・世界センザンコウの日 X(旧Twitter)の発信、サイン掲出、さるやまキッチンでの動画上映 (2/13) ・施設系のサクラガイド (3/25、29)
多 摩	・飼育の日 「トーク『いいレト～動物園の仕事のひみつ～』」「エサ用給餌器設置体験『300回ハンドル回しチャレンジ～飼育係からの挑戦状～』」(4/20～21)、「飼育の日ドリンク『ユキヒョウひそむ 黒ごまロックカフェ』」販売 (4/11～) ・開園記念日 園長と着ぐるみのお出迎え (5/5) ・ライオンバス運行開始60周年記念イベント 「園長と着ぐるみのお出迎え」(5/17)、「スペシャルトーク」「記念抽選会」(5/17～19)、「記念乗車カードの配布」「顔出しパネル」(5/9～9/30)、「記念スタンプラリー」(5/17～6/30)、「記念ヘッドマークの掲出」(5/17～6/28) ・世界カワウソの日 「クイズパネル展示」(5/23～6/4)、「キーパーズトーク」(5/26、29)、「ボランティアガイド」(5/26) ・世界キリンの日 「キリンのかんさつやってみよう！」(6/16、23)、「スペシャルトーク」(6/22) ・ヤマユリガイド (7/15、20) ・世界チンパンジーの日 「スペシャルトーク」「チンパンジーのかんさつビンゴ！」(7/14～15、21)、「オリジナル商品「オリジナルリユースカップ付き梅酢ドリンク」「梅冷やしうどん」「てぬぐい チンパンジーと野菜」」の販売(7/10～9/23) ・サマーナイト@Tama Zoo 2024 一緒に見上げる、夏の夜空 夜間開園 (8/10～11、15～17、24)「夜のキーパーズトーク」「コウモリウォッチング」(8/10～11、15～17、24)、「夜も虫となかよし」(8/10、24)、ボランティアによる特別イベント『オランウータンの日 紙芝居』(8/17、24)、『世界ライオンの日 やってみよう！ライオンクイズ』(8/10)、「夕ぐれの雑木林で生きもの探し！」(8/15) など ・国際レッサーパンダデー「スペシャルトーク」(9/16)、「ボランティアによる特別イベント『レッサーパンダを観察しよう！』」(9/29) ・長寿イベント「長寿トーク」(9/14～16)・動物慰霊祭 (9/23) ・世界渡り鳥の日「クイズ&スペシャルトーク」「キーパーズトーク」(10/13) ・コアラ来日40周年記念イベント「ユーカリススペシャルトーク」(10/26)、「ガイドツ

園 名	内 容 (実施日)
	アー『コアラとその仲間』(10/25、26)、オリジナル商品「コアラのおやすみソフト」販売(10/25～)、SNS連携企画X(旧Twitter)によるリレー形式での投稿(10/18～25) ・世界ユキヒョウの日 SNS企画 X(旧Twitter) 発信(10/22～23)、多摩動物公園で販売しているユキヒョウのドネーション商品を展示場でポスターを掲示 ・東京文化財ウィーク 特別ガイドツアー「天然記念物の動物たち」(11/2～3)、キーパーズトーク「アカガシラカラスバト」「ニホンカモシカ」(11/2～4) ・第10回都立動物園アフリカフェア「オープニングセレモニー」「アフリカ音楽&ダンスの公演『アフリカン・ビートで踊ろう!』」(11/9)、「アフリカ各国紹介ブース『アフリカン・ディスカバリー』」「ワークショップ『アフリカ布で作るマグネットコサージュ』」「アフリカン・スタンプラリー」「フォトスポット『ここで撮ろう!アフリカの思い出』」「アフリカの動物たちの魅力を知ろう～飼育係のおはなし～」(11/9～10)、もんでんゆうこ氏によるガラスアート(10/7～12/24)、「いっしょに動物かんさつ チンパンジーのどうぶつ観察ビンゴ!」「フェイスペインティング」「東京消防庁音楽隊によるコンサート」(11/10) など ・新年イベント 園長と着ぐるみのお出迎え(1/2～3) ・世界湿地の日にあわせた4園連携企画「身近な湿地に目を向け、湿地の今を知ろう!」コウノトリまつり2025 「コウノトリスペシャルトーク」(2/1)、「コウノトリキーパーズトーク」(2/1～2)
葛 西	・35周年記念スペシャルガイドツアー(4月～3月[8月・10月を除く]の毎月第3日曜日)「施設の裏側」「調査係の仕事」など、毎回テーマを変えて実施 ・飼育の日「飼育スタッフによるスペシャルガイドツアー」「飼育スタッフに聞こう! 魚たちのエサの時間」「飼育の日スタッフトーク」(4/20) ・35周年記念企画「苗木無料配付」(5/25)、「かさりんぬりえ～サンゴしょうのいきものをぬってみよう!～」(5/26、7/13) ・Night of Wonder 夜間開園「どうなる?夜」「ウェルカムトーク」「シーライフトーク」(8/11～14)、「寿流江戸川太鼓の演奏」(8/11～12) ・開園記念日イベント「All About MAGURO 35th Anniversary」「情報資料室『マグロのぞき』」「かさりんBASE! マグロ」「スペシャルガイドツアー『マグロ裏側探検』」(10/12～14) ・ボランティアーズDay(10/27) ・水族園のお正月2025「開運・かさりんみくじ」配布(1/2～5)、「オーちゃん フーちゃんがお出迎え」(1/2)、「江戸川区発!『寿流 江戸川太鼓』の演奏」(1/3)、「お正月スペシャルガイドツアー」(1/4～5) ・Deep of Wonder—不思議な深海の生き物たち2025水族園オリジナル「シンカイカード」プレゼント(2/15～28)、「かさりんBASE! 深海」(2/23～24) ・開園35周年記念・サンゴプロジェクト合同イベント「かさりんBASE!サンゴ」(3/9)
井の頭	・飼育の日! 飼育係のおしごとトーク(4/20～21) ・累計入園者数6,000万人達成までカウントダウン(5/1～14) X配信、ステッカー配布(5/18～19) ・開園記念イベント「園長の文化園おさんぽガイド」「飼育係のいきものガイド」「動

園 名	内 容（実施日）
	物解説員とめぐる文化園歴史たんけん」「着ぐるみのお出迎え」（5/18～19）、「農園芸職員と松ぼっくりでモルモットづくり」（5/18）、「農園芸職員とめぐる文化園植物めぐり」（5/19） ・アジアゾウの「はな子」命日 献花台設置、X配信（5/26） ・動物慰霊祭（9/23）・秋のお茶席（10/14） ・ヤマネコ祭2024～島にすむ生きものたち「島のいきものスタンプラリー」、（10/19～10/20）、「ヤマネコおはなし会」「ヤマネコカルタ大会」（10/19）など ・東京文化財ウィーク特別ガイドツアー「天然記念物の動物たち」（11/3） ・ちょっとおでかけ 秋の夜長の自然文化園 夜間開園（11/9～10）「夜のどうぶつたんけん 動物解説員によるガイドツアー」「飼育係のいきものガイド-夜編-」「飼育係に質問してみよう」「獣医さんのお仕事道具を見てみよう」「モルモットと写真撮影」「彫刻館でピアノを弾こう」（11/9～10）、「飼育係×彫刻館学芸員トーク『井の頭ネズミの夜』」「ワークショップ『松ぼっくりと羊毛でヒツジを作ろう！』」（11/9）、「樹木ガイド『巨木・名木よもやま話』」「秋の夜長のボサノヴァコンサート」「バイオリン演奏『森の夕べの演奏会』」「彫刻ガイド『夜の彫刻園を楽しもう！』」（11/10）など ・地球にやさしく心あたたまる、冬のかざりつけプロジェクト 2024（12/3～25） ・新春・干支フォトスポット（12/26～2/2） ・お正月イベント 「園長によるお出迎え」「新春・どうぶつおみくじ」「飼育ガイド『アオダイショウのおはなし』『ヒバカリのおはなし』」「吉祥彫刻ツアー」（1/2）、「干支巳年ガイド『人とへびとの長くて細いお話』」など

（４）実施した主なフィールドプログラム

園 名	内 容（実施日）
上 野	・セミとコウモリの観察会（8/3） ・鳥？けもの？「なぞ」だらけの生き物に迫る～野生のコウモリ観察会～（8/14） ・はじめよう！バードウォッチング（3/29、30）
多 摩	・ホタル観察会 オンライン教室（6/7～8/31）園内観察会（6/14、16） ・ムササビの棲む森を見よう！（9/8）
葛 西	・東京の海を知る「東京の海の幸を釣る・食べる」（9/21） ・親子向け観察会「トビハゼの調査地をたずねる」（9/21）
井の頭	・身近ないきもの探検「夜の文化園ではっけん！セミの羽化のひみつ」（8/3）、「植物の実やタネ、どうやって どこへいくの？」（11/17）

(5) 実施した主な講演会・シンポジウム

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・パンダの日記念講演会「ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトの13年間を振り返って」(10/28) ・上野の山文化ゾーンフェスティバル講演会「小笠原の野生動物の現状と動物園ーオガサワラカワラヒワが危ない！ー」(11/23) ・世界湿地の日にあわせた4園連携企画「身近な湿地に目を向け、湿地の今を知ろう！」釧路市動物園の獣医師による講演「タンチョウレスキューの現場から」(2/2)
多 摩	・世界ゾウの日スペシャルトーク「アフリカゾウ 抜牙プロジェクトの記録」(8/15) 対面とオンライン ・コアラ来日40周年記念イベント講演会「よみがえれコアラの森」(10/26) ・第10回都立動物園アフリカフェア講演会「野生のキリンの生きざまー知っているようで知らないキリンの姿ー」(11/10) ・干支の講演会「へび博士と覗いてみよう！へびの世界」(1/13)
葛 西	・開園35周年記念海鳥イベント「つどえ オロロ〜ン！」海鳥講演会「つどえ オロロ〜ン！」(11/23) 対面とオンライン ・身近な水辺保全講演会「知って守ろう水辺の生き物」(2/9) ・Deep of Wonderー不思議な深海の生き物たち2025「深海トークショー」(2/22)
井の頭	・ツシマヤマネコ保全講演会「動物園と生息地をつなぐ」(10/13) 対面とオンライン ・身近な水辺保全講演&観察会「これからもずっと あなたのとなりのヒキガエル」(3/2) ・「ようこそデザニャーレ-東京どうぶつえん すいぞくえんデザイン室-」クロージング・トーク (2/22)

4. 園内での情報発信

動物展示前での情報提供の基本である種ラベルについては、各種の絶滅危機度やブーストック種情報を記載した種ラベルへの更新を多摩より開始した。その他、各園で常設の解説サインの一部を更新し、印刷物や特設展等でより詳しい情報提供を行った。

(1) 展示解説サイン・種ラベルの充実

園 名	内 容
上 野	・バードハウス「はねのいろ・いろいろ」常設展示 (6/4～)
多 摩	・水鳥池の野生のカイツブリ繁殖の解説サイン (8/25～) ・種ラベル更新：一部鳥類を除く (通年)
葛 西	・「葛西周辺のカニ」水槽の展示装飾と解説サイン (5/16～) ・「水辺の自然」の生き物の解説サイン (7/11～)
井の頭	・カワウソ、ルリカケスの解説サイン (10/18～) ・アマミトゲネズミの情報ラベル (3/18～)

(2) ニュースレターや解説パンフレット等の発行

園 名	内 容
上 野	・ZOO TODAY (4月～4月号) ・旧寛永寺五重塔リーフレット
多 摩	・TAMA NEWS (4月号～3月号) ・ヤマユリめぐりリーフレット
葛 西	・SEA LIFE NEWS (第115号～第120号)
井の頭	・花ごよみ (第254号～第265号)

(3) 実施した主な特設展、特設掲示

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・両生爬虫類館特設展示「カルルくんの自由研究ーあしの違いをくらべてみようー」(3/5～2025/12/28 会期延長) ・パネル展「上野動物園に文化遺産!? ～上野動物園の歴史を巡ってみよう！見てみよう！～」(3/20～5/31) ・飼育の日パネル展示「のぞきみ！キーパーズジョブ-飼育係のオシゴト紹介-」(4/16～5/19) ・しのばずラボ 夏の昆虫展 (8/10～9/1) ・リーリー&シンシンありがとう～約5000日分の感謝を込めて～企画展「リーリー・シンシン生まれ故郷の中国へ～上野で過ごした14年間の軌跡～」(9/3～11/24)、飼育職員等からの寄せ書き展示 (9/25～10/31) ・世界湿地の日にあわせた4園連携企画 タンチョウ保護の取り組みを伝えるパネル展「タンチョウレスキュー展」(1/31～2/24)
多 摩	・パネル展「海を越え、タスマニアからきた動物大使(アンバサダー)」(2/22～5/28) ・飼育の日パネル展示「しくレット～動物園の仕事のひみつ～」(4/11～5/7) ・世界バクの日パネル展示 (4/18～5/31) ・世界チンパンジーの日ミニパネル展 (7/4～8/27) ・カブトムシ展「カブトムシの成長すごろく～完全変態する昆虫～」(8/1～9/10) ・世界ゾウの日「アフリカゾウ(砦夢)の左牙展示」(8/8～8/27) ・秋の鳴く虫展 (9/12～24) ・企画展「コアラ来園40周年 年表で振り返るコアラ飼育の歴史」(10/10～11/26) ・第10回都立動物園アフリカフェア 企画展「アフリカン・モザイク」(11/7～12/3)、パネル展「アフリカ園担当飼育係が見た劇団四季『ライオンキング』」(11/9～11/10) ・長寿お祝いイベント 長寿個体の紹介パネル (9/13～10/8) ・干支の企画展「ノックして巳(み) ない？へびの扉～先入観をすてて巳(み) て！～」(12/19～2/11)
葛 西	・企画展示「『水辺の自然』の生き物」(7/11～) ・「自然への影響を減らす取り組み」トピック展示(9/12～24) ・「夢いっぱいのおさかなアート」展示 (11/13～)

園 名	内 容（実施日）
井の頭	・ ウェルカム展示「ヒキガエル」（3/25～5/26）、「アゲハのなかまの幼虫とさなぎ」（5/28～7/11）、「ナナフシモドキ」（7/12～9/3）、「コバネイナゴ」（9/4～11/22）、「春をまつカマキリの卵」（11/23～3/23）、「ヒキガエル（たまご/オタマジャクシ）」（3/25～） ・ 4園連携特設展示「ようこそデザニャーレ-東京どうぶつえん すいぞくえんデザイン室-」（3/31～2025/2/21） ・ 彫刻園企画展「写真と彫刻」（3/26～12/22） ・ 特設パネル「しいくがかりのアレコレばなし！」（4/16～5/31） ・ 水生物館特設展示「身近な外来生物 アメリカザリガニ」（4/26～10/27） ・ スポット展示「夏が来た！いきものをさがそう」（8/6～9/8） ・ 水生物館特設展示「井の頭池の変遷と水生物館」（11/19～2025/4/13） ・ 「アマミトゲネズミがやってきた！～奄美の森の小さな生きもの～」（3/18～2025/6/29）

5. 学校教育との連携

学校教育との連携を深め、教員を対象とした実践的な研修会や児童、生徒等を対象とした学習プログラム、学習補助教材の貸出しや提供等を行なった。オンラインの学習教材や研修教材の開発、オンライン授業や出張授業、オンラインによる教員向け研修会なども引き続き継続した。

（1）教員を対象としたプログラム

①授業に活かせる「動物園・水族園」講座

教員が授業を行う上で参考となる生物学的な知識やそれに関連したスキルを提供する研修講座を実施した。オンライン開催の講座と対面開催の講座の両方を実施した。

実施園	講座名	実施日	参加者
上 野	動物の赤ちゃんの生まれかた・育ちかた オンライン開催：講演会スタイル	7月22日	58名
		7月24日	43名
	動物の観察のしかた～鳥のくちばしと足を例に～ オンライン開催：講演会スタイル	7月22日	47名
		7月24日	39名
	動物園獣医師の1日 オンライン開催：講演会スタイル	7月22日	52名
		7月24日	51名
多 摩	動物の食べ方と消化	7月31日	20名
		8月1日	19名
	動物の体のつくりと運動	8月6日	19名
		8月9日	20名
	3年理科 昆虫に親しむ・昆虫を知る	8月19日	18名
		8月20日	18名
葛 西	はじめての動物飼育—水の生きもの	7月25日	30名

	水族園でみつける「うみのかくれんぼ」	7月29日AM	21名
		7月29日PM	15名
		8月5日AM	20名
		8月5日PM	15名
	干潟で体験！生きものと環境を知る	8月2日	21名
井の頭	身近なムシの調べ方・よび寄せ方	7月23日	19名
		7月26日	16名
	井の頭池で調べる水辺の生きもの	7月30日	18名
		8月8日	18名
	はじめての動物飼育—モルモット	8月21日	23名
計			577名

②授業に活かせる動画集

学校の授業中に活用できる単元に即した動画のYouTubeでの公開を継続した。一部の動画は内容を修正した。

対象教科	タイトル	制作園
小学校 国語	たまどうぶつこうえんのキリンの赤ちゃん	多 摩
	とりのくちばし（うえのどうぶつえん）	上 野
	とりのくちばし（たまどうぶつこうえん）	多 摩
	どうぶつのみのまもりかた**	上 野
	うみのかくれんぼ～オニダルマオコゼ～	葛 西
	うみのかくれんぼ～オクヨウジ～	葛 西
	うみのかくれんぼ～カレイのなかまプレイス～	葛 西
	スイミーのくらし	葛 西
	たまどうぶつこうえんのじゅういのいちにち	多 摩
小学校～中学校 理科	きせつと生物（ニホンジカの一年①毛のへん化）	上 野
	きせつと生物（ニホンジカの一年②角のへん化）	上 野
	きせつと生物（ニホンザルの一年）	上 野
	動物たちの食べかた ①アジアゾウ	上 野
	動物たちの食べかた ②キリン	上 野
	動物たちの食べかた ③ホッキョクグマ	上 野
	動物たちの食べかた ④カリフォルニアアシカ	上 野
	動物たちの食べかた ⑤ジャイアントパンダ	上 野
	動物たちの食べかた ⑥ふんをくらべてみよう	上 野
	動物たちの食べかた ⑦ウマ	上 野
	みちかな虫をさがそう	多 摩

対象教科	タイトル	制作園
	いろいろな虫をよびよせよう！バナナトラップ編	井の頭
	カブトムシの一生を知ろう！	多 摩

**内容を修正した動画

③生き物飼育についての先生向け研修動画

生き物の飼い方をテーマにした教員向けの研修動画のYouTubeでの公開を継続した。

タイトル	制作園
モンシロチョウの飼い方	多 摩
学校で飼育してみよう！——メダカ編	葛 西
学校で飼育してみよう！——ザリガニ編	葛 西
学校で飼育してみよう！——ヤゴ編	葛 西

④授業が楽しくなる教材集

教員へのヒアリングで要望が多かった、単元に即したさまざまな動画資料や実物大画像などをセットにしたパッケージ教材の開発をはじめ、国語の読み物をテーマにしたものを特設コンテンツとして東京ゾーンネット内に公開した。

タイトル	制作園
スイミー	葛 西
うみのかくれんぼ*	葛 西
動物の体のつくりと運動*	多 摩

*今年度、新規に公開したタイトル

⑤国立科学博物館が主催する「教員のための博物館の日2024」への参加

「教員のための博物館の日」は、学校での博物館利用を進めるために、教員自身に博物館の楽しさや学習資源を知ってもらう日として全国で開かれている催しである。国立科学博物館会場に設けられたブースにて、都立動物園・水族園4園が作成している教員向けの各種冊子や都立動物園・水族園を学校で活用してもらうための資料の配布、授業に役立てられる動画の紹介やスタッフによる口頭説明等を行った。また、7月24日には各30分の自由参加制プログラム「生きものの観察が楽しくなる！マグロで学ぶ生きものの見方」参加者54名、「生きものの観察が楽しくなる！キリンで学ぶ生きものの見方」参加者57名を実施した。参加者は期間中、上野動物園を無料で見学できるようにした。

実施日：7月23～26日 参加者1,120名 うち、上野動物園入園者322名

⑥ その他の教員向け研修・セミナー

実施園	講座名（実施日・対応人数）
上 野	・文京区小学校理科教育研究会「オンライン授業レクチャー」（1/15・19名）
多 摩	・東京都小学校理科教育研究会「昆虫プログラムと昆虫園見学」（6/13・13名） ・東京都教職員研修センター 専門性向上研修 生き物飼育【Ⅱ】「やってみよう生き物の飼育ー小動物編ー」（8/2・29名） ・東京都教職員研修センター 東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修Ⅰ「選択研修」（8/20・3名） ・日野市教育センター「動物園のまわり方」（9/6・20名）

葛 西	・ 杉並区中学校理科教育研究会（ 7 /30・ 10名）
井の頭	・ 武蔵野市立小学校生活科と総合研究部「昆虫の探し方・見分け方」（7/2・ 18名） ・ 東村山市教育研究会「動物の骨格」（12/4・ 15名） ・ 武蔵野市小中学校教育委員会「井の頭池の水鳥」（1/15・ 9名）

（２）児童、生徒、学生などを対象としたプログラム(大学・専門学校含む)

園 名	内 容	件数・対応人数
上 野	団体見学指導	74件・2,017名
	団体ふれあい体験指導（子ども動物園）	37件・784名
	出張授業・講師派遣	2 件・98名
	オンライン授業	34件・2,748名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	727件
多 摩	団体見学指導	114件・7,520名
	団体ふれあい体験指導（モルモット教室）	受入れ休止
	出張授業・講師派遣	9 件・1,000名
	オンライン授業	4 件・254名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	650件
	職場体験	7 件・28名
葛 西	団体見学指導	235件・13,968名
	出張授業・講師派遣	4 件・314 名
	オンライン授業	8 件・488 名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	823 件
	職場体験	7 件・22 名
井の頭	団体見学指導	128件・5,996名
	団体ふれあい体験指導（モルモットふれあいコーナー）	受入れ休止
	出張授業・講師派遣	8 件・527名
	オンライン授業	15件・1,647名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	299件
	職場体験	10件・19名

（３）教材の開発と貸出、動画教材の制作と配信

① 学校団体向け教材の配布と提供

事前学習や当日の見学時に活用するための教材の開発と提供を行った。また、生きものを見るポイントや園の見どころ、プログラム・教材を紹介した教育活用ガイドブックなどの参考資料を配布した。

園 名	内 容（件数・対応人数）
上 野	貸出教材 ・わくわく観察バッグ（25件・1,251名） ・クイズdeスタンプ（97件・9,481名） ・テーマ別見学ワークシート（21件・1,802名） ・オンライン授業後貸出教材（7件・717）
	提供教材 ・観察ガイドブックレット（2種・ダウンロードも可能）
多 摩	貸出教材 ・動物ふしぎ発見ポケット（189件・13,293名） ・紙芝居セット（126件・8,705名） ・事前学習用DVD（10件・812名） ・スタンプ（18件・1,875名） ・その他（5件・715名）
	提供教材 ・動物クイズ（212件・17,595名） ・昆虫ポケット（53件・4,562名） ・観察シート（6件・313名） ・セルフガイドブックレット（8件・162名） ・その他（10件・785名）
葛 西	提供教材 ・事前学習用DVD（505件） ・水族園魚タッチングシート（ダウンロード教材）
井の頭	貸出教材 ・事前パネルセット（39件・2,461名）
	提供教材 ・事前教材セット（484件・28,563名） ・個別教材（13件・720名）

② 中高生向けの冊子の配布、「動物園・水族園レポートチャレンジ」の募集

「中学生・高校生のための動物園・水族園活用ガイド」は、引き続き東京ズーネットからダウンロードできるようにした。「動物園・水族園レポートチャレンジ」の募集チラシを印刷し、「活用ガイド」とともに都内と近県の中学校・高等学校（1,282校）の理科教員宛に郵送した。

「動物園・水族園レポートチャレンジ」には、12月末までに中学生577組、高校生219組からの応募があり、最優秀作品賞を4組（中学生3組、高校生1組）に、奨励賞を6組（中学生6組）に、今年から新設したユニーク賞を2組（中学生2組）に授与した。

(4) 大学教育の実践

連携協定を締結した大学等、大学・専門学校の学生に向けた講義、実習プログラム等を実施した。

① 実習

内 容	上野	多摩	葛西	井の頭	計
飼育実習	8名	15名	10名	5名	38名
獣医臨床実習	2名	2名	—	—	4名
博物館実習	8名	9名	10名	4名	31名
特別実習（研究・卒論）	—	12名	—	—	12名
インターンシップ（都立大）	2名	—	—	1名	3名

② 講義・見学指導（オンライン・出張授業を含む）

園 名	内 容（実施日・対応人数）
上 野	・東京こども専門学校（6/25・9名） ・東京農業大学「博物館概論」（7/23・40名、出張） ・仙台ECO動物専門学校（7/26・7名） ・福岡ECO動物海洋専門学校（11/14・13名） ・日本獣医学生協会(JAVS)「動物園の役割と野生生物の保全」（11/17・58名、オンライン） ・国立音楽大学「動物園の幼児教育」（1/23・23名）
多 摩	・帝京科学大学「都立動物園での希少種保全の取り組み」（4/18・33名） ・日本獣医生命科学大学「動物園の仕事とその役割」（4/19・118名、出張） ・日本獣医生命科学大学獣医学科「比較発達心理学実習 キリン観察」（5/10・6/7・42名、「チンパンジー観察」5/24・6/21・42名） ・日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科「動物心理学 チンパンジー観察」（5/16・23・52名） ・帝京科学大学「動物福祉と動物園」（6/3・33名、6/4・33名） ・日本獣医生命科学大学「博物館資料論」（6/8・18、・30名、出張） ・東京農工大学農学部獣医生理学研究室「動物病院業務」（6/16・5名） ・埼玉動物海洋専門学校「ゾウのトレーニング」（6/27・31名） ・一橋大学「動物園の動物福祉」（6/30・8名） ・TCA東京ECO動物海洋専門学校「ワークシートを用いた動物観察」（7/13・85名） ・ルネサンスペットアカデミー静岡校「飼育係・動物園の仕事・保全」（9/19・16名） ・東京都立大学 学芸員養成課程「博物館実習Ⅰ見学実習」（10/5・11名） ・白百合女子大学・駒澤大学「チンパンジーの行動観察」（11/9・15名、12/7・23名、12/10・6名） ・東京農工大学農学部共同獣医学科「野生動物及び展示動物に関する獣医倫理」（11/25・38名、オンライン） ・日本獣医生命科学大学「テーマを定めた観察」（1/7・35名）

園 名	内 容 (実施日・対応人数)
	・TCA東京ECO動物海洋専門学校「解説員業務、園の概要、動物観察のポイント」(1/23・77名) ・帝京大学教育学部「動物園の活用方法と昆虫プログラム」(1/28・23名) ・東京ビジネス・アカデミー「動物園の保全活動」(2/21・39名)
葛 西	・埼玉動物海洋専門学校「水族園の業務」(10/11・23名)
井の頭	・帝京科学大学アニマルサイエンス学科「学芸員の仕事」(5/2・6名) ・武蔵野大学幼児教育学科「教材を使った動物園見学」(5/25・95名) ・日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科「動物観察」(6/4・50名、6/5・53名) ・武蔵大学メディア社会学科「動物解説員の業務」(8/2・3名、8/9・3名、8/10・2名) ・日本獣医生命科学大学「野生動物学実習」(8/27・56名) ・バンタンデザイン研究所「動物園のデザイン」(9/18・6名) ・東京農工大学「地域システム生態学実習Ⅱ」(10/12・12名) ・法政大学キャリアデザイン学部(10/27、1/12・1名、) ・アジア動物専門学校「井の頭自然文化園について」(10/30・27名) ・東北芸術工科大学「動物園におけるアート・デザインと教育普及の関わり」(10/8・8名、オンライン) ・福岡ECO動物海洋専門学校「ツシマヤマネコの域外保全」(12/17・5名) ・埼玉海洋専門学校「淡水生物の維持管理」(12/17・16名) ・アジア・アフリカ語学院「コースガイド」(2/26・32名)

6. 他団体と連携した教育プログラム

専門的な視点や地域に根差した教育普及事業団体等の他団体と連携して行う、生きものの解説や観察会、展示などの教育プログラム。一部のプログラムはオンラインにより実施した。

(1) 野生動物保全関連団体と連携したプログラム

園 名	内 容 (実施日・対応人数)
上 野	・関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会連携イベント「おしえて！コウノトリ～エコネットと私たちの暮らしの関係って？～」 パネル展、スタンプラリー「ニホンコウノトリの食べ物になる生き物を探そう！」(10/2～27)、動物解説員による動物ガイド「コウノトリってどんな鳥？」、関東エコ・ネットカード・おしえてコウノトリBOOK配布(10/4、11、18、25) ・(公社)日本動物園水族館協会 動物愛護週間行事「第49回動物愛護に関する標語コンクール」 『動物愛護に関する標語』の募集(7/2～31)、入選作品の掲示(9/20～10/20) ・国内でゴリラを飼育している動物園との連携企画 世界ゴリラの日のイベント 「ライブ配信『ライブ配信で見る、ゴリラたちの今』」(9/22) オンライン 千葉市動物公園、浜松市動物園、京都市動物園、東山動植物園、日本モンキーセンター ・認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金 世界野生生物の日「トラ博士になろう」(3/1、15)
多 摩	・日本クマネットワーク「ツキノワグマについてもっと知ろう」 普及啓発ブース、ミニ

園 名	内 容（実施日・対応人数）
	講演会、キーパーズトーク（7/20） ・昆虫園本館特設パネル展示『タガメとゲンゴロウが危ない！？』～今年も環境省とのコラボで実施～（7/25～8/27） ・多摩動物公園×WWFジャパン「国際フクロウの日」 クイズパネル「飼育員さんだけが知ってる フクロウのウラのカオ@多摩動物公園」（8/4～9/3） ・関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会連携イベント「おしえて！コウノトリ～エコネットと私たちの暮らしの関係って？～」 パネル展、関東エコ・ネットカード・おしえてコウノトリBOOK配布（1/23～3/4） ・世界湿地の日にあわせた4園連携企画「身近な湿地に目を向け、湿地の今を知ろう！」コウノトリまつり2025 紹介ブース、キーパーズトーク、（2/1～2）、ミニ講演会、スペシャルトーク（2/1）野田市、鴻巣市、福井県、越前市、豊岡市、兵庫県立コウノトリの郷公園、IPPM-OWS、一般財団法人VR革新機構
葛 西	・開園35周年記念 海鳥イベント「つどえ オロロ～ン！」 「北海道羽幌町物産展」（11/23～24）、「かさりんBASE！海鳥」（11/24） 国立研究開発法人 水産研究・教育機構、環境省北海道地方環境事務所、羽幌自然保護官事務所、羽幌町／北海道海鳥センター、バードライフ・インターナショナル、東京農業大学、東洋大学大学院、inakaBLUE
井の頭	・関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会連携イベント「おしえて！コウノトリ～エコネットと私たちの暮らしの関係って？～」 パネル展（2023/11/14～4/7） ・WWF連携企画 ペットにしても幸せにできない動物（5/9）X（旧Twitter） 配信 ・ヤマネコ祭2024 「野生生物の保全に取り組む団体の展示」（10/19～20） 対馬市／対馬観光物産協会、NPO法人ツシマヤマネコを守る会、NPO法人どうぶつたちの病院、認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金、日本アジアカワウソ保全協会、岐阜大学 動物園生物学研究センター・動物保全繁殖学研究室、日本獣医生命科学大学ツシマヤマネコ域外保全栄養チーム、大正大学公共政策学科、（一財）自然環境研究センター、奄美市／奄美市立奄美博物館

（2）地域の博物館・公園・商業施設等と連携したプログラム

園 名	内 容（実施日・対応人数）
上 野	・東京都歯科医師会 歯と口の健康週間イベント「いい歯いきいき」上野動物園（6/2） ・中国駐東京観光代表処イベント「シャンシャンファミリー誕生会」（6/12） ・東京都台東区生涯学習課「なぜなぜクラブ」（8/28） ・国際子ども図書館連携企画「子どものための秋のおたのしみ会 コウモリの絵本の読み聞かせとコウモリの飼育員さんのおはなし」（11/17） ・東京上野税務署 税を考える週間「上野公園クイズラリー」へのジャイアントパンダ着ぐるみの貸出（11/9） ・上野ミュージアムウィーク 国際博物館の日 記念講演会「上野の山で動物めぐり～ひとりであらすか、みんなであらすか～」 国立科学博物館、東京国立博物館 ・東京都美術館・台東区の医療機関との連携「ミュージアム処方箋」 試行プログラム「上野動物園のんびり散歩」（1/31）
多 摩	・コアラの1日 日野警察署長委嘱式と交通安全キャンペーン（4/13）

園 名	内 容（実施日・対応人数）
	・日本獣医生命科学大学附属博物館第一回企画展開催記念「キリン講和会」（4/13） ・よこはま動物園 世界キリンの日「国内キリンの個体群管理について」講演（6/16） ・デジタル技術による動物の感触を体験！「アニマルタッチメカランド in 多摩動物公園」（7/6～7）東京都 ・多摩の魅力をめぐるデジタルdeスタンプラリー（8/1～10/31）東京都 ・立川市柴崎図書館「聞いてみよう！動物園のお仕事」（8/18） ・こども写生画コンクール（9/12～10/14）、表彰式（12/8）、入選作品展（11/28～12/24）日野市、日野市商工会、京王電鉄株式会社、株式会社京王ストア、多摩都市モノレール株式会社 ・日本獣医師会「男女ともに獣医として活躍を続けるためのセミナー」講演（10/22） ・日野市中央公民館 ひの市民大学 講演「多摩動物公園の楽しみ方」（11/16） ・日野市環境フェア ブース出展（2/1） ・第3回自然と人間との共生フォーラム 「農業をするアリ ハキリアリ～菌園と共に生きる～」講演及びパネルディスカッション（2/20） ・ららぽーと立川立飛に たまズーがやってきた！ 「キリンのひみつをさがせ」「飼育係になってみよう」「どうぶつ発見！おもしろラリー」「たのしいどうぶつ着ぐるみグリーティング」（3/1～2）、「たのしいどうぶつの世界 トークイベント」（3/1）
井の頭	・キラリナ京王吉祥寺開業10周年企画「#キラリなアニバーサリーウィークス」（4/29） ・開園記念イベント 「ミニマルシェ」26Kブルワリー、Miジャム、Bella Donna（ベラドンナ）、おかしのいえとパン屋のぱんさん、塚田水産、ココロ化粧品、文伸、武蔵野市観光推進機構（5/18～19）、和（なごみ）クリエイト（5/18）、A.K Labo、むさしのルビー、日本獣医生命科学大学（5/19）、「おえかきZOO」ユニクロ吉祥寺店との共同企画（5/18～19） ・むさしのエコreゾート ワークショップ「ツシマヤマネコってどんないきもの？お話を聞いてヤマネコ・マグネットをつくろう」（8/18） ・「第33回三鷹国際交流フェスティバル」参加（9/23） ・三鷹ネットワーク大学 「干支にまつわるエトセトラ『へびとは一体なにもの蛇？ながくてほそーいへびのはなし』」講演（12/12） ・武蔵野美術大学コラボレーション企画「ムサビ芸文in井の頭自然文化園 生活のなかのかたち」展覧会（1/7～26）、「ワークショップ つなげて！木のかげら」「スタンプラリー」（1/12）、ギャラリートーク（1/25）
葛西	・新水族園PRイベント「水辺の生き物お引越し大作戦」（5/12）江戸川区立臨海小学校 ・銀座・メゾン・デ・ミュゼ・デュ・モンド×artscape「かわいいだけじゃない！生きものをめぐるグッズデザイン ～動物園・水族園のミュージアムグッズから考える～」トークイベント（12/6） ・「新たな魚のエサについて考える」トークイベント、試食イベント（2/1～2）国立研究開発法人水産研究・教育機構、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、株式会社ハーツ ・海のごみ拾いと生物観察会（9/7） 葛西海浜公園主催 ・日野市環境フェア アバターロボットによるDX活用プログラム（2/8）

7. 移動水族館

葛西臨海水族園では、普段、水族園に足を運ぶことができない人にも、海の生物に親しむ機会を提供し、海と海洋生物への興味、理解を深めてもらうため、大型水槽車両を活用し、水族園外においても普及啓発活動を実施した。

実施プログラム	実施件数	延べ参加者数
(1) 大型水槽車両による海洋生物の展示解説プログラム	22件	7,890名
(2) 磯の生物とのふれあいと解説プログラム	31件	2,785名
計	53件	10,675名

*他、3件が都合により中止

8. 友の会運営

動物園・水族園への関心を高めるとともに、広く自然科学への興味を育ててもらうために組織している「東京動物園友の会」の運営を行った。

名 称	東京動物園友の会
会 員 数	一般：4,196名 ジュニア：234名（令和7年3月31日現在）
実 施 事 項	① 新規入会、継続手続等、受付・管理事務 ② 季刊雑誌「どうぶつと動物園」及びジュニア向け会誌「ZOO! どーぶつえんしんぶん」の送付 ③ 各種普及活動案内送付（ダイレクトメール） ④ 新規入会案内パンフレットの配布

(1) 友の会会員対象催物

行 事 名	実施月日	内容・講師等	参加者
大磯アオバト観察会	6月8日	アオバトが海水を飲む様子や美しい羽の色合いなどを観察。 観察指導：「こまたん」メンバー 企画：上野動物園	27名
ホテル観察会 ①オンライン教室 ②園内観察会	①6月7日公開 ②6月14日・16日	事前にオンラインでゲンジボタルの生態等について学び、別日に日没後の園内でホテルを観察。 企画：多摩動物公園	一般含 ②6/14：42名 6/16：43名
セミとコウモリ観察会	8月3日	閉園後の上野動物園不忍池周辺で、セミとコウモリを観察。 企画：上野動物園	一般含 72名

行 事 名	実施月日	内容・講師等	参加者
ムササビの棲む森 を見よう！	9月8日	ムササビの生態や生息環境などについての講義と高尾山薬王院でのムササビ観察。 講師：岡崎弘幸（中央大学附属中学校高等学校元教諭） 企画：多摩動物公園	一般含 30名
茅野市運動公園ニ ホンリス観察ツ アー	9月29日	長野県の茅野市運動公園に生息する野生のニホンリスを観察と荻内正幸美術館の見学。 観察指導：茅野市ニホンリスの会メンバー 企画：井の頭自然文化園	23名
アクアマリンいな わしろカワセミ水 族館見学会	10月26日	福島県のアクアマリンいなわしろカワセミ水族館見学と五色沼自然探勝路の散策。 観察指導：いなわしろ伝保人会 企画：葛西臨海水族園	35名
国立科学博物館筑 波研究施設と茨城 県自然博物館見学 会	11月24日	国立科学博物館筑波研究施設の自然史標本棟と茨城県自然博物館の見学。 企画：多摩動物公園	30名
干支の講演会	1月13日	4園の最近の話題。 講演「へビ博士と覗いてみよう！へビの世界」：竹内寛彦（日本大学 生物資源科学部准教授） 企画：多摩動物公園	一般含 113名
初心者野鳥観察会	3月9日	初心者のための野鳥観察会。 企画：多摩動物公園	中止
高碕賞表彰式と 受賞記念講演会	3月15日	講演「ミナミイワトビペンギンの未来をまもる」：森本大介（海遊館）	67名

（２）ジュニア会員対象催物

開催園	実施月日	内容	参加者
多摩動物公園	6月15日	ホタル観察会	47名
葛西臨海水族園	7月20日	バックヤードツアー	28名
上野動物園	12月8日	パンダって…こ～んな動物！	54名
井の頭自然文化園	3月20日	ニホンリス観察会	38名

(3)「友の会の日」の実施

今年度の「友の会の日」は多摩動物公園で開催し、講演会と園内特別見学会を実施した。また、友の会会員相互及び動物園スタッフとの交流を深めるための懇親会を開催した。

行 事 名	実施月日	内容・講師等	参加者
友の会の日	9月28日	4園の最近の話題 第1部：講演会「ニホンコウノトリの有精卵移動」 「サーバルの繁殖について」と園内特別見学 第2部：懇親会と抽選会（ウォッチングセンター）	108名

9. 資料の収集・公開

動物及び動物園・水族館関係の専門書や学術雑誌、普及雑誌を中心に収集した。定期刊行物は、購入や寄贈のほか、動物園、博物館、研究所等の出版物との交換により収集した。

図書コーナーは毎週土曜日を開室日として閲覧サービスを実施したほか、文献複写郵送サービスを行った。

写真・ビデオ等の映像資料のほか、動物の音声資料（録音データ）も園内外の利用に供した。収蔵図書については、ウェブサイト上に図書検索システムを設けている。

(1) 図書収集状況

区 分	収集 点数	国 内			国 外			摘 要
		購入	寄贈	交換	購入	寄贈	交換	
書 籍 類	367	75	291	0	1	0	0	収蔵数 和書 14,494冊 洋書 4,267冊
雑 誌 類	402	179	117	53	51	0	2	

(2) 図書利用一覧（文献複写郵送サービスの利用も含む）

区分	動物園	哺乳類	鳥 類	爬虫類	魚 類	無脊椎	一 般	その他	計
件数	8	4	2	0	1	0	0	0	15件

（都立動物園水族園関係者は除く）

(3) 映像資料利用状況

区 分	無 料		有 料		合 計	
写 真	20件	84点	43件	79点	63件	163点
ビデオ映像	6件	27点	20件	31点	26件	58点
音 声 資 料	2件	7点	2件	8点	4件	15点
計	28件	118点	65件	118点	93件	236点

（都立動物園水族園関係者は除く）

10. 出版事業

(1) 「東京動物園友の会」会員向け機関誌の発行

動物及び動物園に関する情報を提供するための出版物を発行し、「東京動物園友の会」会員その他関係機関等に配付した。

刊 行 物	内 容
どうぶつと動物園	A4 変型判・54 頁／各号約 6,000 部／春・夏・秋・冬号 (Vol. 76-2～Vol. 77-1) ・春号：表紙は井の頭のもルモット。多摩のオオアシトガリネズミ繁殖成功までの取組、上野のアジアゾウ「アルン」の成長に関する記事を掲載。 ・夏号：表紙は多摩のタスマニアデビル。葛西の「浮遊生物」採集における新たな試みや、多摩で収穫したタケノコを上野のジャイアントパンダに与える取組に関する記事を掲載。 ・秋号：表紙は葛西のチゴガニ。葛西の「水辺の自然」エリアの生きものの回収や、多摩のアフリカゾウの抜牙に関する記事のほか、中国ジャイアントパンダ保護研究センターを訪ねた上野職員らによるレポートを掲載。 ・冬号：表紙は多摩のインドサイの親子。多摩のタスマニアデビルについて、導入時から関わってきた飼育担当者によるこれまでの振り返りや、「動物園・水族館のデザイン」に関する記事を掲載。 ・その他、研究や保全活動の最新知見として、都立動物園・水族園が取り組む新たな“ふれあい”の取組や、フサヒゲルリカミキリの生息域外保全の取組、ダイトウコノハズクの標識調査研究、イワトビペンギンの人工繁殖研究に関する記事等を掲載した。
ZOO！どーぶつえん しんぶん	A4判・8 頁／各号約500部／8 月・2 月発行 ・第32号（8 月発行）は「ツシマヤマネコ」を特集した。絶滅危惧種であるツシマヤマネコについて、体の特徴や国内動物園における保全の取組、井の頭の飼育個体や飼育の工夫などについて紹介した。 ・第33号（2 月発行）は「イカ」を特集した。葛西臨海水族園のアオリイカとコウイカを取り上げ、それぞれの体のつくりや飼育の工夫、採集方法などについて紹介した。

(2) 葛西臨海水族園情報誌の発行

刊 行 物	内 容
SEA LIFE NEWS	A4判・4 頁（第116号は6 頁）／各号約4,500部／第109号～第114号発行 ・葛西臨海水族園の展示生物についての情報や保全活動・調査活動等に関する情報を取り上げ、園内で配布するとともに東京ズーネットサイトで公開した。
	第115号 ナーサリーフィッシュの運搬、「西なぎさ」調査2021まとめ、他

	第116号 「暗闇で出会う生き物たち」大特集、水面を泳ぐクルマサヨリ、他
	第117号 「葛西周辺のカニ」水槽オープン、スポッテッドラットフィッシュの幼魚展示、他
	第118号 「水辺の自然」の生き物たちの企画展示、南極でくらすヒモムシの展示、他
	第119号 持続可能な展示をめざして、マガキがつくる大きな隠れ家、他
	第120号 「ペンギンの生態」エリア展示再開、二枚貝は縁の下の力持ち、他

(3) 高碕賞の表彰

季刊「どうぶつと動物園」の令和6年度発行号(春号～冬号)に掲載された記事及び写真を対象に、優れた作品を選出し表彰した。

区分	タイトル	掲載号	氏 名	摘 要
高碕賞	ミナミイワトビペンギンの未来をまもる	冬号	林 成幸 富澤奈美 森本大介 伊藤このみ	海遊館
奨励賞	多摩動物公園のゴールデンターキン	春号	山崎裕子	
	埼玉県こども動物自然公園のオオカンガルー	春号	三浦 繭	
	多摩動物公園のオランウータン	夏号	菱川理恵	

11. インターネット事業

都立動物園・水族園公式サイト「東京ズーネット」、上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」、X(旧Twitter)、YouTube、Instagramを通じて、動物園・水族園の基本情報及び動物に関する情報を広く提供・配信した。

(1) ウェブサイト「東京ズーネット」の運営 (<https://www.tokyo-zoo.net/>)

都立動物園・水族園の公式サイトとして、基本情報としての利用案内をはじめ、動物に関する最新情報や各園イベント情報、動物に関する基礎知識、各園の見どころや動物の紹介、保全への取組など、様々な情報を提供した

【年間アナリティクス数値】

年度	令和5年度	令和6年度
ページビュー数	32,851,390	34,200,384

※集計ツール(Google Analytics)の計測方法に仕様変更あり(令和5年7月)

【主なコンテンツ】

ページ名	内 容 等
ニュース&イベント	都立動物園で飼育している動物に関する最新情報と各園イベント情報
各種利用案内	開園時間、休園日、入園料、団体入園、乳幼児・障害者対応、園内利用施設、交通アクセス、園内マップ
見どころと歴史	各園の特徴と見どころ及び歴史を紹介
保全への取組	野生生物や生物多様性の保全、研究、環境教育に関する取組を紹介
どうぶつ図鑑	飼育動物に関する生態等の解説
東京ズーネットBB	動物の様々な行動の動画配信（令和7年3月31日現在計1,249点）
鳴き声図鑑	動物の鳴き声の音声配信
東京動物園友の会	友の会に関する案内や発行雑誌の紹介
蔵書検索	上野動物園資料室に収蔵されている動物関連図書の検索システム
どうぶつえんデジタルライブラリー	都立動物園・水族園に関する書籍や雑誌を電子書籍として公開
動物園サポーター	動物園サポーターの紹介、登録方法、登録者リスト、会計報告
学校向けプログラム	教育機関のための各種プログラムの紹介
都立動物園・水族園見どころデジタルマップ	各園の動物展示の見どころ、写真に撮りたくなるような景色、おすすめのギフト商品、少しマニアックなスポット等を解説付きで紹介するコンテンツ
幼児向けコンテンツ「Kids and Zoo」	おもに幼児を対象に、多摩動物公園の動物を取り上げ、ぬりえやひらがな練習等のワークシートや動画を通じて、来園のきっかけや観察の視点を提供
かんさつシート	多摩動物公園の「かんさつシート」の紹介
水族園魚タッチングシート	葛西臨海水族園で楽しく生物観察をするためのワークシートの紹介
移動水族館	葛西臨海水族園の「移動水族館」事業の紹介と申込案内
いきもの広場	井の頭自然文化園園内の「いきもの広場」の紹介、毎週の活動の紹介
花ごよみ	井の頭自然文化園の四季おりおりの植物を紹介

（２）ウェブサイト「UENO-PANDA.JP」の運営（<https://www.ueno-panda.jp/>）

上野動物園のジャイアントパンダ情報サイトとして、展示個体並びに過去に飼育した個体の情報、ジャイアントパンダに関する最新情報やQ&A等を紹介。また、保全への取組やジャイアントパンダ保護サポート基金の紹介、企業協賛の募集等のコンテンツ等の情報を提供した。

【年間アナリティクス数値】

年度	令和5年度	令和6年度
ページビュー数	2,280,958	2,038,019

※集計ツール（Google Analytics）の計測方法に仕様変更あり（令和5年7月）

【主なコンテンツ】

ページ名	内 容 等
トピックス	上野動物園のジャイアントパンダに関する最新情報
パンダプロフィール	上野動物園で展示している4頭の個体紹介
ジャイアントパンダについて	様々な角度からジャイアントパンダを紹介
パンダムービー	動画によるジャイアントパンダ紹介
歴代のパンダたち	これまで上野動物園で飼育した個体を動画とともに紹介
パンダ舎の紹介	ジャイアントパンダ舎を写真付きで紹介
パンダ大百科	ジャイアントパンダに関するQ&A
保全への取り組み	ジャイアントパンダ保護研究に関する概要
熊貓的新聞（パンダニュース）	飼育係による写真付きのレポート
壁紙ダウンロード	パソコン用にダウンロードできる壁紙を提供
ジャイアントパンダ保護サポート基金	基金の概要、企業協賛の募集

（３）X（旧 Twitter）による情報発信

SNS「X（旧Twitter）」を活用し、4園と東京ゾーネットの5アカウントから積極的に情報を発信した。

アカウント		フォロワー数	
		令和6年3月末	令和7年3月末
上野動物園	@UenoZooGardens	1,091,612	1,100,840
多摩動物公園	@TamaZooPark	268,005	278,823
葛西臨海水族園	@KasaiSuizokuen	194,135	197,787
井の頭自然文化園	@InokashiraPark	150,706	154,934
東京ゾーネット	@TokyoZooNet_PR	447,244	447,470

（４）YouTubeによる情報発信

動画配信サービス「YouTube」を活用し、「東京ゾーネット公式チャンネル」「葛西臨海水族園公式チャンネル」「東京ZoovieYouTubeチャンネル」で動画配信を積極的に行った。

（５）Instagramによる情報発信

都立動物園・水族園の公式 Instagram アカウント (@tokyo_zoogram) 及び上野動物園公式 Instagram アカウント (@ueno_zoo_official) を活用し、写真や動画を中心とした積極的な情報発信を行った。フォロワー数はそれぞれ 25,162 及び 37,033（令和7年3月31日現在）。

(6) メールマガジンによる情報発信

プッシュ型メディアであるメールマガジンを活用し、「ズー・エクスプレス」を隔週で計26号(No. 896～921)を配信した。登録数3,780(令和7年3月31日現在)。

12. 映像記録資料制作

(1) 動物写真撮影

都立動物園・水族園を中心に、飼育動物全般に関する記録及び園内外の行事や催物を撮影・記録した。

(2) 動画撮影・制作

飼育動物の行動記録や動物園情報を動画撮影し、ウェブサイト「東京ズーネット」や「UENO-PANDA. JP」で配信したほか、研究発表等の資料として活用した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
ミゾゴイの求愛行動	24分39秒	井の頭	資料として提供
アフリカゾウ砥夢の拔牙	1分45秒	多摩	ズーネット配信用
JAZA総会	2時間43分56秒	JAZA	資料として提供
ジャイアントパンダ	5分5秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダ	4分46秒	上野	資料として提供
世界ゾウの日スペシャルトーク	1時間56分49秒	多摩	YouTube配信用
ニホンイノシシ	13秒	井の頭	YouTube配信用
ニシローランドゴリラ	2分9秒	上野	イベント放映用
多摩動物公園長から台北動物園110周年記念メッセージ	2分17秒	多摩	イベント放映用
友の会の日用上野動物園長メッセージ	11分12秒	上野	イベント放映用
ジャイアントパンダ	2分1秒	上野	イベント放映用
パンダの日講演会	2時間	東京都美術館	YouTube配信用
ジャイアントパンダ	2分36秒	上野	資料として提供
インドネシア大使館ご一行来園アジアアロワナ視察	2分23秒	上野	ズーネット配信用
ジャイアントパンダ	3分25秒	上野	ズーネット配信用
ムサシトミヨ水槽の湧出口再現	21秒	井の頭	ズーネット配信用
千支講演会	3時間51分2秒	多摩	YouTube配信用
ヨーロッパフラミンゴ一斉捕獲	43分12秒	多摩	資料として提供
ジャイアントパンダ	17分32秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダ	4分48秒	上野	資料として提供
保全シンポジウム	3時間30分2秒	東京国立博物館	資料として提供
スイギュウ	1分54秒	多摩	Instagram配信用

内 容	時間	園名	主な使用目的
安全運転講習	41分57秒	上野	資料として提供
アムールヤマネコ	1分41秒	井の頭	ズーネットBB配信用
クロカタゾウムシ	1分44秒	多摩	ズーネットBB配信用
ゲンゴロウ	1分45秒	多摩	ズーネットBB配信用
ジャイアントパンダ双子	1分33秒	上野	ズーネットBB配信用
アジアゾウ（アルン）	2分38秒	上野	ズーネットBB配信用
コガネオオトカゲ	1分57秒	上野	ズーネットBB配信用
サンゴ礁の海水槽	1分22秒	葛西	ズーネットBB配信用
センザンコウ	2分30秒	上野	ズーネットBB配信用
アムールトラ親子（イチ+フタバ）	3分26秒	多摩	ズーネットBB配信用
インドサイ（ゴボン）	3分43秒	多摩	ズーネットBB配信用
コビトハツカネズミ	1分54秒	上野	ズーネットBB配信用
バードハウス	3分31秒	上野	ズーネットBB配信用
ジャイアントパンダシャオシャオに氷のプレゼント	2分40秒	上野	ズーネットBB配信用
ジャイアントパンダレイレイに氷のプレゼント	2分56秒	上野	ズーネットBB配信用
ツシマテン	1分35秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ホテル観察会	2分8秒	多摩	ズーネットBB配信用
ヨーロッパフラミンゴのひな	1分49秒	多摩	ズーネットBB配信用
ケープハイラックス親子	1分35秒	上野	ズーネットBB配信用
シロテテナガザル	2分25秒	上野	ズーネットBB配信用
マヌルネコ親子（プリームラ+フィーガ+アブリコース）	2分19秒	上野	ズーネットBB配信用
アフリカゾウ砥夢	2分47秒	多摩	ズーネットBB配信用
ニホンイノシシ	1分23秒	井の頭	ズーネットBB配信用
インドサイ親子（ゴボン+デコボン）	1分38秒	多摩	ズーネットBB配信用
スイギュウ親子（まる+さち）	2分40秒	多摩	ズーネットBB配信用
インドサイ親子初放飼（ゴボン+デコボン）	3分13秒	多摩	ズーネットBB配信用
ニホンリス	1分18秒	上野	ズーネットBB配信用
ベニイロフラミンゴ	1分20秒	上野	ズーネットBB配信用
ヤマガラ	2分27秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ピコロコ	1分56秒	葛西	ズーネットBB配信用
ユキヒョウ	2分6秒	多摩	ズーネットBB配信用
井の頭夜間開園	3分1秒	井の頭	ズーネットBB配信用
野鳥の森	1分36秒	井の頭	ズーネットBB配信用
アジアアロワナ	1分56秒	上野	ズーネットBB配信用
ペンギンの引っ越し（イワトビ+オウサマ）	5分6秒	葛西	ズーネットBB配信用

内 容	時間	園名	主な使用目的
ペンギンの引っ越し（フンボルト+フェアリー）	4分23秒	葛西	ズーネットBB配信用
ワオキツネザル	2分25秒	上野	ズーネットBB配信用
イソヒヨドリ	1分31秒	上野	ズーネットBB配信用
コビトカバ	2分12秒	上野	ズーネットBB配信用
井の頭池の野鳥	2分17秒	井の頭	ズーネットBB配信用
上野新年イベント	2分12秒	上野	ズーネットBB配信用
ギンケイ	2分47秒	上野	ズーネットBB配信用
ツシマテン	1分36秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ルリカケス	1分58秒	井の頭	ズーネットBB配信用
レッサーパンダ	2分51秒	上野	ズーネットBB配信用
ニホンカモシカ	2分3秒	井の頭	ズーネットBB配信用
シロテテナガザル	1分41秒	上野	ズーネットBB配信用
フェネック	1分36秒	井の頭	ズーネットBB配信用
猛獣脱出対策訓練	2分43秒	多摩	ズーネットBB配信用

（３）広報用資料の制作

動物園・水族園の広報発表時の写真資料に加え、ビデオ映像を撮影・制作し、提供した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ（4月25日）	5分26秒	上野	報道発表資料
アムールトラ（4月25日）	3分6秒	多摩	報道発表資料
ジャイアントパンダ（5月23日）	6分3秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（6月17日）	3分3秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（6月26日）	5分42秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（7月25日）	5分26秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（8月22日）	5分58秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（9月5日）	3分31秒	上野	報道発表資料
インドサイ（9月5日）	5分19秒	多摩	報道発表資料
ジャイアントパンダ（9月19日）	6分12秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（9月28日）	2分57秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（10月3日）	4分33秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（10月7日）	4分45秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（11月28日）	5分28秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（12月26日）	4分7秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（1月23日）	4分19秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（2月27日）	4分49秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（3月27日）	6分5秒	上野	報道発表資料

〔４〕市民・団体との協働事業

１．ボランティアとの協働

園内で展示動物の解説等や入園者案内等のボランティア活動を行う「東京動物園ボランティアーズ（TZV）」（活動場所：上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園、登録者数609名）と「東京シーライフボランティアーズ（TSV）」（活動場所：葛西臨海水族園、登録者数123名）に対して、新規応募者や既存会員を対象とした研修会の開催やユニフォーム等活動経費の援助を行った。

また、「恩賜上野動物園樹木美化ボランティア」が上野動物園で、「NPO法人樹木・環境ネットワーク」が多摩動物公園で、園内の植物の維持管理活動等を行った。

（１）新規応募者対象研修会実施状況

園 名		内 容	実施回数	参加者数
TZV	上野	①TZV合同講習会	① 1 回	①61名
		②DG講習会	② 1 回	②40名
	多摩	①ガイド実習	① 2 回	①40名
		②DG講習会 ③サービスガイド新人研修	② 1 回 ③ 3 回	②38名 ③ 3 名
	井の頭	DG講習会	1 回	35名
TSV	葛 西	新規応募者研修会	4 回	69名

（２）ボランティア会員を対象とした研修会

園 名		内 容	参加者数
TZV	上野	のんびり楽しむドリームナイト&イブニング勉強会ほか	76名
	多摩	モルモットふれあい研修、アフリカンキャッツ勉強会ほか	248名
	井の頭	彫刻園勉強会、いきもの広場勉強会ほか	233名
TSV	葛 西	「イキモノマデカ」勉強会、水族園のペンギン勉強会ほか	66名

(3) ボランティアとの協働による教育活動等

園 名		内 容	実施回数
TZV	上野	園内スポットガイド等	409回
	多摩	園内スポットガイド、ふれあいコーナー活動等	321回
	井の頭	園内スポットガイド等	112回
TSV	葛 西	しおだまり、東京の海ガイド等	288回

2. サポーター事業

個人及び団体、法人等から資金的支援を得て、都立動物園における動物飼育環境の改善に資するとともに、「動物園サポーター」として登録し、市民の動物園事業への理解と参画意識を促進した。

(1) 動物園サポーターの登録状況

園 名	個人 (大人) 1口：10,000円	個人 (大学生以下) 1口：5,000円	子供 サポーター 1口：500円	法人 (団体) 1口：50,000円	金額
上 野	565件 740口	11件 11口	7件 8口	10件 12口	8,059,000円
多 摩	236件 315口	6件 7口	10件 11口	2件 3口	3,340,500円
葛 西	35件 44口	7件 9口	2件 2口	2件 2口	586,000円
井の頭	76件 132口	5件 5口	4件 4口	2件 8口	1,747,000円
合 計	912件 1,231口	29件 32口	23件 25口	16件 25口	13,732,500円

(2) サポーターを対象とした園内見学等の催物（サポーターズデイ）等の実施

開催園	実施月日	内 容	参加者
上野	9月16日	東京国立博物館にて講演会	236名
多摩	10月5日	園長挨拶、収支報告、園内ガイドツアー	115名
葛西	11月16日	園長挨拶、収支報告、ガイドツアー、飼育係とのQ&A	22名
井の頭	12月1日	園内ガイドツアー、近況報告・収支報告	35名
多摩	3月8日	園長挨拶、収支報告、アフリカゾウやチンパンジー飼育担当者のお話	121名
上野	3月9日	園長挨拶、東園自由見学	309名

(3) サポーター資金による飼育展示等の改善

園 名	実 施 事 項
上 野 動 物 園	西園両生爬虫類館アオダイショウ水槽及び架台の設置ほか
多 摩 動 物 公 園	アジア園猛禽フライングケージ内止まり木及び樹木の設置ほか
葛 西 臨 海 水 族 園	ペンギン生態園巣箱の設置ほか
井 の 頭 自 然 文 化 園	テン舎の植栽変更ほか

3. 関係団体への協力

(1) 国際自然保護連合への協力

国際自然保護連合（International Union for Conservation of Nature and Natural Resources 略称IUCN）の委員会である種保存委員会（Species Survival Commission 略称SSC）の保全計画専門家グループ（Conservation Planning Specialist Group 略称CPSG）に事業援助のため寄付を行った。

(2) 関係団体への協力

動物園事業に関係する20の団体に加入し、情報の交換や募金活動への協力を行った。

〔加入団体〕

会員区分	団 体 名	会員区分	団 体 名
法 人 会 員	(公財)世界自然保護基金ジャパン	団 体 会 員	(公財)日本自然保護協会
〃	(公財)日本鳥類保護連盟	〃	(一社)日本霊長類学会
賛 助 会 員	(公財)山階鳥類研究所	〃	(一社)日本応用動物昆虫学会
〃	(一社)日本生態学会	〃	(一社)日本環境教育学会
〃	日本動物心理学会	〃	(一社)日本昆虫学会
〃	(公社)日本造園学会	〃	日本鱗翅学会
維 持 会 員	(公社)日本動物園水族館協会	〃	(一社)日本鳥学会
〃	(公財)日本博物館協会	〃	日本爬虫両棲類学会
団 体 会 員	(一社)日本哺乳類学会	〃	(一社)日本生物教育学会
〃	(公財)日本動物学会	〃	日本動物園水族館教育研究会

4. 基金事業

(1) ジャイアントパンダ保護サポート基金の運営

募金やドネーション商品からの寄付、企業からの協賛金を積み立て、ジャイアントパンダ保護に向けた普及啓発活動や上野動物園での飼育環境の向上、東京都と中国が共同で進めている繁殖研究プロジェクトへの支援に活用した。

① 収入の状況

項 目	金 額	内 容
寄付金	14,008,147円	①園内外募金箱への募金 ②SAVE the PANDAパートナーズ ほか
企業協賛金	4,000,100円	①園内広告協賛 ②ロゴマーク、キャラクターライセンス使用
ドネーション商品 売上金からの寄付金	10,106,062円	オリジナルドネーション商品売上金額の5% （「ありがとうシャンシャン」CD/DVDは80%） アイテム数：39点（ぬいぐるみ、お菓子ほか） 売上点数：135,313点

② 基金活用の状況

使 途	活用内容	活用金額
ジャイアントパンダの保護に向けた普及啓発活動	中国返還企画（リーリー・シンシン）、パンダの日記念企画及び普及啓発パンフレットの発行ほか	31,555,355円
上野動物園におけるジャイアントパンダの飼育環境の向上	パンダのもりにおける飼育環境の充実（放飼場内ガラス隔壁への目隠しシートの貼り付け、竹保管用冷蔵庫の補修）	4,838,900円
東京都と中国野生動物保護協会が共同で進める国際的なパンダ保護活動	東京都と中国の共同繁殖プロジェクト支援（東京都へ寄付）	10,000,000円

③ 基金残高

基金残高	117,582,014円（令和7年3月31日現在）
------	---------------------------

④ ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会の開催

基金を適正に管理し事業に活用するため、ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会を開催した。

〔委員・顧問〕（令和7年3月31日現在）

役 職	氏 名	職 名
委 員 長	菅 谷 博	茨城県立自然博物館名誉館長
副 委 員 長	杉崎 智恵子	公益財団法人東京動物園協会理事長
委 員	湯川 れい子	音楽評論家・作詞家
委 員	二 木 忠 男	上野観光連盟名誉会長
委 員	上 林 山 隆	東京都建設局次長
顧 問	黒 柳 徹 子	女優・ユニセフ親善大使

〔運営委員会〕

回	開催月日	議 題
第 1 回	7 月 19 日	(1) 令和5年度決算報告について (2) 現在の飼育状況について (3) 令和6年度基金進捗状況について
第 2 回	2 月 26 日	(1) 令和6年度基金進捗状況について (2) 令和7年度基金事業・予算（案）について

（2）東京動物園協会野生生物保全基金の運営

野生生物の保全に積極的に取り組む個人・団体の支援を目的として、助成対象活動を公募し、審査のうえ、助成金交付を行った。令和7年度の助成対象活動募集に当たっては、「一般部門」「中高校生部門」「東京動物園協会保全パートナー部門」の募集を行った。

基金PR活動としてポスターとチラシを作成して全国の大学や博物館、研究施設、NPO、SSH、理科教育に関心の高い都立高校等に送付して本助成制度を広くアピールしたほか、各園で配布するパンフレットを新たに作成した。またクレジットカード決済のほか、みずほ銀行が運営する「J-Coin Pay」、株式会社ヤフーが運営する「Yahoo! ネット募金」へ参加するなど、オンライン寄付システムの活用により幅広く寄付を募った。

① 助成交付実績

[令和6年度]

*令和6年2月1日～2月29日公募。令和5年度内に助成対象を決定し、令和6年度に助成金交付。

【一般部門】

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
野生動物における身体的ストレスおよび心理的幸福度の評価法に関する研究（Ⅱ）（継続）	調査研究	大和修	1,000,000円
アジアゾウ繁殖保全に関わるタンパク質の探索2～リン酸化タンパク質に着目して～（継続）	調査研究	佐藤陽子	1,000,000円
野生メダカはいつ・どこで・どのように繁殖している？動画撮影とDNA解析から迫る（継続）	調査研究	近藤湧生	1,000,000円
ヒキガエル属3種の種の境界維持機構の解明	調査研究	西川完途	986,000円
ガーナの野生霊長類と住民の軋轢緩和：住民主体の持続可能な農作物被害対策	保全活動	半沢真帆	1,000,000円
国内希少野生動植物種アカモズファウンダー導入と野生復帰に向けた技術検討（継続）	保全活動	長野アカモズ保全研究所	1,000,000円
絶滅危惧鳥類シロハラサギの飼育下繁殖技術の確立に向けたアオサギの孵化育雛研究	調査研究	シロハラサギ保全チーム	1,000,000円

【中高校生部門】

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
天草に生息するゲンジボタルについてのDNA分析を用いた生態及び生息状況調査	調査研究	熊本県立天草高等学校	494,480円
紀ノ川下流における止水域に重点を置いた水生生物調査（継続）	調査研究	和歌山県立向陽高等学校	300,000円
ヒメタイコウチの分布調査と分子系統解析、生態ニッチモデリングによる種の保全	調査研究	兵庫県立小野高等学校	500,000円
奈良県生駒市におけるツバメの子育て研究（継続）	調査研究	奈良女子大学附属中等教育学校	500,000円
都市部運河域における魚類の生息場創出に関する研究－魚類の食性に着目して－	調査研究	東京都立晴海総合高等学校	500,000円

【東京動物園協会保全パートナー部門】

助成対象活動名	助成対象者	交付額
希少哺乳動物の域外保全に寄与する精巣機能解析と精巣細胞保存方法に関する研究	東京農工大学 獣医生理学研究室	1,500,000円
オガサワラカワラヒワの飼育繁殖技術の習得及び域内調査活動（令和5年度から継続）	一般社団法人Islands care	1,500,000円

② 収入の状況

寄付金	1,909,582円	企業・個人からの寄付（収益事業からの繰入れ除く）
-----	------------	--------------------------

③ 基金残高

基金残高	94,565,597円（令和7年3月31日現在）
------	--------------------------

④ 東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会の開催

助成対象活動の選定を適正かつ公正に行うため、東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会を開催し、助成対象活動を選定した。

〔審査委員〕（令和7年3月31日現在）

役 職	氏 名	職 名
委 員 長	田 畑 直 樹	公益財団法人日本動物愛護協会 理事長
委 員	内 田 純 子	東京動物園ボランティアーズ第4期生
委 員	平 岡 考	公益財団法人山階鳥類研究所 参与
委 員	山 崎 晃 司	東京農業大学 教授
委 員	山 田 文 雄	沖縄大学 客員教授、沖縄大学地域研究所 特別研究員
委 員	杉 崎 智 恵 子	公益財団法人東京動物園協会 理事長
委 員	渡 部 浩 文	公益財団法人東京動物園協会 野生生物保全センター所長

〔審査委員会〕

開催日	議 題
3月19日	第1号議案 令和7年度助成対象活動選定について

⑤ 助成対象活動選定結果

＊令和7年2月1日～2月28日公募。6年度内に助成対象を決定し、助成金は7年度に交付。

【一般部門】

＊助成金額上限：100万円/年、助成件数：7件

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
ダイトウオオコウモリの生息阻害要因の解明－特に感電事故の急増と対策について	保全活動	大東諸島生物相研究グループ	963,000円
ペンギンを傷つけずに抱卵中の生理・心理状態を把握する手法の確立	調査研究	齋藤綾華	1,000,000円

琉球列島固有種リュウキュウヤマガメの生息状況と集団構造の解明	調査研究	栗田隆気・笹井隆秀	999,390円
アマミノクロウサギの乳はどのようにして作られるのか？-腸からのアプローチ-	調査研究	帯広畜産大学乳研究グループ	1,000,000円
アカモズの継続的なファウンダー導入と野生復帰方法の検討（継続）	保全活動	長野アカモズ保全研究グループ	1,000,000円
アジアゾウ繁殖保全に関わるタンパク質の探索 3～タンパク質挙動についての検討～（継続）	調査研究	佐藤陽子	1,000,000円
トキ・コウノトリの野生復帰をサポートするための情報収集	調査研究	蘇雲山	985,000円

【中高校生部門】

*助成金額上限：50万円/年、助成件数：合計5件

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
岐阜県海津市南濃町津屋地区清水池におけるハリヨの生態調査	調査研究	岐阜県立大垣東高等学校	285,760円
ニホンカナヘビのアロメトリー	調査研究	学校法人池田学園 池田中学校・高等学校	500,000円
天然記念物カラスバトに関する保全生物学的研究啓蒙的活動	調査研究	東京都立国分寺高等学校	500,000円
27年間のニッポンバラタナゴ保護活動から地域貢献型研究	調査研究	清風中学校・高等学校	500,000円
トウホクサンショウウオの生息環境をどのように保全するか、その最適解を求める	調査研究	仙台城南高等学校	500,000円

【東京動物園協会保全パートナー部門】

*助成金額上限：150万円/年、助成件数：3件（※3年間継続：新規1件、継続2件）

助成対象活動名	助成対象者	交付額
日本の動物園水族館で培った飼養繁殖技術を用いたシロハラサギ域外保全個体群創設の支援	シロハラサギ保全チーム	1,500,000円
希少哺乳動物の域外保全に寄与する精巣機能解析と精巣細胞保存方法に関する研究（継続）	東京農工大学 獣医生理学研究室	1,500,000円
オガサワラカワラヒワの飼育繁殖技術の習得及び域内調査活動（継続）	一般社団法人 Islands care	1,500,000円

⑥ 「東京動物園協会野生生物保全基金」成果報告会

令和5年度に完了した助成対象活動のうち10件について、成果報告講演会（令和6年12月14日）を行った。

開催日	内 容
令和6年 12月14日実施	講演① 動物園の環境条件に合わせたサンバエ活動区域の特定手法の開発：小針大助氏 講演② 国内に生息する野生鳥獣の鉛汚染状況の実態調査：牛根奈々氏 講演③ 刺し網漁による海鳥混獲の実状把握～ウミガラスとエトピリカの保全を目指して～：鈴木康子氏 講演④ オキナワトゲネズミ・ケナガネズミの域外保全を目的とした基礎研究：渡部大介氏 講演⑤ 国内希少野生動植物種アカモズの生息域外保全確立に向けたファウンダー導入：松宮裕秋氏 講演⑥ 野生メダカはいつ・どこで・どのように繁殖している？動画撮影とDNA解析から迫る：近藤湧生氏 講演⑦ アジアゾウ繁殖保全に関わるタンパク質の探索：佐藤陽子氏 講演⑧ 紀ノ川下流の止水域における生態系の研究：木村俊介氏 講演⑨ 奈良県生駒市におけるツバメの子育て研究：荻巣樹氏 講演⑩ 希少鳥類における域外保全の推進にむけた繁殖生理生態の解明——ライチョウとハシビロコウを中心に：楠田哲士

〔５〕利用者サービス

１．入場券の売改札及び利用案内・園内サービス

（１）入場券の売改札

入場券の売改札、年間パスポートの販売を行った。

【入園者数】

（単位：人）

区 分			上野	多摩	葛西	井の頭	合計	摘 要
有 料	個 人	一 般	2,010,320	411,035	625,089	350,263	3,396,707	
		中学生	86,702	4,622	14,117	1,218	106,659	
		65歳以上	157,540	35,429	36,838	40,540	270,347	
		計	2,254,562	451,086	676,044	392,021	3,773,713	
	団 体	一 般	43,143	21,477	31,805	5,505	101,930	20人以上
		中学生	814	29	638	32	1,513	〃
		65歳以上	1,310	451	3,052	562	5,375	〃
		計	45,267	21,957	35,495	6,099	108,818	
	小 計		2,299,829	473,043	711,539	398,120	3,882,531	
無 料	個 人	小学生以下	677,566	236,563	418,542	189,709	1,522,380	
		中学生	21,176	4,206	11,988	5,560	42,930	都内在住在学
		計	698,742	240,769	430,530	195,269	1,565,310	
	団 体	幼 児	37,229	36,481	26,066	18,614	118,390	
		小学生	43,149	40,737	51,430	12,670	147,986	
		中学生	37,813	2,862	10,943	429	52,047	
		計	118,191	80,080	88,439	31,713	318,423	
	特 免		102,426	34,621	48,578	32,340	217,965	身体障害者等
	その他		143,476	56,113	48,769	46,431	294,789	無料開園日等
	小 計		1,062,835	411,583	616,316	305,753	2,396,487	
	合 計		3,362,664	884,626	1,327,855	703,873	6,279,018	

【年間パスポート販売状況】

園 名	販売実績	摘 要
上 野 動 物 園	23,285 枚	一般2,400円、65歳以上1,200円
多 摩 動 物 公 園	6,934 枚	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	3,354 枚	一般2,800円、65歳以上1,400円
井の頭自然文化園	9,830 枚	一般1,600円、65歳以上 800円
合 計	43,403 枚	

(2) 有料施設等の占用等の申請受付と料金徴収

園内での写真撮影や集会所の使用申請の受付事務と入園料、使用料、占用料の徴収及び東京都への納付事務を行った。

【入園料金の徴収】

園 名	収 納 額	摘 要
上 野 動 物 園	1,174,726,620円	大人600円、中学生200円、65歳以上300円
多 摩 動 物 公 園	250,039,940 円	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	466,514,100 円	大人700円、中学生250円、65歳以上350円
井の頭自然文化園	129,058,020 円	大人400円、中学生150円、65歳以上200円
合 計	2,020,338,680 円	

【占用料・使用料の徴収】

園 名	収 納 額	摘 要
上 野 動 物 園	2,082,870 円	占用料（写真撮影等）
多 摩 動 物 公 園	1,316,308 円	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	341,494 円	〃
井の頭自然文化園	345,506 円	占用料・使用料（資料館・童心居）
合 計	4,086,178 円	

(3) 利用案内・園内サービス

園内における利用者案内、迷子相談、園内放送、救急救護、車椅子の貸出等のサービスや遺失物・拾得物対応を実施したほか、園外からの電話による問い合わせに対応、園内案内図、案内板の更新を行った。

【園内利用案内】

(単位：件)

園名	迷子相談	園内放送	入園者救護	車椅子貸出	遺失物届	拾得物届
上野	283	4,231	528	1,503	584	3,041
多摩	47	3,150	256	311	587	3,987
葛西	142	1,653	189	479	537	2,541
井の頭	75	289	116	69	282	1,634
合計	547	9,323	1,089	2,362	1,990	11,203

2. 園内の保安及び環境美化

(1) 園内巡回警備

巡回警備による整理・誘導、防犯等、入園者の安全に配慮して実施した。

(2) 園内清掃及び廃棄物搬出

園内美化を図り、園内の清掃及び収集したゴミ等の廃棄物を園外へ搬出した。また、搬出した寝藁等は専門施設においてリサイクルし、肥料化した。

3. 利用促進・PR活動

ウェブサイトやSNSによるデジタルコンテンツでの広告展開や情報発信を強化し、当協会が行っている野生生物保全に関する取組を発信することで、集客に向けた認知拡大だけでなく、都立動物園・水族園のファンを増やす取組を行った。

【Visit Zoo事業の主な施策】

実施項目	内 容
春季施策	・(公財)東京都道路整備保全公社が管理する新宿駅西口広場の行政情報掲示板において、当協会が取り組む野生生物保全活動に関するメッセージをデザインした掲示物を、年度を通して掲出した。 ・Instagram広告にて、4月26日～5月6日の間、行楽シーズンの集客及び認知向上のため、都立動物園・水族園のPR動画を活用し配信した。 ・多くの自治体で住民に登録を推奨している地域コミュニティアプリ「PIAZZA」からの公式投稿にて、4月19日～4月26日の間、4園それぞれの近隣エリアに在住の方をターゲットに、ゴールデンウィーク及び5月4日の無料開園日のPRを実施した。

実施項目	内 容
夏季施策	・カード型トラベルガイド「STAYPLUS CARD」を都内のホテル約30カ所に配架し、訪日外国人の集客、認知拡大を図った。 ・地域コミュニティアプリ「PIAZZA」において、7月12日～9月30日の間、4園それぞれの近隣エリアに在住の方をターゲットに、①都立動物園・水族園の思い出コメント募集企画、②夏休みのイベント周知、③ユーザー投稿を促進する企画「行ったよ」投稿募集企画を実施し、夏休みのお出かけ先として認知拡大を図った。 ・Instagram広告にて、8月6日～8月23日の間、3園の夜間開園イベント、井の頭の特別展デザニャーレPR及び各園のイベントページへの遷移(クリック)増を目的に、イベントビジュアル画像を配信した。 ・4園のイメージを幅広いターゲット層に伝え、来園を促進することを目的に、各園15秒のPR動画を制作。8月1日～9月22日の間、夏休み期間の各園認知拡大、葛西においては35周年のPRを目的にYouTubeで広告を配信した。
秋季施策	・各園イベントや保全の取組のPRをするため、10月1日～10月7日の間、都庁第一本庁舎1階のアートワーク台座にSDGs推進に向けたキャッチコピーやイメージビジュアルのパネルを展示した。また本年度から、都庁を訪れる訪日外国人に向けた英語版パネルを初めて導入した。 ・様々なウェブサイトやアプリ上に表示される「ディスプレイ広告」にて、10月29日～11月9日の間、井の頭夜間開園日、多摩アフリカフェアのPRを配信した。またTver広告にて葛西の35周年のPRを実施した。 ・10月25日～10月27日に東京ビッグサイトで開催された「GOOD LIFE フェア 2024 (主催：朝日新聞)」に初出展し、パネル展示、パンフレット・チラシの配布や、動物の特徴などを表現したハンズオン教材を用いた体験イベントを通じて、4園の魅力や野生生物保全の取組についてPRを実施した。
冬季施策	・1月9日～2月28日の間、4園合同企画「都立動物園・水族園 冬の周遊キャンペーン」として、7,729名が参加した『都立動物園・水族園に行こう！デジタルクイズラリー』、ハッシュタグ「#冬の周遊2025」を付けて投稿してもらい、特設サイトで紹介をする『Instagramハッシュタグキャンペーン』『野生生物保全プロジェクトの紹介』の3つの企画を実施した。『野生生物保全プロジェクトの紹介』の詳細は、(1) 特設サイトで都立動物園・水族園の野生生物を守る取組を紹介、(2) 90秒の動画を新たに8本作成し公式Instagramのリール動画で投稿、(3) 見どころデジタルマップで取組を紹介した。

事 項	摘 要
ウェブサイト	・ウェブサイト「東京ズーネット」を通じて、動物の最新ニュースや動画、イベント情報等を多くの人に向けて発信した。 ・各園の見どころや写真撮影スポット、おすすめのギフト商品等を「都立動物園・水族園 見どころデジタルマップ」で情報発信した。 ・上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」では、パンダに関する情報を掲載したほか、ジャイアントパンダ保護サポート基金についても広くアピールした。 ・葛西臨海水族園の混雑予想カレンダーを掲載し、快適な観覧のための情報を提供した。 ・X(旧Twitter)による4園の情報発信を通じて、即時性のある情報をタイムリーに配信した。 ・YouTube上の「東京ズーネット公式チャンネル」において、ジャイアントパンダの最新情報など、動物園・水族園の魅力を動画配信した。 ・Instagramを4園共通アカウント及び上野動物園アカウントとして運用し、園内や事業の魅力を伝える写真や動画の投稿を行った。
広 告 物	・東京都内の幼稚園・保育園へ配布する携帯型クーポン冊子「ハッピープレゼントクーポン東京版」(都内の幼稚園・保育園850園に納品、約90,000部配布)のGW号・夏休み号・秋号・冬休み号に広告を掲出、年間パスポートのほか、夏休み号には3園の夜間開園延長をPRした。 ・新宿駅西口広場のブライトサインにて、当協会が取り組む野生生物保全への活動をメッセージにしたデザインを通年で掲示した。 ・東京観光情報センターの4施設(東京都庁、バスタ新宿、京成上野、多摩)のデジタルサイネージにて、各園のPR動画を通年で放映した。 ・八王子駅北口ビジョンにて、各園のPR動画を通年で放映した。 ・上野動物園では、上野公園内の常設看板や東京メトロ銀座線上野駅通路「文化の杜路」において、イベントや特設展に関する情報掲示を行った。掲出する情報がない期間には、公式SNSを紹介するポスターを掲示した。 ・多摩動物公園では、京王線近隣主要駅及び多摩モノレール主要駅に、サマーナイトをPRするポスターを7月下旬～8月中旬まで掲出、アフリカフェアをPRするポスターを10月中旬～11月10日まで掲出した。なお、アフリカフェアでは、ポスター掲出に合わせSNS等のインターネット広告、新聞広告、デジタルサイネージでの情報発信も行った。また、3月にららぽーと立川立飛の館内サイネージにおいて多摩動物公園PR動画を放映した。 ・葛西臨海水族園では、開園35周年を記念して制作した動画広告を8月～10月にJR主要駅(東京駅、品川駅等)やWEB広告で放映した。また、地域の協力を得て、35周年記念ポスターを葛西臨海公園内施設や江戸川区内の地元小学校、商

事 項	摘 要
	業施設に掲出した。さらに、昨年度に引き続き、JR東日本と連携し、JR葛西臨海公園駅構内のディスプレイモニターで展示生物を紹介する映像を放映したほか、駅に隣接する商業施設「Ff（エフエフ）」において、葛西臨海水族園オリジナル商品のディスプレイを継続して実施し、利用促進を図った。 ・井の頭自然文化園では、デザインをリニューアルした年間パスポートについて、9月に東京新聞WEBサイトに記事広告を掲出するなど利用促進に取り組んだ。10～11月には秋の夜間開園のPRとしてInstagram等のSNSやディスプレイ広告等のインターネット広告、吉祥寺駅改札ホール内の大型デジタルサイネージ、地域情報紙への広告、近隣施設へのポスター掲出などを展開した。1年を通して吉祥寺駅北口ビジョンに、4園連携特設展示「ようこそデザニャーレ」や園のPR動画を放映した。PR動画は3月に親子目線での来園をテーマとした新版が完成し、吉祥寺駅北口ビジョンや八王子の駅前ビジョンのほか、公式HP、東京ゾーンネットYouTubeチャンネルで公開した。
そ の 他	・繁忙期における休園日の臨時開園（上野6日、多摩5日、葛西5日、井の頭1日）、開園時間延長（上野13日、多摩11日、葛西9日、井の頭10日）を実施した。 ・「雨の日サービス」として、各園のX（旧Twitter）を利用して展示やイベントに関する予定変更の情報、雨の日の展示動物の様子や「雨の日ならではの楽しみ方」等に関する情報発信を実施した。 ・訪日外国人来園者の動向を把握するため、定量調査（4園）、定性調査（上野）及びオンラインチケット購入者の国別推計調査を実施した。 ・訪都旅行者向けに、都立動物園・水族園紹介パンフレット「Tokyo Zoos & Aquarium」（英語・中国語〔繁体・簡体〕・韓国語及び日本語）を東京都観光案内所等で配布した。

4. 広報広聴

園内動物の繁殖や催物等についての広報発表、取材対応のほか苦情や意見への対応を行った。

（1）主な広報発表

園 名	発表日	件 名
上 野	6月28日	日本初！野生のニホンライチョウからの精液採取と人工繁殖に成功！
	7月11日	夏の特別イベント「真夏の夜の動物園」
	8月30日	恩賜上野動物園「リーリー」と「シンシン」の返還について
	3月18日	コビトカバのナツメが出産しました！

園 名	発表日	件 名
	3月25日	オガサワラカワラヒワの飼育を開始しました
	その他、合計24件	
多 摩	4月25日	アムールトラが生まれました！
	4月25日	ライオンバス運行開始60周年記念イベント
	4月25日	アフリカゾウの抜牙処置を行います
	9月2日	世界初！アズマモグラの飼育下繁殖
	9月5日	インドサイが生まれました！多摩動物公園では50年ぶりの出産！
	その他、合計26件	
葛 西	4月30日	4年後のリニューアルオープンに向けて、葛西臨海水族園の整備事業が本格始動します
	7月19日	「海とつながる。アートをめぐる。ー Harmony with Nature ー」 4万本の向日葵と4つのアートが織りなす世界ー2024年8月2日（金）～18日（日）に葛西臨海水族園・葛西臨海公園にて開催！ー
	7月19日	世界2例目！！ミナミイワトビペンギンの凍結精子を用いた人工授精の成功
	8月8日	開園記念日イベント「All About MAGURO 35th Anniversary」開催！
	2月12日	葛西臨海水族園 開園35周年記念・サンゴプロジェクト合同イベント「かさりん BASE! サンゴ」開催！
	その他、合23件	
井の頭	4月25日	開園82周年と累計入園者数6,000万人を記念したイベントを開始します
	4月25日	水生物館特設展「身近な外来生物 アメリカザリガニ」を開催します
	9月12日	ツシマヤマネコ保全講演会「動物園と生息地をつなぐ」 開催！
	10月10日	「ちょっとおでかけ 秋の夜長の自然文化園」を開催します！
	2月27日	アマミトゲネズミを公開します
	その他、合計10件	

（２）苦情・意見への対応

園内に設置した意見箱やウェブサイト「東京ゾーネット」に寄せられた苦情・意見について、関係部署へ周知するとともに対応策を検討し、園内環境やサービスなどの改善に努めた。また、データベースを活用しサービスの改善・充実を図ったほか、各園に寄せられた主なご意見ご要望及びそれに対する回答と対応について、月毎にウェブサイト「東京ゾーネット」への掲載を行った。

〔 6 〕 安全・安心の確保

令和 6 年度は「危機管理委員会の下、自然災害、人為災害、サーバー攻撃や各種感染症等への的確な対策を講じ、来園者・動物・職員の安全第一の考えに基づく不断の業務改善を行う」ことを組織方針の一つに掲げ、安全・安心の確保に努めた。

（ 1 ） 動物事故再発防止対策

令和元年 8 月に多摩動物公園インドサイ舎において発生した飼育職員の死亡事故を受け、動物事故再発防止 PT による再発防止策として令和 2 年に策定した「動物事故再発防止対策」に基づき、危機管理委員会下にある「動物事故・感染症対策部会」において定期的に進捗状況を確認し、安全管理の徹底を図った。

【動物事故再発防止対策】

区分	対策	具体的内容
特定動物等のより安全な管理方法の構築	飼育管理のルール化	・種毎に危険度に応じたルールを設定し、同場に関するルールを定める。 ・飼育作業におけるリスクアセスメントを実施し、それを踏まえた「安全作業マニュアル」を作成する。
職員が安全に作業できる施設・設備の整備	物理的遮蔽	・管理通路にライン塗装し、通常の作業ではラインより動物舎側に立ち入らないこととする。 ・スクイーズケージや柵場の導入など、物理的遮蔽手段を検討する。
	職員の状況把握のための取組	・カメラによるモニターシステムを導入する。 ・複数の動物舎を担当する職員がどこで作業をしているか把握するための作業スケジュール表を作成する。
	非常時連絡システムの導入	・転倒時通報機能や音声発信機能を有したスマートウォッチを順次導入する。 ・既存の PHS に位置情報通知機能等を追加する。
職員の安全を確保するための取組及び体制の確立	作業時の安全確保体制	・インドサイ舎の飼育体制について、2 名の担当者を置いた。 ・班の担当する飼育作業を共同で行う「グループ制」若しくはリスクの高い作業を抽出し、班の柵を超えた 2 ～ 3 名の職員が対応する「ユニット制」の導入を検討する。
	施設改修や補修の計画的実施	・毎年作成している施設改修の全体計画に、随時提出される個別の工事・作業依頼を反映させ、柔軟に施工準の見直しを行う。
	引継ぎの体系化	・引継ぎ書類の内容を統一化し、それぞれの動物種の課題・懸案事項を着実に引き継げる体制とする。
職員の安全意識の向上	職員の情報共有等の仕組み	・職員の作業予定や体調など、班員同士が情報共有を図るため「班ミーティング」を毎日決まった時間に実施する。
	ヒヤリハット事例の収集と共有	・ヒヤリハット事例の収集と共有のルールを策定し、事故防止に活用する仕組みを構築する。
	作業の安全性の客観的な検証	・飼育管理のルール化において実施する飼育作業のリスクアセスメントにおいて定めるリスク提言措置について、年に 1 回実施状況確認を行う。

	継続した安全意識の確保	・安全意識向上につながる研修を毎年実施する。 ・事故の発生した8月25日を「安全の日」と定め、黙とうや訓示を実施し、事故の記憶の風化を防止する。
--	-------------	---

今後も、上記「動物事故再発防止対策」の進捗状況について、「動物事故・感染症対策部会」に定期的に確認し、安全管理の徹底を図る。

(2) 事業継続 (BCP)

震災、テロ等の大規模災害の発生を想定し、備蓄品の確保や見直しを行ったほか、各種訓練の実施を通して災害対応力を向上させた。

令和6年度には事業継続計画を見直し、災害発生時に優先して行うべき対応を「事前対策」と「事後対策」に分け、それぞれの項目を整理して、分かりやすくまとめた。

また、近年の無差別殺傷事件数の増加等を踏まえ、警察と連携したテロ対策訓練を4園それぞれで実施した。さらに各園にて冬季の発生を想定した震災対策訓練を実施し、必要備品の確認を行うとともに、災害発生時の体制や役割、対応の流れを再確認した。

訓練名	開催日	目 的
テロ対策訓練 (第1回訓練)	上 野：6/3 葛 西：6/19 多 摩：7/10 井の頭：12/9	テロの発生抑止と対応力の向上を目的として実施 ・サスマタ演習等初動対応の確認 ・警察等関連機関との連携強化
参集訓練	総務部・4園：11/12	参集経路の確認と参集者によるオンラインでの本部運営訓練を実施
震災対策訓練 (第2回訓練)	総務部：10/21 葛 西：12/4 上 野：1/27 井の頭：2/3 多 摩：2/5	首都直下型地震の発生を想定し、災害対応力の向上を目的として実施 ・災害発生時の体制や役割、対応の流れを再確認 ・初動対応及び災害対策本部運営の確認 ・消防等関連団体との連携強化
無線通信訓練	総務部・各園：毎月	災害対応力の向上を目的として実施
安否確認訓練	総務部・各園：5回	災害対応力の向上を目的として実施

(3) 災害対策

台風や大雨等の気象警報発令時等には、巡回点検や職員の事務所待機を行い災害時に備えるとともに、被害復旧対応を行った。

(4) 情報セキュリティ対策

社会状況の変化やセキュリティ技術の向上を受け、情報資産に対する新たな脅威に対応すべく「サイバーセキュリティ対策基準、サイバーセキュリティ安全管理措置 (ガイドライン)」の改定を行った。また、専門業者による「サイバーセキュリティ外部監査」や「サイバーセキュリティ脆弱性診断」などのセキュリティ対策を実施した。

(5) 工事等安全衛生対策

上野労働基準監督署より講師を招いて講習会（オンライン）を行い、園内で工事や作業を行う指定店事業者の安全衛生対策の強化を促した。

講演「建設業における労働災害の防止について」

参加者数：180名（内、協会職員22名）

(6) 工事等事故防止対策

過去の事故事例を教訓に、園内作業における事故防止対策を積み重ねている。事故防止のため、協会職員と受注者が共通の安全管理意識を持って、組織的に安全対策に取り組んでいる。

また、危機管理委員会の下に置かれた、事故防止対策部会において、維持管理部門における安全管理の年間取組計画や重点管理目標を定め、定期的に進行管理を行うなど、各種の安全管理対策に取り組む、事故防止の徹底を図った。

主な対策等 ・受発注者の立ち合いによる安全対策の事前確認

- ・朝礼や終礼でのKY活動等の強化
- ・特記仕様書による事故防止対策指示の強化
- ・指定店契約時の意識啓発（安全管理計画等）
- ・熱中症防止対策の強化
- ・自動車事故防止対策の強化
- ・工事安全パトロールの実施（4回）
- ・維持管理担当者向けのeラーニングの実施
- ・ヒヤリハット事例集の作成・周知

(7) 園内施設・設備の維持管理

① 定常的維持管理

施設や設備を適切に保守し、利用者の安全と快適性を確保するために、以下の園内施設の維持管理業務を行っている。

園 名	主 要 施 設	主要維持管理業務
上 野 動 物 園	・敷地面積：144千㎡ ・パンダ舎、ホッキョクグマとアザラシの海、クマ舎、ゾウ舎、アイアイのすむ森 等 ・両生爬虫類館 ・管理センター ・不忍池	・設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） ・補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） ・設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） ・不忍池水質管理 ・設備点検 ・保護管理（植込地、花壇） ・危険樹点検対応 他
多 摩 動 物 公 園	・敷地面積：601千㎡ （含む七生公園） ・オランウータン舎、コアラ館等 ・ライオン園 他	・設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） ・補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） ・設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） ・設備点検

園 名	主 要 施 設	主要維持管理業務
	・昆虫生態園 ・丘陵地	・保護管理（植込地、芝生地、花壇） ・危険樹点検対応 他
葛 西 臨 海 水 族 園	・敷地面積：86千㎡ ・水槽数：47（45） マグロ水槽、世界の海、ペンギン池 他 ・ポンプ数：水処理用244台（216） 給排水用53台（36） （ ）内数値：水辺の自然廃止後	・設備補修（冷凍機、水処理 他） ・施設補修（水槽、漏水、排水、園内不陸 他） ・設備保守（中央監視、水処理、展示システム、排水処理、オゾン設備 他） ・設備点検 ・保護管理（植込地、芝生地、花壇） ・危険樹点検対応 他
井 の 頭 自 然 文 化 園	・敷地面積：116千㎡ ・大放飼場 ・彫刻館 ・リスの小径 ・資料館 ・水生物館	・設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） ・補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） ・設備保守（機械、水処理、放送 他） ・設備点検 ・保護管理（植込地、花壇） ・危険樹点検対応 他

② 集中的維持管理

設備補修や地球温暖化対策等を行うとともに、ナラ枯れ処理、鳥インフルエンザ対策等の集中的な修繕を行った。

園名	No.	修 繕 施 設	概 要
上 野	1	動物舎	フラミンゴ舎鳥インフルエンザ対策補修工事
	2	放飼場	東園ゾウ放飼場電牧柵補修工事
	3	観覧園路	バイソン舎前園路補修工事
	4	工作物	東園藤棚デッキ補修工事
多 摩	1	工作物	モグラの家デッキ補修工事
	2	動物舎	カモ池鳥除けネット設置工事
	3	放飼場	インドサイ舎幼獣用転落防止柵ほか設置工事
	4	樹林	樹林地維持管理委託（ナラ枯れ対応）
葛 西	1	展示水槽	ペンギン放飼場展示水槽アクリル補修工事
	2	建物	本館1階事務所前天井ほか補修工事
	3	循環設備	マグロ循環配管ほか補修工事
	4	電気設備	レストハウス電気設備工事
井の頭	1	動物舎	本園和鳥舎改修並びに分園ツル舎・カモ舎補修工事
	2	電気設備	分園高圧引込開閉器補修工事
	3	工作物	ハクチョウデッキガラス補修工事
	4	樹林	御殿山通り沿い大径木越境枝剪定委託

〔 7 〕 受託業務

1. 恩賜上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトにおける業務受託

東京都からの受託により、都と中国野生生物保護協会の間で締結された「ジャイアントパンダ保護研究実施の協力協定書」に基づく研究プロジェクトについて、上野動物園におけるジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトの進展状況報告書の作成、ジャイアントパンダの病気に係る専門家招聘、親2頭の返還輸送業務、評価・検証会議の開催業務、飼育下におけるジャイアントパンダの飼育管理及び繁殖に関する研究の実施と報告書の作成業務を実施した。

項 目	内 容
件 名	ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトにおける業務の委託に関する年度協定 (令和6年度)
業 務 内 容	ジャイアントパンダの飼育、管理及び健康等の状況報告、研究協力プロジェクトの進展状況報告書の作成、中国側との連絡業務、病気に係る中国側の専門家招聘の業務、親2頭の返還業務、評価検証会議の開催業務。
協 定 金 額	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日
協 定 金 額	115,610,000円
受 領 額	96,504,409円

2. 多摩動物公園へのスリランカゾウの導入支援事業における受託に関する協定

東京都がスリランカ民主社会主義共和国から導入するスリランカゾウ2頭を、多摩動物公園に導入するための支援事業について都と協定を締結したが、スリランカ民主社会主義共和国内の情勢が安定せず、当該業務は遂行できなかった。

項 目	内 容
件 名	多摩動物公園へのスリランカゾウの導入支援事業における委託に関する協定
業 務 内 容	スリランカゾウの輸送、スリランカゾウ専門家の招聘業務、報告書の作成。
期 間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日
協 定 金 額	22,240,000円
受 領 額	0円 ※履行に至らず。

3. 大島公園動物園動物飼育管理業務受託

東京都大島支庁からの受託により、大島公園動物園における展示動物の飼育管理やイベントの対応等を行った。

項 目	内 容
件 名	大島公園動物園動物飼育管理業務委託
業 務 内 容	大島公園動物園の展示動物の飼育及びこれに関する管理業務
期 間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日
委 託 金 額	57,420,000円

4. 葛西臨海水族園（仮称）整備等事業の支援業務受託

東京都からの受託により、葛西臨海水族園（仮称）整備等事業に関して、設計等に係るモニタリング支援、助言等技術支援、維持管理・運営に関する技術的支援、開園に向けたPR業務等を実施した。

項 目	内 容
件 名	葛西臨海水族園（仮称）整備等事業の支援業務に関する年度協定（令和6年度）
業 務 内 容	① モニタリング支援、助言等技術的支援 ② 各種計画策定支援 ③ 生物調達・移転業務 ④ 維持管理・運営に関する技術的支援 ⑤ 開園に向けたPR業務 ⑥ 中間報告 ⑦ 報告書の作成 ⑧ その他、本件業務委託の実施に当たり必要な業務
期 間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日
協 定 金 額	74,767,000円
受 領 額	74,366,600円

5. 公園施設のイベント企画・運営に関する業務受託

東京都からの受託により、ガラスドーム・プロジェクトの実施、本プロジェクトに関するPR業務、効果測定、報告書の作成を実施した。

項 目	内 容
件 名	公園施設のイベント企画・運営に関する協定
業 務 内 容	① ガラスドーム・プロジェクトの実施 ② 本プロジェクトに関するPR業務 ③ 効果測定・分析 ④ 報告書の作成
期 間	令和6年6月13日 ～ 令和7年3月31日
協 定 金 額	79,981,000円
受 領 額	79,981,000円

第3 収 益 事 業

I. 事業総括

上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園の利用者の利便性と公益目的事業の充実のために、以下の事業を実施した。

事業区分	事業細目		
	園名	種別	箇所数
I. 便益施設の経営	(1) 上野動物園	(1) 売店	3
		(2) 飲食店	2
		(3) 臨時売店	1
		(4) 自動販売機コーナー	12
		(5) ベビーカー貸出所	3
		(6) コインロッカー	2
		(7) フォトサービス	1
		(8) 写真（映像資料）貸出	1
	(2) 多摩動物公園	(1) 売店	4
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	5
		(4) 自動販売機コーナー	12
		(5) ベビーカー貸出所	1
		(6) コインロッカー	1
		(7) ライオンバス	1
		(8) フォトサービス	1
	(3) 葛西臨海水族園	(1) 売店	2
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	1
		(4) 自動販売機コーナー	2
		(5) コインロッカー	2
		(6) フォトサービス	1
	(4) 井の頭自然文化園	(1) 売店	2
		(2) 臨時売店	3
		(3) 自動販売機コーナー	3
II. その他事業	(1) 上野動物園内広告事業（広告施設9箇所）		
	(2) 協賛金募集事業（ジャイアントパンダ保護サポート基金等）		

Ⅱ．事業実績

〔１〕 便益施設等の経営

収益事業の売上高は、物価高騰による販売価格の上昇にも拘らず好調に推移し、インバウンド需要にも支えられ、前年度を大きく上回る結果となった。また、園外における販売活動や映像コンテンツを活用した受注生産での通信販売を引き続き実施するとともに、園外販売の専任部署の設置に向けた準備を進めた。さらに、今後のインバウンド需要を見据えた商品開発や販売促進に役立てるため、商品販売データの収集を開始した。

上野動物園では、インバウンド需要や団体利用の回復を受け、利用者満足度を高めるため、販売商品の充実に加え、年間を通じた様々な園内イベントに合わせた商品展開を行った他、飼育展示係や教育普及係と連携し、動物のことを「伝える」取組を強化した。具体的には、「シャオシャオ・レイレイ」3歳記念商品や「リーリー・シンシン」の中国返還時に「ありがとう商品」を発売した。「世界ゾウの日」には、上野と多摩の飼育担当係、教育普及係が共同で開発した、アジアゾウとアフリカゾウの違いを学べる知育商品を販売した。さらに、レストランでは11月から2月の期間中、兵庫県でコウノトリの野生復帰を支援する「コウノトリ育むお米」を使用したメニューを提供し、利用者に環境保全について考えるきっかけを提供した。

多摩動物公園では、企画展や「ライオンバス運行開始60周年記念」「コアラ来園40周年記念」に関連したオリジナルグッズやオリジナルメニューを展開した。また、当園で50年ぶりに生まれたインドサイの仔「デコポン」の名前にちなみ、JA熊本果実連が商標を所有するデコポン®(柑橘類)を使用したスイーツやドリンクを販売した。さらに、サバンナキッチンでは、試験運用を行っていた注文待ち時間を緩和する整理券システムを本格的に導入し、利用者サービスの充実を図った。また、ライオンバスの利用促進と利便性向上策として、WEB上で空席状況を確認できる案内とオンラインでの乗車券販売を開始した。

葛西臨海水族園では、開園35周年を記念して、ギフトショップでオリジナルグッズを販売し、レストランでは、開園当時の人気メニュー「アップルドーム」を再販した。さらに、環境への配慮を目的とした取組として、レストランでは東京都産食材を積極的に使用したメニューの販売を継続し、地産地消の推進に取り組んだ。ギフトショップでは、北海道羽幌町で回収された海洋プラスチックを活用したアクセサリなど、環境に配慮した商品を充実した。また、スタッフの夏用ユニフォームにも廃漁網を一部再利用した素材を採用し、環境保護への意識を高める取組を進めた。

井の頭自然文化園では、当園らしいデザインを活かしたオリジナル商品や、特設展「ようこそデザニャーレ」に合わせたインハウスデザイナーによる商品を展開した。また、フード商品に季節に応じたオリジナルメニューを積極的に導入し、訪れる楽しさを提供した。さらに、環境保護に配慮した商品展開の一環として、ツシマヤマネコの保全活動と連携し、夜間開園イベントにおいて原材料に対馬産の米と柚子を含むクラフトビールを販売した。ギフト商品としては「ヤマネコ米」や「対馬紅茶」など、環境への配慮と地域貢献に資する商品も提供した。そのほか、繁忙日にはケータリングカーを活用し、来園者の状況に応じた柔軟かつ効率的な店舗運営を行った。

1. 施設及び収入額

(単位：千円)

園 名	施 設 名	収 入 額
上 野 動 物 園	1. 1号売店（店名：リトルトランク） 2. 2号売店（店名：カメレオン） 3. 東園中央広場売店（店名：バードソング） 4. 飲食店第1号（店名：さるやまキッチン） 5. 飲食店第2号 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. コインロッカー 10. フォトサービス 11. 写真（映像資料）貸出 12. その他（通信販売事業を含む）	2,413,817 （この内、通販 は45,728）
多 摩 動 物 公 園	1. 1号売店（店名：コアラ館下売店） 2. 2号売店（店名：ライオンカフェ） 3. 3号売店（店名：コレクション） 4. 4号売店（店名：ズーカフェ） 5. 飲食店（店名：サバンナキッチン） 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. ライオンバス 10. コインロッカー 11. フォトサービス 12. その他	725,885
葛西臨海水族園	1. 1号売店（店名：アクアマリン） 2. 2号売店（店名：アクアスケープ） 3. 飲食店（店名：シーウインド） 4. 臨時売店 5. 自動販売機コーナー 6. コインロッカー 7. フォトサービス 8. その他	684,905

井の頭自然文化園	1. 1号売店（店名：はな子カフェ） 2. 2号売店（店名：こもれび） 3. 自動販売機コーナー 4. その他	116,164
合 計		3,940,771

2. 商品取扱状況

（単位：点）

区 分		上野 動物園	多摩 動物公園	葛西 臨海水族園	井の頭 自然文化園
取扱商品数		1,090	1,465	1,440	323
内 訳	ギフトその他	902	1,317	1,358	261
	飲 食 品	188	148	82	62

〔2〕その他の事業

1. 上野動物園内広告事業

上野動物園の案内誘導サイン等の整備費用に充てるため、園内に設置した下記の広告掲示施設により、広告料金による民間からの資金を得た。

種 別	設 置 場 所	数 量
動物解説ボード	ジャイアントパンダ、ニホンザル、ヒガシクロサイ、アジアゾウ、ニシゴリラ、ワシ・タカ、キリン・オカピ、ハシビロコウ	8 基
環境啓発ボード	モノレール東園駅前	1 基
収 入 額	2,467 千円	

2. 協賛金募集事業

ジャイアントパンダ保護サポート基金を活用した事業展開のため、園内普及啓発ボードによる協賛や園外でのロゴマーク協賛を実施した。

収 入 額	4,000 千円
-------	----------

第4 決 算 概 要（正味財産増減計算書）

（単位：千円）

科目	公益目的 事業会計	収益事業 会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
（1）経常収益				
基本財産運用益	2,557	—	4,254	6,812
特定資産運用益	150	—	—	150
受取会費	10,111	—	—	10,111
事業収益	310,559	3,947,238	—	4,257,797
受取寄付金	52,993	—	—	52,993
受取委託料	7,208,970	—	226,308	7,435,278
雑収益	6,591	12,155	34	18,780
経常収益計	7,591,930	3,959,393	230,597	11,781,920
（2）経常費用				
事業費	7,860,101	3,396,047	—	11,256,148
管理費	—	—	340,183	340,183
経常費用計	7,860,101	3,396,047	340,183	11,596,330
評価損益等	0	△16,150	0	△16,150
当期経常増減額	△268,170	547,196	△109,586	169,440
2. 経常外増減の部				
経常外収益	2	0	0	2
経常外費用	67	6,661	72	6,801
当期経常外増減額	△66	△6,661	△72	△6,799
他会計振替額	228,008	△338,677	110,669	0
税引前当期一般正味財産額	△40,228	201,858	1,011	162,641
法人税等	—	220	—	220
法人税等調整額	—	△6,824	—	△6,824
当期一般正味財産増減額	△40,228	208,462	1,011	169,245
一般正味財産期首残高	132,419	1,011,985	303,126	1,447,531
一般正味財産期末残高	92,191	1,220,448	304,138	1,616,776
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金	29,650	0	0	29,650
一般正味財産への振替額	52,993	0	0	52,993
当期指定正味財産増減額	△23,343	0	0	△23,343
指定正味財産期首残高	254,667	0	0	254,667
指定正味財産期末残高	231,324	0	0	231,324
III 正味財産期末残高	323,515	1,220,448	304,138	1,848,100

（注）千円単位未満を四捨五入しているため、合計欄の数値と内訳を足し上げたものが一致しない場合がある。

第5 事 務 報 告

I. 役員会議の開催

〔1〕 評議員会

回	開催月日	議 題
第1回 定時評議員会	6月27日	(1) 令和5年度決算報告(案)について 監査報告 (2) 理事・監事の選任について (報告事項) 令和5年度事業報告について
書面決議	2月14日	(1) 定款の一部変更について (2) 会計監査人の選任について (3) 常勤理事の報酬に関する規程の一部改正について (4) 常勤理事の報酬総額の変更について
書面決議	3月24日	(1) 理事の選任について (2) 常勤理事の報酬に関する規程の一部改正 (3) 常勤理事の報酬総額の変更について

〔2〕 理 事 会

回	開催月日	議 題
第1回 通常理事会	6月11日	(1) 令和5年度事業報告(案)について (2) 令和5年度決算報告(案)について 監査報告 (3) 定時評議員会の開催について (報告事項) 理事長及び常務理事の職務状況報告
書面決議	6月27日	(1) 理事長の選定について (2) 常務理事の選定について
書面決議	7月19日	(1) 顧問の選任について
書面決議	1月30日	(2) 評議員会の開催について
書面決議	2月28日	(1) 常勤理事の報酬額の変更について
書面決議	3月17日	(1) 評議員会の開催について

回	開催月日	議 題
第2回 通常理事会	3月27日	(1) 令和7年度事業計画（案）について (2) 令和7年度収支予算（案）について (3) 資金調達及び設備投資の見込みについて (4) 常務理事の選定について (5) (4) で選定した常務理事の報酬額について (6) 会計監査人の報酬額について (7) 役員賠償責任保険の加入について (8) 諸規程の一部改正について (9) 参与の委嘱及び報酬額について (報告事項) 理事長及び常務理事の職務状況報告

〔3〕評議員選定委員会

回	開催月日	議 題
第1回	5月24日	(1) 評議員の退任に伴う後任評議員の選任について

Ⅱ. 監 査

〔1〕公認会計士下村久幸氏・岸徹氏と監査契約を締結し、公認会計士による会計帳簿・証憑書類の試査、実地棚卸立会、現金実査、銀行残高確認等の外部監査を実施した。

〔2〕令和5年度の事業報告及び決算報告について、5月28日に監事による監査を実施した。

Ⅲ. 人事関係

〔１〕 就任・退任

① 評議員の就任

役職名	氏 名	就任月日	摘 要
評 議 員	上 林 山 隆	５月31日	東京都建設局次長
〃	根 来 千 秋	５月31日	東京都東部公園緑地事務所長

② 評議員の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
評 議 員	細 川 卓 巳	３月31日	東京都西部公園緑地事務所長

③ 理事・監事の就任

役職名	氏 名	就任月日	摘 要
理 事	都 村 智 史	６月27日	京王電鉄株式会社代表取締役社長
理 事	黒 田 慶 樹	３月27日	東京都建設局総合調整担当部長

④ 理事・監事の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
理 事	加 藤 奂	６月27日	京王電鉄株式会社特別顧問
理 事	鷺 谷 い づ み	６月27日	東京大学名誉教授
理 事	筧 直	３月31日	公益財団法人東京動物園協会常務理事

⑤ 会長の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
会 長	貫 洞 哲 夫	５月1日	元東京都副知事（死去）

〔２〕役員等名簿（令和７年３月３１日現在）

○総 裁 常陸宮正仁親王

（１）評 議 員

No.	氏 名	摘 要
1	林 良 博	国立科学博物館顧問
2	内 山 晟	動物写真家
3	久 邦 彦	漫画家・絵本作家
4	遠 藤 秀 紀	東京大学総合研究博物館教授
5	今 泉 忠 明	日本ネコ科動物研究所長
6	林 公 義	皇居内生物学研究所
7	三 浦 慎 悟	早稲田大学人間科学学術院名誉教授
8	打 越 綾 子	成城大学法学部教授
9	竹 内 伸 子	絵手紙作家
10	村 松 真 貴 子	公益社団法人全国公民館連合会副会長
11	平 井 純 子	駿河台大学副学長・スポーツ科学部教授
12	曾 根 は じ め	東京都議会環境・建設委員長
13	上 林 山 隆	東京都建設局次長
14	根 来 千 秋	東京都東部公園緑地事務所長
15	細 川 卓 巳	東京都西部公園緑地事務所長
16	矢 岡 俊 樹	公益財団法人東京都公園協会理事長

（２）評議員選定委員会

No.	氏 名	摘 要
1	清 水 眞 澄	成城大学名誉教授、三井記念美術館館長
2	会 田 保 彦	ヤマザキ動物看護大学名誉教授
3	久 邦 彦	漫画家・絵本作家
4	須 賀 光 一	上野のれん会会長
5	矢 島 剛	公益財団法人東京動物園協会総務部長

(3) 理事・監事

No.	役職名	氏 名	摘 要
1	理 事 長	杉 崎 智 恵 子	前東京都収用委員会事務局長
2	常 務 理 事	笥 直	元東京都環境局環境改善部長
3	常 務 理 事	松 山 俊 樹	前公益財団法人東京動物園協会事業調整担当部長
4	理 事	菅 谷 博	茨城県立自然博物館名誉館長
5	〃	見 城 美 枝 子	青森大学名誉教授、エッセイスト
6	〃	長 谷 川 寿 一	東京大学名誉教授
7	〃	西 源 二 郎	公益財団法人新潟市海洋河川文化財団理事
8	〃	都 村 智 史	京王電鉄株式会社代表取締役社長
9	〃	村 井 良 子	有限会社プランニング・ラボ代表取締役
10	〃	尾 崎 清 明	公益財団法人山階鳥類研究所副所長
11	〃	佐 々 木 珠	東京都建設局公園緑地部長
12	〃	黒 田 慶 樹	東京都建設局総合調整担当部長
1	監 事	須 賀 光 一	上野のれん会会長
2	〃	半 田 昌 之	公益財団法人日本博物館協会専務理事
3	〃	荒 井 芳 則	東京都建設局総務部長

(4) 顧 問

No.	氏 名	摘 要
1	小 池 百 合 子	東京都知事
2	浅 倉 義 信	元公益財団法人東京動物園協会理事長
3	藤 井 芳 弘	元公益財団法人東京動物園協会理事長
4	羽 仁 進	映画監督・評論家

(5) 正会員

〔賛助会員〕 上 田 浩 上 田 憲 治 上 田 清 一 関 斎（令和6年4月死去）
 〔特別会員〕 篠 永 哲

Ⅳ. 組 織 概 要

〔１〕 協会の機構

○ 総 裁 常陸宮正仁親王

機関名	名 称	人数等	摘 要
1. 議決・監督 機関	評 議 員 会	16 名	
2. 執 行 機 関	理 事 会	12 名	理事長・常務理事を含む
	理 事 長	1 名	
	常 務 理 事	2 名	
	事 務 局	4 部 15 課 51 係	
3. 諮 問 機 関	顧 問	4 名	
4. 監 査 機 関	監 事	3 名	
5. 協 力 機 関	賛 助 会 員	3 名	
	特 別 会 員	1 名	
	準 会 員	4,196 名	東京動物園友の会会員

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

【事務局】



〔 3 〕 事務局職員数

(単位：人)

固有職員			都派遣職員			合 計		
職 員	嘱託員	計	職 員	再雇用	計	職 員	嘱託員 再雇用	合 計
263	142	405	84	0	84	347	142	489

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

